

寝屋川市

高宮遺跡（その2）

一般国道1号バイパス（大阪北道路）・第二京阪道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

財団法人 大阪府文化財センター

序 文

「高宮遺跡（その2）発掘調査」は、国道1号バイパス（大阪北道路）および第二京阪道路の建設に先立つ埋蔵文化財調査のひとつとして、平成十四年度に当センターがおこないました。この大阪北道路は、大阪府門真市・寝屋川市・四條畷市・交野市・枚方市を経て京都府久御山町（近畿道門真J.C～久御山J.C）へとつながります。事業予定地内には、随所に各時代の指標となる資料を伴う遺跡の存在が知られていますが、これまでの発掘調査により、その実態が徐々に明らかとなってまいりました。

今回の調査地である高宮遺跡は、寝屋川市高宮・小路地区に位置する周知の遺跡であり、周辺ではこれまでにも何度かの発掘調査が手がけられてきました。この地域は、白鳳期に建立されたと推測される高宮廃寺をはじめ、弥生時代の遺物が表採された小路遺跡、西にひろがる讚良郡条里遺跡など、バラエティに富んだ遺跡群が集まる歴史色豊かな土地として知られています。なかでも昨年度、当センターがおこなった高宮遺跡（その1）発掘調査では、大型掘立柱建物を有する古代豪族の居館跡とみられる遺構が確認され、古代史上においても重要な位置を占める地域であることが明らかとなりましたが、今回の高宮遺跡（その2）発掘調査区は（その1）調査区に隣接しており、関連する遺構および遺物の出土が多くみられました。その成果を本書において皆様にお知らせします。埋蔵文化財の発掘調査に対するより深いご理解が得られることを願ってやみません。

最後に、調査にあたってご助力・御協力をいただきました関係諸機関・地元関係各位に深く謝意を表します。

2004年3月

財団法人 大阪府文化財センター
理事長 水野正好

例　　言

1. 本書は、一般国道1号バイパス（大阪北道路）・第二京阪道路建設予定地内のうち、寝屋川市高宮・小路地内においておこなった「高宮遺跡（その2）発掘調査」の報告書である。
2. 発掘調査は、国土交通省近畿地方整備局浪速国道事務所の委託を受け、大阪府教育委員会文化財保護課指導のもとに、財團法人大阪府文化財センターが実施した。
3. 発掘調査および整理作業は、財團法人大阪府文化財センターが実施し、中部調査事務所調査第一係が所管した。発掘調査は、中部調査事務所長藤田憲司、調査第一係長一瀬和夫の指示の下、同係技師黒須亜希子と専門調査員宮本飛鳥が担当した。また、本書作成に係わる整理作業は、京阪支所長渡邊昌宏、調査第一係長宮野淳一の指示の下、技師黒須、専門調査員宮本が行った。また、本書の執筆は黒須・宮本が分担し、編集は黒須がおこなった。
4. 本書で用いた遺構写真は、黒須・宮本が撮影したが、遺物写真については、中部調査事務所主査片山彰一が撮影したものである。
5. 出土木製品の保存処理および樹種鑑定については、中部調査事務所主査山口誠治と専門調査員仁田恵子が行った。また、自然科学分析については、株式会社パレオ・ラボに委託した。
6. 調査の実施および報告書の作成については、関係諸機関をはじめ以下の方から多大な御教示および御協力を賜った。記して感謝の意を表する。

泉 拓良（奈良大学教授）・濱田延充（寝屋川市教育委員会）
8. 以下の当センター非常勤職員（専門調査員）には、現地調査および整理作業について協力を得た。

小暮律子、島田裕弘、小野亜由美、永井見子
9. 調査に関わる遺物・写真・カラースライド・実測図等は、財團法人大阪府文化財センターにおいて保管している。広く利用されることを希望するものである。

凡　　例

1. 本書に掲載した地形図・遺構実測図・その他の図に付された方位は、全て座標北を示している。
2. 当センターがこれまでにおこなった一般国道1号バイパス（大阪北道路）・第二京阪道路建設に伴う確認調査の座標値は、すべて国土座標第VI系を基準として設置したものである。なお、今回設置した調査区の位置等については、これまでの確認調査に倣い、日本測地系による表記を用いた。
3. 本書に掲載した遺構実測図の基準高（レベル値）は、東京湾平均海面であるT.P.+の数値を使用した。
4. 本書の作成に関しては、当センターが定める「遺跡調査基本マニュアル」の報告書体裁に従った。但し、調査区の名称や表現方法については、実際の現地調査時の呼称等と齟齬が生じることを考慮し、本書ではあえて現地名称を使用した箇所がある。
5. 本書で使用した土壤色の記述は、すべて「小山正忠・竹原秀夫編『新版標準土色帳』第15版（通商産業省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修）」を使用した。
6. 本書に掲載した図面や写真図版の縮尺率については、図中にスケールを掲げ、縮尺率を明記した。

目 次

第1章 調査に至る経緯と調査方法	1
第1節 調査に至る経緯と経過	1
第2節 調査の方法	4
第2章 調査地周辺の地理と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境（文献資料より）	7
第3節 歴史的環境（考古学的成果より）	8
第3章 調査の概要と基本層序	10
第1節 調査の概要	10
第2節 基本層序	17
第4章 調査成果	18
第1節 旧石器時代～縄文時代の遺構と遺物	18
第2節 弥生時代～古墳時代前期の遺構と遺物	28
第3節 古墳時代後期～古代の遺構と遺物	36
第4節 中世の遺構と遺物	55
第5節 近世～近代の遺構と遺物	66
第5章 自然科学分析報告	70
第6章 総括	71

挿 図 索 引

第1図 調査地位置図	1
第2図 調査地周辺の既往調査地位置図	3
第3図 調査区設置図	4
第4図 調査地周辺の地形図	5
第5図 調査地周辺の地形分類図	6
第6図 北河内地域の古代郡郷比定図	7
第7図 調査地周辺の遺跡分布図	9
第8図 A区壁断面図	11
第9図 B区壁断面図	13
第10図 1B区中央壁・1C区壁・2B区検出縄文谷断面図	15
第11図 基本層序模式図	17
第12図 縄文時代遺構平面図	19

第13図	縄文時代流路断面図(1) ······	20
第14図	縄文時代流路断面図(2) ······	21
第15図	縄文時代流路断面図(3) ······	22
第16図	出土遺物実測図(縄文土器) ······	23
第17図	出土石器実測図(1) ······	23
第18図	出土石器実測図(2) ······	24
第19図	出土石器実測図(3) ······	25
第20図	出土石器実測図(4) ······	26
第21図	出土石器実測図(5) ······	27
第22図	古墳時代前期遺構平面図 ······	29
第23図	周溝墓平面断面図(1) ·出土遺物実測図 ······	30
第24図	周溝墓平面断面図(2) ······	31
第25図	周溝墓平面断面図(3) ······	32
第26図	周溝墓平面断面図(4) ······	33
第27図	出土遺物実測図(弥生時代～古墳時代前期) ······	35
第28図	古墳時代後期～古代 遺構平面図 ······	37
第29図	古代遺構平面断面図(1) ······	38
第30図	古代遺構平面断面図(2) ······	39
第31図	古代遺構平面断面図(3) ······	40
第32図	古代遺構平面断面図(4) ······	42
第33図	古代遺構平面断面図(5) ······	43
第34図	古代遺構平面断面図(6) ······	44
第35図	古代遺構断面図(7) ······	45
第36図	古代遺構平面断面図(8) ······	46
第37図	古代遺構平面断面図(9) ······	47
第38図	古代遺構平面断面図(10) ·出土遺物実測図 ······	49
第39図	出土遺物実測図(古墳時代後期) ······	51
第40図	出土遺物実測図(古代 1) ······	52
第41図	出土遺物実測図(古代 2) ······	53
第42図	出土遺物実測図(古代 3) ······	54
第43図	中世遺構平面図 ······	57
第44図	建物 1 柱穴平面断面図 ·出土遺物実測図 ······	59
第45図	土坑42・井戸43 平面断面図 ·遺物出土状況図 ······	60
第46図	土坑40・井戸41 平面断面図 ·遺物出土状況図 ······	61
第47図	井戸43(土坑43) 出土遺物実測図 ······	62
第48図	土坑40・土坑42 出土遺物実測図 ······	63
第49図	出土遺物実測図(中世 1) ······	64
第50図	出土遺物実測図(中世 2) ······	65

第51図 出土遺物実測図（近世～近代1）	67
第52図 近世～近代遺構平面図	68
第53図 出土遺物実測図（近世～近代2）	69
第54図 調査地周辺の遺構平面図（縄文時代）	72
第55図 調査地周辺の遺構平面図（古墳時代初頭期）	73
第56図 調査地周辺の遺構平面図（奈良時代～平安時代）	74
第57図 調査地周辺の遺構平面図（中世）	75

表 索 引

表1 放射性炭素年代測定および曆年代校正の結果表	70
表2 出土遺物一覧表（土器）	76
表3 出土遺物一覧表（石器）	92
表4 国道1号バイパス（大阪北道路）・第二京阪道路建設に伴う既往の埋蔵文化財確認調査一覧表	94

写 真 図 版 索 引

写真図版1	1. 1A区第2面（近世～近代）全景（北東から） 2. 2A区第2面（近世～近代）全景（北東から）
写真図版2	1. 1B区第1面（近世）全景（西から） 2. 1B区第3面（古代～中世）全景（西から）
写真図版3	1. 1A区第3面（中世）建物1検出状況（北東から） 2. 1A区井戸41・土坑42・井戸43検出状況（南東から）
写真図版4	1. 土坑40遺物出土状況 2. 井戸43瓦器椀出土状況 3. 井戸43木製槽出土状況 4. 井戸43石・土師器皿出土状況 5. 井戸43曲物出土状況（東から）
写真図版5	1. B区第4面（古墳時代後期～古代）全景（北から） 2. 土坑85馬齒出土状況 3. 土坑368土師器壺出土状況 4. 土坑400断ち割り状況 5. 土坑400土師器皿出土状況
写真図版6	1. 1B区第5面（縄文時代）流路完掘状況（西から）

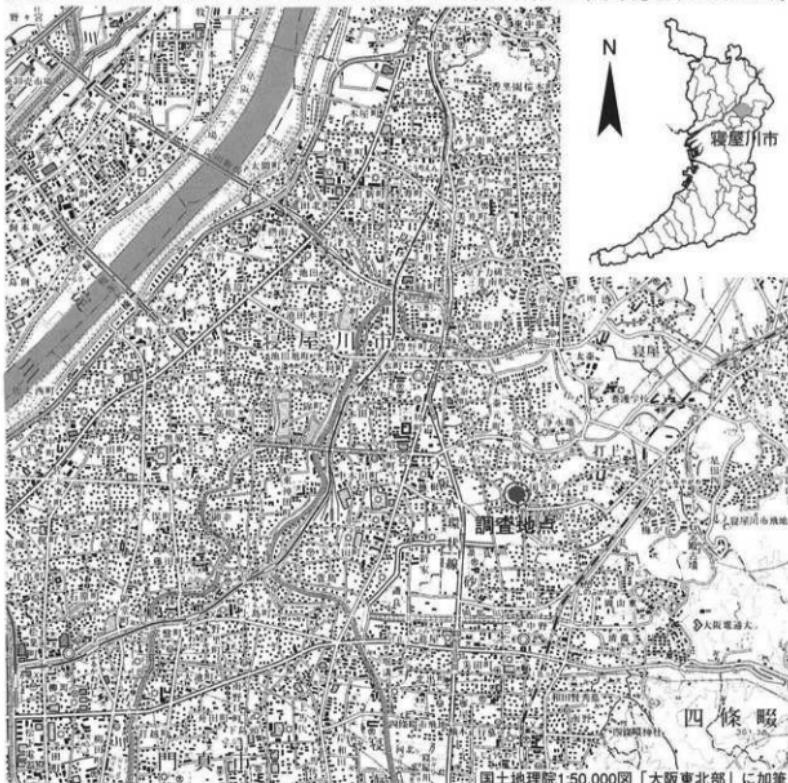
- 2. 須恵器坏蓋出土状況
 - 3. 溝420上層石列検出状況
 - 4. 周溝墓 2 供献土器出土状況
 - 5. 繩文谷風倒木検出状況
- 写真図版 7 1. 出土遺物（縄文土器）
 2. 出土遺物（弥生土器・土師器）
- 写真図版 8 1. 出土遺物（石器）
- 写真図版 9 1. 出土遺物（土師器）
 2. 出土遺物（須恵器 1）
- 写真図版10 1. 出土遺物（須恵器 2）
 2. 出土遺物（須恵器 3）

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯と経過

高宮遺跡（その2）発掘調査は、一般国道1号バイパス（大阪北道路）とそれに併行して建設される第二京阪道路の予定地について、工事に先立ち、埋蔵文化財の調査を実施したものである。

国道1号バイパス（大阪北道路）・第二京阪道路とは、京都府久御山町から枚方市を経て交野市・寝屋川市を横断し、近畿自動車道路門真I.Cへと繋がる区間において建設が計画されている国道および自動車専用道路である。現在、淀川左岸のいわゆる北河内地域を通って大阪から京都へと移動するには、片道3車線を有する国道1号線を北上するのが一般的なルートであるが、この車道は交通量の多さから慢性的に渋滞するため、早くから自動車専用道路の必要性が唱えられてきた。これに伴い、国土交通省近畿地方整備局浪速国道事務所は、道路建設を計画し、用地買収と併行して事業予定地における埋蔵



第1図 調査位置図

文化財の確認調査を継続的におこない、必要に応じて発掘調査を実施した。現段階では、京都府内の予定地においては調査を完了し、巨椋池LCから枚方東LCまでは開通をみている。

大阪府内では、これまで当センターが、平成8年度に一般国道1号の一部である府道深野南寺方大阪線～大阪中央環状線間における道路整備に伴う調査（門真市三ツ島地先）を行ったのをはじめとして、7年間にわたり、事業予定地内において確認調査をおこなってきた。その成果は、現在整理作業途中のものも含め、順次報告されつつあるが、この内容に基づき、本調査が計画され実施されることとなった。今回の高宮遺跡（その2）発掘調査もそのひとつである。

高宮遺跡は、寝屋川市高宮および小路地区に位置する周知の遺跡であり、早くから諸機関によって発掘調査が行われてきた。その端緒は、昭和28年、大阪府教育委員会によって行われた高宮廃寺の調査である。その結果、高宮廃寺は薬師寺式の伽藍配置を持つ白鳳寺院であることが確認され、鎌倉時代にも一時再興されたことが明らかとなった。また、断続的に行われた寝屋川市教育委員会の調査では、高宮廃寺周辺に古墳時代から古代にかけて營まれた集落の存在が確認された。その出土遺物の多様さから、古代豪族が起居した可能性が指摘されている。

なお、高宮遺跡は、基本的には高宮地区およびその北側丘陵に立地する高宮廃寺跡を中心とした範囲を指すが、その南側には現小路地区を主とする「小路遺跡」が控え、さらに西側には讚良郡条里遺跡が広範囲にわたって存在する（第7図参照）。このため当センターでは、平成12年度、道路建設に先立ち遺構の性格を把握するための確認調査を、高宮地区・小路地区・国守町・打上地区の範囲にわたって実施した（第2図参照、「平成12年度小路遺跡確認調査」「讚良郡条里遺跡確認調査（その1・その2）」）。結果、そのほぼ全域にわたって、縄文時代から中世までの遺物を伴う遺構・包含層を確認した。特に高宮遺跡範囲内では、奈良時代から中世にいたる良好な遺構群の残存が明らかとなり、全面発掘調査が計画された。

平成13年度、当センターは、今回の調査地とは里道を隔てて東接する台地上において「小路遺跡（高宮地区）発掘調査」を事業名とする調査を行った（以下、本書では混乱を避けるためにこの調査を通称である「高宮遺跡（その1）発掘調査」と呼称する）。その結果、縄文時代の河川跡や古墳時代の竪穴住居址、古代の大型建物跡、鎌倉期の集落跡等を検出した。また、後期旧石器時代に属するナイフ形石器をはじめとして、古墳時代・奈良時代・中世期所産の遺物が多量に出土した。このうち、古代（7世紀末～8世紀後半）に相当する遺構において検出された大型掘立柱建物群は、古代官衙的要素を備えた施設であったことを想起させ、注目を集めた。このことは、公的機関が十分に確立されていなかった奈良時代前半期において、在地の有力豪族の居館がこの地にあったことを裏付けるものでもある。さらに、鎌倉時代の屋敷跡および火葬墓が検出され、中世においても雄族が起居した事実を示すこととなった。

これらの成果から、今回の調査においても連続する遺構・遺物の出土が十分に期待された。

高宮遺跡（その2）発掘調査は、現地調査を平成14年5月から11月までおこない、併行して出土遺物の洗浄や注記作業を現地詰所内でおこなった。また調査終了後は、中部調査事務所内において整理作業を継続しておこない、本書の作成を進めた。

また、本書の編集作業および遺物の収納・登録作業については、第二京阪道路関連事業を主体業務とする京阪支所内において遂行し、平成16年3月・本書の刊行をもって一連の作業を終了した。

第2節 調査の方法

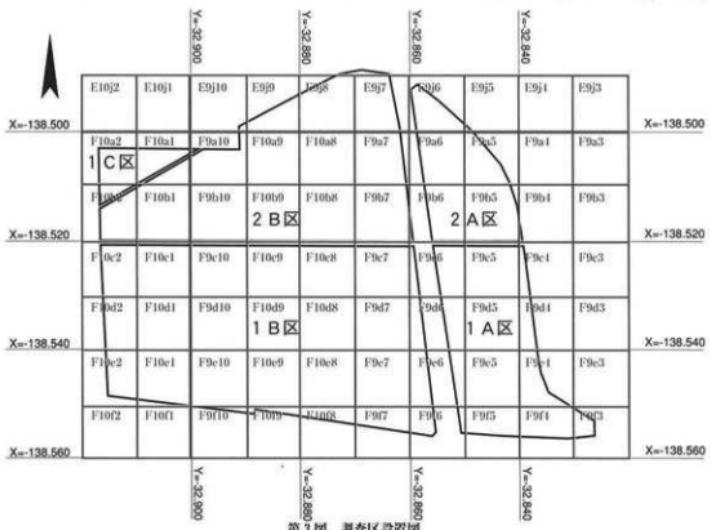
今回の調査の地区割については、これまで当センターが行ってきた方法を踏襲した。従って、平面図に記した座標値は、日本測地系の国土座標第VI系を基準としている。また、水準については、T.P.(東京湾平均海面)を使用した。

当初、調査区は、対象地内を既設用水路が縦断することと、排土置場確保の都合上、2回の反転を要したことから1A区・1B区・2A区・2B区の4調査区に分けて掘削をおこなった。しかし、調査進行中に、2B区北側部分の計画路線外地点に確保した歩道橋設置用地についても調査を行う旨の指示を受けたため、これを1C区として新たに設定した。即ち、最終的には調査対象地を5分割して掘削をおこなうこととなった。

掘削の方法は、まず重機によって現代耕土および擾乱土を除去し、近世包含層より以下は人力による掘削を行った。因みにこの擾乱には、一昨年度におこなった確認調査トレンチの埋戻土も含まれている。人力掘削は、はじめに調査区周囲の排水および土層観察をおこなうために個溝を設け、ここから得られた情報をもとに層位を分類し、順次包含層の掘削除去をおこなった。層位・層序の名称は、機械掘削層除去面を第1面とし、第1面以下の包含層を第1層、第1層除去面を第2面と呼称することとした。

遺物は、国土座標に準拠した10m四方のグリッドを設定して各層位・面ごとに採り上げ、各々番号を付して記録した。また、遺構内から出土した遺物については個別に採り上げ、登録番号を付した。遺構面については、可能な限り平面実測図を作成し、四方の壁については断面図を作成した。検出した遺構は分割して掘削をおこない、断面観察の後、適宜実測図を作成した。

尚、今回の調査では、明確に遺構を検出した中世遺構面と古代遺構面について、ヘリコプターによる上空からの写真撮影および写真測量をおこない、50分の1スケールの平面図を作成した(計3回)。



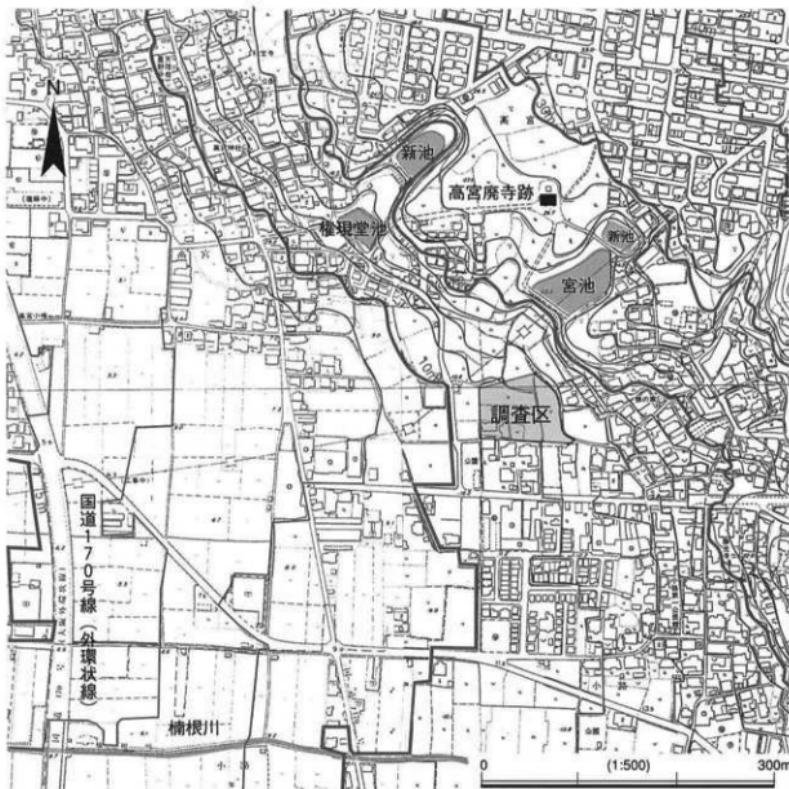


第2図 調査地周辺の既往確認調査位置図

第2章 調査地周辺の地理と環境

第1節 地理的環境

寝屋川市は淀川左岸地帯に位置しており、一般に「北河内」と称される地域に含まれる。市の東側には大阪府と奈良県を隔てる生駒山地を控え、市域の東半部は、生駒山より派生する丘陵地帯である。この丘陵からは、讚良川・楠根川・岡部川・清滝川・打上川などの小河川が源を発して低地へと流入し、豊かな扇状地を形成した。市域の西半部は、淀川へと続く沖積低地(河内平野の一部)であるが、今回の調査地は、丘陵地が平野へと移行する地形の変化点に位置している。北側と東側に丘陵を控えるため、北東地点がもっとも高く、南西へ向かってゆるやかに傾斜する。このため、調査地内の標高も北東部が最も高く(T.P.12.6m)、南西隅が最も低い(T.P.10.5m)。中世から近世期に進められた条里区画のため、



第4図 調査地周辺の地形図

現在では四角形に整えられた土地割が目をひくが、それ以前は扇状地形を活用した棚田が広がっていたと考えられる。

第5図は、寝屋川市史付図を参考として作成した地形分類図である。これを見ると今回の調査区は、段丘崖と扇状地性微高地、谷底平野から成ることがわかる。谷底平野とは、小河川が平野へと流れる際に削り込んで形成した凹地が徐々に埋没し、谷間の平地となった部分である。現在、宮池と称される灌漑用人工池が築かれている地点を始点とする谷底平野の先端が調査区内にまで延びており、調査区内において、扇状地性微高地へと変化している。今回の調査では、この谷底平野の延びと同様の方向性をもった谷状地形が一部に認められた(第4章第1節参照)。即ち、谷地形の開削が縄文時代中期以前に遡ることが立証され、この地形分類図の推測が当該地点において確認される結果となった。また今回の調査では、2 A区の北東部において洪積層とみられる黄褐色の砂礫まじり粘土層を確認したが、2 A区より西南側の1 B区では、この洪積層がオリーブ黄色砂質シルト層の下へ急降下して潜り込み、目視することが不可能となった。このことは、段丘崖から扇状地性微高地への変化を端的に示しているといえる。即ち、今回の調査地は、種々の状況に起因する変化点を有しており、これが土地利用の変遷に深い影響を及ぼしていることが想像された。



第5図 調査地周辺の地形分類図

第2節 歷史的環境(文献史料より)

ここでは、古代の歴史文献史料に記されている当地域の様相を紹介する。

「高宮」という地名は、平安時代に編集された『和名類聚抄』に、すでに郷名として記されている。この書には、奈良時代の河内国が讃良・茨田・交野・若江・河内・渋川・志紀・丹比・大県・高安・古市・石川・錦部・安宿の15郡に分割されていたと記されている（江戸時代には讃良・茨田・交野・河内・高安・大県の6郡を上河内と呼び、近代に讃良・茨田・交野の3郡を合併して北河内郡と称した）。

高宮郷は山家・甲可・牧岡・石井郷とともに讃良郡の範疇に含まれている。石井郷は不明であるが、高宮郷は寝屋川市高宮・小路地区に、山家郷は大東市寺川・野崎地区に、甲可郷は四條畷市中野・南野地区に、牧岡郷は四條畷市砂・岡山地区に比定されている。西方の茨田郡との間には河内湖の名残である深野池等の湖沼が介在しており、集落は丘陵裾部に沿って南北に連なり形成されたと考えられている。

「讚良郡」の地名は、『日本書紀』欽明天皇二三年七月条に「河内国更荒郡鶴野邑新羅人」についての記述が見え、天武天皇一三年条には「娑羅羅馬倒造」の人名があり、持統天皇八年条には「河内国更荒郡（評）、白き山鶲を獻ず」の記事がある。これらの記述からは、「讚良」の地名が古くは「サララ」もしくは「サララ」と訓まれ、馬の飼育に関与する渡来系一族がこの地に居住していたことを示している。持統天皇はその諱を鶴野讚良皇女といい、当地に起居した一族との関係が注目される人物であるが、その母親は蘇我石川麻呂の女である。蘇我石川麻呂は、大臣蘇我馬子が河内石川に起居する渡来人集団出自の女性との間に設けた子であるが、その孫皇女に「讚良」の名が与えられたということは、その下地として河内国内における渡来人集団同士の密接な交流関係があったことを前提とせねばならない。いずれにせよ、律令体制樹立前夜において、有力氏族と渡来人集団の結合（あるいは従属）が展開され、各々利潤を追求した状況が推察できるであろう。なお、讚良郡衙の位置については、河内平野を一望でき、かつ清滌街道を経て大和へと繋がる丘陵上に位置していたのではないかとする説が有力である。讚良郡内には式内社が6社と白鳳・奈良時代建立の廢寺が4寺伝えられているが、このうち、現IR片町線忍ヶ丘駅西方の圓山地区には讚良寺跡があり、郡衙比定地の一候補地となっている。

また、各郷には郷家が置かれたことが知られている。今のところ、明確に郷家跡と判明した遺構は全国的にみても多くはないが、ある事例では、その土地の有力豪族の居館とみられる建物群の一角から郷名を記した墨書土器等が出土したことから、その豪族が郷長の任にあり、屋敷地の一角を公的空間として使用していたことが判明した。

一概には言えないが、今回の調査地周辺は、白鳳寺院を背後に控えた丘陵斜面地にあたり、昨年度の調査によって大型掘立柱建物を有する居館跡が検出されていることから鑑みても、郡衙あるいは郷家など、何らかの公的性格を備えた造構が存在する可能性が十分に考えられる地点である。



第6図 北河内地域の古代郡郷比定図

第3節 歴史的環境(考古学的成果より)

次に、今回の調査地周辺に位置する遺跡群について、その考古学的成果をふまえて記述したい。

旧石器時代 交野台地の縁辺部には、旧石器時代の遺物が確認されている遺跡が多く立地する。高宮遺跡・讃良川遺跡・忍ヶ丘駅前遺跡からは、翼状剥片を加工した国府型ナイフ形石器が出土した。すべて原位置を保つものではないが、この付近が濃密な国府期遺物の分布地であることを示す資料である。

繩文時代 気温の寒暖によって汀線が大きく変動した時代である。繩文土器の出土は、東に位置する丘陵傾斜地から外環状線までの距離において多く確認されている。讃良川遺跡では、中期初頭～後期初頭の貯蔵穴が検出されており、船元式を主体とした土器が多量に出土した。繩文時代に存在したと推測される河内清沿いに展開する集落遺跡として貴重な調査事例である。讃良川の南岸に位置する砂遺跡からは、繩文時代中期の船元式を中心とする土器群のほか鷹島式の五角形底部が出土し、地面に置かれたような状態での石皿、集石遺構などが検出された。また、晩期の滋賀里式深鉢の壺棺や数基の土坑墓も検出された。

また、平成12年度に当センターが実施した讃良郡条里遺跡確認調査（その1・その2）において出土した繩文土器は、中期～後期に属するものであり、鷹島式・船元II式・星田式に分類される。讃良川遺跡との関係も含め、広範囲にわたって繩文遺跡が展開していた可能性を示す資料である。

なお、調査地東側の高宮遺跡（その1）調査地内では、丘陵据部を蛇行して南側へと流出する繩文時代中期とみられる流路が検出されており、石礫等の出土もみられた。

弥生時代 弥生時代には、河内湾は河内潟へと姿を変え、これを眼下に控えた当地には、大規模な水田開発を主業とする集落が展開された。これにより、集落の主体は丘陵地より低地へと移行したと考えられている。調査地より北西へ1.2kmを隔てた長保寺遺跡からは、畿内第三～第五様式にいたる土器片が出土した。また、閃緑岩製大型船刃石斧の一部出土も報告されている。遺構は未検出であったが、弥生時代の集落が形成されていたことを示す資料である。また、高宮遺跡の南側に接する小路遺跡では、昭和52年に、畿内第V様式に分類される壺・甕・高坏等が住民の手によって表採された。

平成13年度、当センターがおこなった讃良郡条里遺跡確認調査（その3）では、新家地区において弥生時代前期に遡る水田遺構を検出し、小畦畔と無数の足跡を確認した。この水田区画は少なくとも調査地距離約0.7kmの範囲に及んでおり、広大な耕作面積を有する集落の存在を示唆している。

古墳時代 調査地より南西へ1.5kmを隔てた藤屋北遺跡では、近年大阪府教育委員会の調査が進められているが、古墳時代中期（5世紀後半）の「木製輪籠(わあぶみ)」が出土し、乗馬の使用が確認された例として報告された。朝鮮半島系の土器片や製塙土器も多数出土しており、生駒山麓から周辺地域にかけて起居した渡来人集団と馬の飼育に関する資料として注目されている。また、前述の長保寺遺跡では、14棟の掘立柱建物と群集土坑墓を有する古墳時代後期の集落が検出され、初期須恵器や陶質土器が注目すべき出土遺物として報告された。さらに井戸枠に転用された準構造船の舳先の出土があり、当該地域における港湾施設の存在を示唆する事例となった。なお、高宮遺跡（その1）調査区内からも、初期須恵器を伴う住居址が確認された。

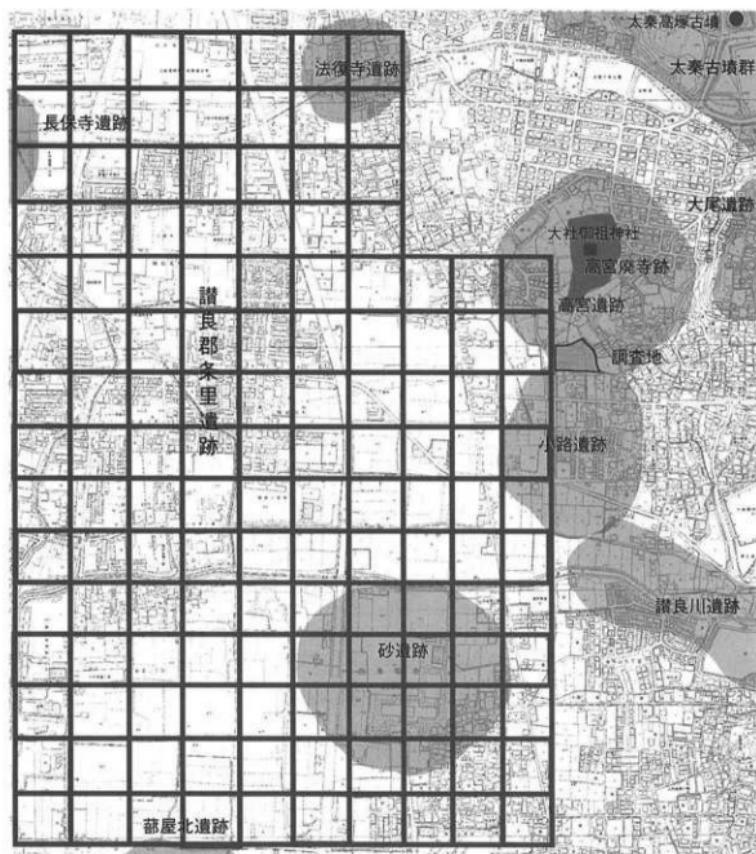
古代 調査地の北側丘陵上に位置する高宮廐寺跡は、薬師寺式伽藍配置をもつ古代寺院である。出土した瓦から創建は白鳳時代にまで遡ると推定されているが、寺域の西側では、同時期から奈良時代まで統く集落跡が確認されている。高宮遺跡（その1）調査区では、前述の通り大型掘立柱建物跡と大規模な

整地跡を検出しており、当該地域に起居した有力豪族の存在を物語る。

また、前述の長保寺遺跡では、飛鳥時代～平安時代末期に至るまでの期間において集落が営まれ、このうち奈良時代の遺構面においては、14棟を数える掘立柱建物が検出された。

中世 高宮遺跡（その1）の調査では、鎌倉時代の屋敷跡や烏帽子を副葬した土壙墓等を検出した。前述の高宮廃寺は平安時代に一時廃絶した後、鎌倉時代に再び寺院が築かれたことが確認されているが、これと盛衰を同じくする高宮遺跡（その1）の動向は興味深い。また、高宮遺跡の東に接する大尾遺跡では、擂鉢を伏せて埋納した同時期の火葬墓が検出された。

尚、13～14世紀頃には周辺地域において条里に則した水田地割が営まれていたことが明らかとなってきており、精力的な水田整備が行われた時期として中世村落の動向を捉えることができる。



第7図 調査地周辺の道路分布図

第3章 調査の概要と基本層序

第1節 調査の概要

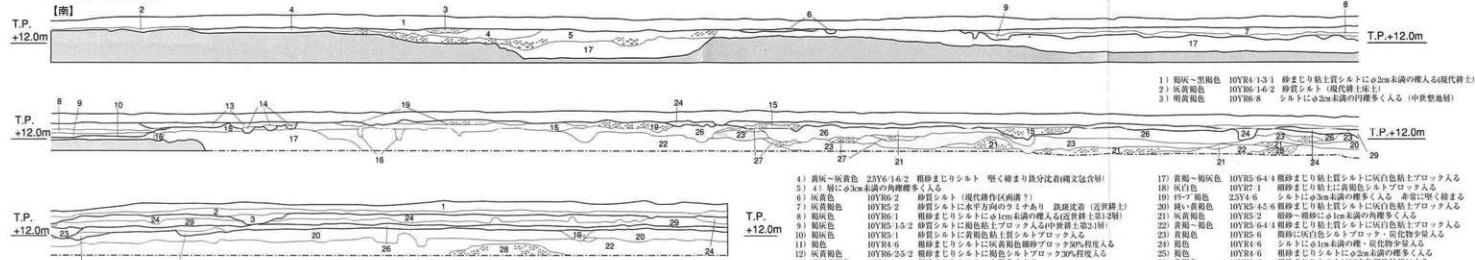
今回の調査地は、住宅地として使用されていた南西部の一角をのぞき、近年まで水田耕作が営まれていた区画にあたる。4000平米余りの面積の中に9枚の水田が設けられており、各々素掘りの用水路と段差によって階段状に区切られている。堆積層の遺存状態は極めて良好であり、大きな搅乱といえば、住宅基礎の一部と一昨年度に当センターがおこなった確認調査トレンチの掘削跡が見られる程度であった。

作業はまず、調査区南半部にあたる1A区および1B区の表土(調査不要土層)除去に着手した。重機を使用して掘削をおこなったが、この時点で、1A区の東側では早くも地山と見うけられる黄褐色を呈する堆積層が一部で露出した。しかし、わずか15mを隔てた1A区の西側では、中世耕作土が50cm程度堆積する状況がみられ、改めて基礎地盤が相当の傾斜をもって南西方向へと下がっていることを認識した。1A区の西端とは既設水路および約1.2mを測る段差をもって区切られた1B区の東端部では、1A区西端と同様、現代耕作土除去面において縄文時代対応層が露出したが、1A区とは違い、その土質はオリーブ黄色を呈するしまりの良い砂質シルト層であった。1B区では東端より10m程度を経た地点から中世耕作土の堆積が見られ、これがそのまま西端まで連続して認められた。傾斜は1A区よりはやや緩んだものの、1B区の西端における、中世包含層の厚さは約70cmを測った。

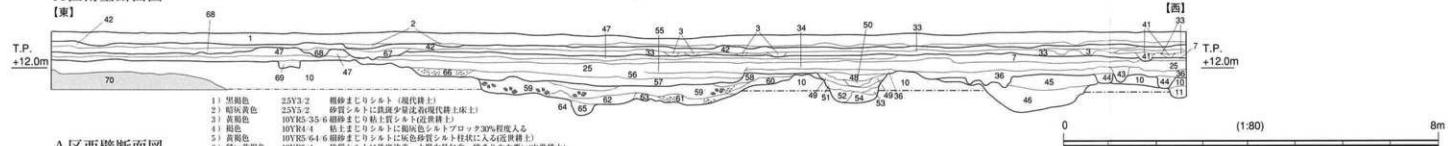
1A区および1B区では、近世水田面を1面、中世水田面を2面検出し、中世包含層を除去した面において、古墳時代後期から古代に至るまでの遺構面を検出した(第3面)。しかし、この遺構面の直下には希薄な第3層を挟んで縄文時代中期にさかのほる流路が錯綜する状況が明確にみられたため、中世の鏑溝と古代の溝・土坑・ピット、古墳時代初頭の周溝、縄文流路等が相互に切り合い、絡み合う複雑な様相を呈した。この遺構面(第3面)で第1回目の航空撮影および写真測量をおこない、統いて第3層(古代包含層)の掘削に着手した。また、南接する小路遺跡(その3)調査区内において、古墳時代初頭の前方後方形周溝墓が検出され、その一角が当調査区内にまで延びていることが判明した。このため、古墳時代の周溝墓群を捉える目的をもって第2回目の航空測量を実施した(第4面)。その後は掘削深度がさほど深くなかった1A区および1B区東半部の調査を先行して終了し、その作業と併行して2A区および2B区の重機掘削をおこなった。

2A区は1A区よりもさらに基礎地盤が高く、その北西部では縄文時代対応層さえ削平されており、現代耕土除去面において早くも洪積層の露呈を確認した。2B区は近代の水田区画整備のために削平された部分が多くいたため、古代以前の堆積層である第3層と、中世耕作土(第1層・第2層)の堆積は、南西部にのみ厚さ約10~20cmを測る程度で残存していた。1B区と同様、2B区でも第3面・第4面において、埋没した縄文流路と谷状遺構・古墳時代初頭の周溝・古代のピット・中世の鏑溝を検出した。中世以降の耕地開削によって古代のピットは浅く残る程度であったが、供獻器を有する周溝墓一基と古代末期の土器埋納土坑が削平を免れて一部残存しており、貴重な史料を得ることができた。この段階で2A区および2B区と1B区の西半部を対象として、第3回目の航空測量をおこなった。また、事業者との協議により、隣接する歩道橋敷設用地を新たに調査区として設定し、掘削をおこなった(1C区)。

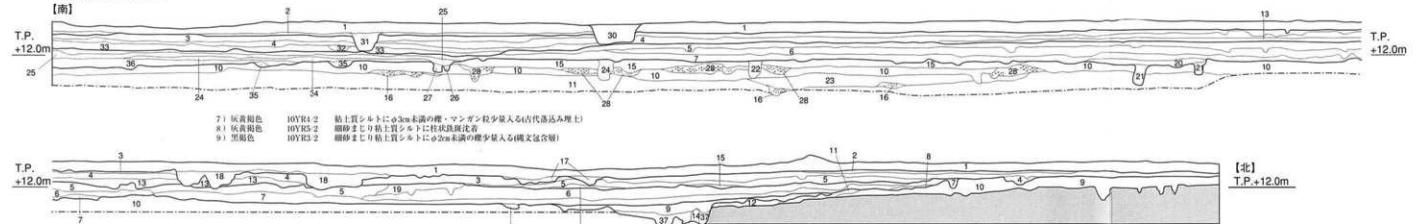
A区東壁断面図



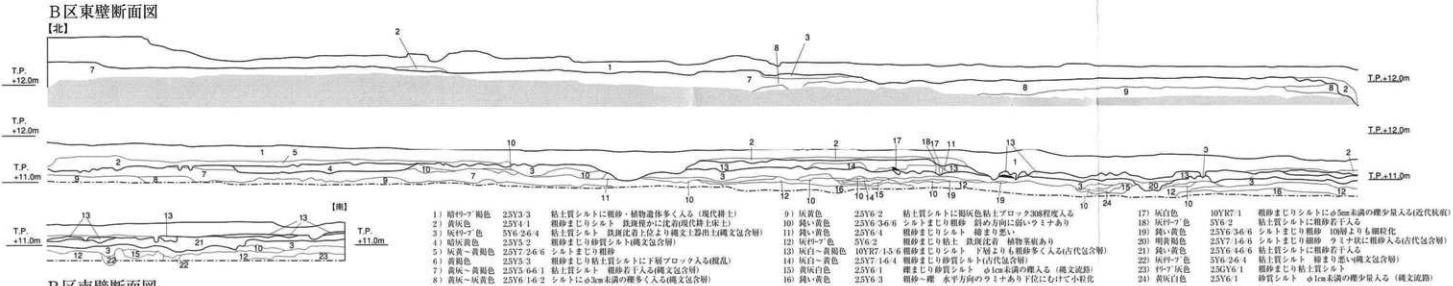
A区南壁断面図



A区西壁断面図

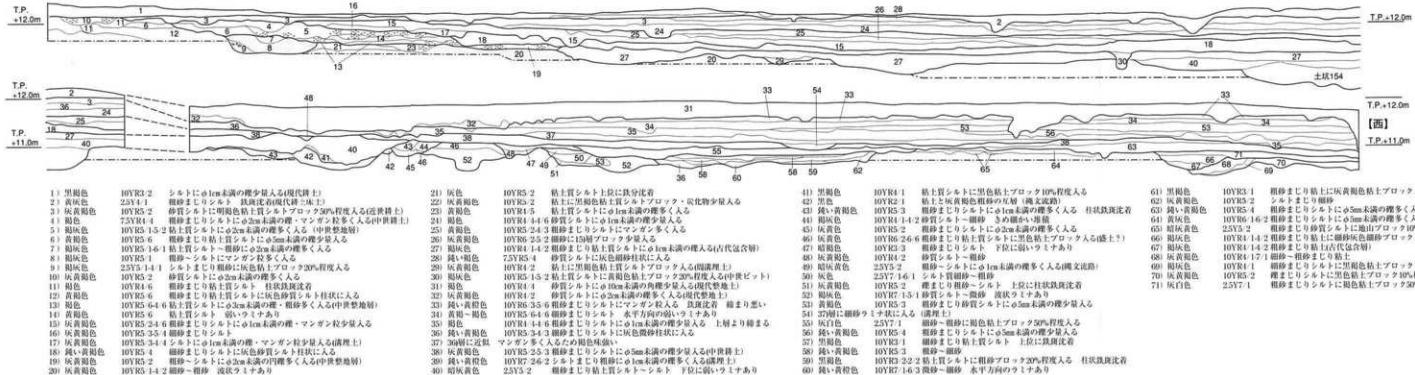


- | | | |
|---|---|---|
| 10) 黄褐色 10YR6-1 植生まじり粘土質シートに古褐色土ブロック30%程度入る(古地盤含成物) | 31) 黄褐色 23Y3/2 植生まじりシートに白い塊状のミナリあり(現代水路) | 51) 黄褐色 23Y4/1 植生まじり粘土質シートに白い塊状土 |
| 11) 灰青褐色 10YR5-2 植生まじりシートに0.5m未溡の埋め多くある(古地盤含成物) | 32) 黄褐色 23Y4/1 シートまじり粘土質(近傍露頭) | 52) 黄褐色 23Y4/1 5m未溡に古地盤 |
| 12) 黄褐色 23Y4/1 植生まじり粘土質シートに古褐色土ブロック30%程度入る(古地盤含成物) | 33) 黄褐色 23Y5/2 植生まじりシート・マダラ少佐人土・扶桑赤(古地盤土) | 53) 黄褐色 3Y5/2 |
| 13) 黄褐色 10YR5-2.5-3 植生まじり粘土質シートに古褐色土ブロック30%程度入る(古地盤含成物) | 34) 黄褐色 10YR5-2.5-3 植生まじりシートに古褐色土(土質) | 54) 黄褐色 10YR4/4 植生まじり粘土質シート |
| 14) 黄褐色 23Y4/1-6 シートまじり粘土質の埋め多くある(中世墳丘) | 35) 黄褐色 10YR5-4-2 植生まじり粘土質シートに古褐色土(土質) | 55) 黄褐色 10YR5-4-2 植生まじり粘土質シートに古褐色土(土質) |
| 15) 黄褐色 10YR5-4 6弱に近づく より埋め多くある | 36) 黄褐色 10YR5-4 植生まじり粘土質シート・土壁多く(中世墳丘) | 56) 黄褐色 10YR5-2-4-2 植生まじり粘土質に0.1m未溡の埋め多くある(上層より多く) 細縞黒い |
| 16) 黄褐色 10YR5-4.5-6 植生まじり粘土質シートに古褐色土(土質) | 37) 黄褐色 10YR5-5 植生まじり粘土質シート | 57) 黄褐色 10YR5-4-4 植生まじり粘土質シートに古褐色土(土質) |
| 17) 黄褐色 23Y5/1 植生まじりシート(古地盤埋土) | 38) 黄褐色 10YR5-6 植生まじりシートに古褐色土ブロック30%程度入る | 58) 黄褐色 10YR4/4 植生まじり粘土質シート |
| 18) 黄褐色 10YR5-6 植生まじりシート(古地盤埋土) | 39) 黄褐色 10YR5-6 植生まじりシート | 59) 黄褐色 10YR4/4 植生まじり粘土質シート |
| 19) 黄褐色 10YR5-6 植生まじりシートに古褐色土(土質) | 40) 黄褐色 10YR5-7 植生まじりシート | 60) 黄褐色 10YR4/4 植生まじり粘土質シート |
| 20) 黄褐色 23Y5/2 植生まじりシートに古褐色土ブロック30%程度入る(古地盤) | 41) 黄褐色 10YR5-7 植生まじりシート | 61) 黄褐色 23Y4/1 植生まじり粘土質シート |
| 21) 黄褐色 10YR5-6 植生まじりシートに古褐色土ブロック30%程度入る(古代ビット) | 42) 5) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8) 9) 10) 11) 12) 13) 14) 15) 16) 17) 18) 19) 20) 21) 22) 23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35) 36) 37) 38) 39) 40) 41) 42) 43) 44) 45) 46) 47) 48) 49) 50) 51) 52) 53) 54) 55) 56) 57) 58) 59) 60) 61) 62) 63) 64) 65) 66) 67) 68) 69) 70) 71) 72) 73) 74) 75) 76) 77) 78) 79) 80) 81) 82) 83) 84) 85) 86) 87) 88) 89) 90) 91) 92) 93) 94) 95) 96) 97) 98) 99) 100) 101) 102) 103) 104) 105) 106) 107) 108) 109) 110) 111) 112) 113) 114) 115) 116) 117) 118) 119) 120) 121) 122) 123) 124) 125) 126) 127) 128) 129) 130) 131) 132) 133) 134) 135) 136) 137) 138) 139) 140) 141) 142) 143) 144) 145) 146) 147) 148) 149) 150) 151) 152) 153) 154) 155) 156) 157) 158) 159) 160) 161) 162) 163) 164) 165) 166) 167) 168) 169) 170) 171) 172) 173) 174) 175) 176) 177) 178) 179) 180) 181) 182) 183) 184) 185) 186) 187) 188) 189) 190) 191) 192) 193) 194) 195) 196) 197) 198) 199) 200) 201) 202) 203) 204) 205) 206) 207) 208) 209) 210) 211) 212) 213) 214) 215) 216) 217) 218) 219) 220) 221) 222) 223) 224) 225) 226) 227) 228) 229) 230) 231) 232) 233) 234) 235) 236) 237) 238) 239) 240) 241) 242) 243) 244) 245) 246) 247) 248) 249) 250) 251) 252) 253) 254) 255) 256) 257) 258) 259) 260) 261) 262) 263) 264) 265) 266) 267) 268) 269) 270) 271) 272) 273) 274) 275) 276) 277) 278) 279) 280) 281) 282) 283) 284) 285) 286) 287) 288) 289) 290) 291) 292) 293) 294) 295) 296) 297) 298) 299) 299) 300) 301) 302) 303) 304) 305) 306) 307) 308) 309) 310) 311) 312) 313) 314) 315) 316) 317) 318) 319) 320) 321) 322) 323) 324) 325) 326) 327) 328) 329) 330) 331) 332) 333) 334) 335) 336) 337) 338) 339) 340) 341) 342) 343) 344) 345) 346) 347) 348) 349) 350) 351) 352) 353) 354) 355) 356) 357) 358) 359) 360) 361) 362) 363) 364) 365) 366) 367) 368) 369) 370) 371) 372) 373) 374) 375) 376) 377) 378) 379) 380) 381) 382) 383) 384) 385) 386) 387) 388) 389) 390) 391) 392) 393) 394) 395) 396) 397) 398) 399) 399) 400) 401) 402) 403) 404) 405) 406) 407) 408) 409) 410) 411) 412) 413) 414) 415) 416) 417) 418) 419) 420) 421) 422) 423) 424) 425) 426) 427) 428) 429) 430) 431) 432) 433) 434) 435) 436) 437) 438) 439) 440) 441) 442) 443) 444) 445) 446) 447) 448) 449) 450) 451) 452) 453) 454) 455) 456) 457) 458) 459) 460) 461) 462) 463) 464) 465) 466) 467) 468) 469) 470) 471) 472) 473) 474) 475) 476) 477) 478) 479) 480) 481) 482) 483) 484) 485) 486) 487) 488) 489) 490) 491) 492) 493) 494) 495) 496) 497) 498) 499) 499) 500) 501) 502) 503) 504) 505) 506) 507) 508) 509) 509) 510) 511) 512) 513) 514) 515) 516) 517) 518) 519) 519) 520) 521) 522) 523) 524) 525) 526) 527) 528) 529) 529) 530) 531) 532) 533) 534) 535) 536) 537) 538) 539) 539) 540) 541) 542) 543) 544) 545) 546) 547) 548) 549) 549) 550) 551) 552) 553) 554) 555) 556) 557) 558) 559) 559) 560) 561) 562) 563) 564) 565) 566) 567) 568) 569) 569) 570) 571) 572) 573) 574) 575) 576) 577) 578) 579) 579) 580) 581) 582) 583) 584) 585) 586) 587) 587) 588) 589) 589) 590) 591) 592) 593) 594) 595) 596) 597) 597) 598) 599) 599) 600) 601) 602) 603) 604) 605) 606) 607) 608) 609) 609) 610) 611) 612) 613) 614) 615) 616) 617) 617) 618) 619) 619) 620) 621) 622) 623) 624) 625) 626) 627) 627) 628) 629) 629) 630) 631) 632) 633) 634) 635) 636) 637) 637) 638) 639) 639) 640) 641) 642) 643) 644) 645) 646) 647) 647) 648) 649) 649) 650) 651) 652) 653) 654) 655) 656) 657) 658) 659) 659) 660) 661) 662) 663) 664) 665) 666) 667) 667) 668) 669) 669) 670) 671) 672) 673) 674) 675) 675) 676) 677) 677) 678) 679) 679) 680) 681) 682) 683) 684) 685) 686) 687) 687) 688) 689) 689) 690) 691) 692) 693) 694) 695) 696) 697) 697) 698) 699) 699) 700) 701) 702) 703) 704) 705) 706) 707) 707) 708) 709) 709) 710) 711) 712) 713) 714) 714) 715) 716) 716) 717) 718) 718) 719) 719) 720) 721) 722) 723) 723) 724) 725) 725) 726) 727) 727) 728) 728) 729) 729) 730) 731) 731) 732) 732) 733) 733) 734) 734) 735) 735) 736) 736) 737) 737) 738) 738) 739) 739) 740) 740) 741) 741) 742) 742) 743) 743) 744) 744) 745) 745) 746) 746) 747) 747) 748) 748) 749) 749) 750) 750) 751) 751) 752) 752) 753) 753) 754) 754) 755) 755) 756) 756) 757) 757) 758) 758) 759) 759) 760) 760) 761) 761) 762) 762) 763) 763) 764) 764) 765) 765) 766) 766) 767) 767) 768) 768) 769) 769) 770) 770) 771) 771) 772) 772) 773) 773) 774) 774) 775) 775) 776) 776) 777) 777) 778) 778) 779) 779) 780) 780) 781) 781) 782) 782) 783) 783) 784) 784) 785) 785) 786) 786) 787) 787) 788) 788) 789) 789) 790) 790) 791) 791) 792) 792) 793) 793) 794) 794) 795) 795) 796) 796) 797) 797) 798) 798) 799) 799) 800) 800) 801) 801) 802) 802) 803) 803) 804) 804) 805) 805) 806) 806) 807) 807) 808) 808) 809) 809) 810) 810) 811) 811) 812) 812) 813) 813) 814) 814) 815) 815) 816) 816) 817) 817) 818) 818) 819) 819) 820) 820) 821) 821) 822) 822) 823) 823) 824) 824) 825) 825) 826) 826) 827) 827) 828) 828) 829) 829) 830) 830) 831) 831) 832) 832) 833) 833) 834) 834) 835) 835) 836) 836) 837) 837) 838) 838) 839) 839) 840) 840) 841) 841) 842) 842) 843) 843) 844) 844) 845) 845) 846) 846) 847) 847) 848) 848) 849) 849) 850) 850) 851) 851) 852) 852) 853) 853) 854) 854) 855) 855) 856) 856) 857) 857) 858) 858) 859) 859) 860) 860) 861) 861) 862) 862) 863) 863) 864) 864) 865) 865) 866) 866) 867) 867) 868) 868) 869) 869) 870) 870) 871) 871) 872) 872) 873) 873) 874) 874) 875) 875) 876) 876) 877) 877) 878) 878) 879) 879) 880) 880) 881) 881) 882) 882) 883) 883) 884) 884) 885) 885) 886) 886) 887) 887) 888) 888) 889) 889) 890) 890) 891) 891) 892) 892) 893) 893) 894) 894) 895) 895) 896) 896) 897) 897) 898) 898) 899) 899) 900) 900) 901) 901) 902) 902) 903) 903) 904) 904) 905) 905) 906) 906) 907) 907) 908) 908) 909) 909) 910) 910) 911) 911) 912) 912) 913) 913) 914) 914) 915) 915) 916) 916) 917) 917) 918) 918) 919) 919) 920) 920) 921) 921) 922) 922) 923) 923) 924) 924) 925) 925) 926) 926) 927) 927) 928) 928) 929) 929) 930) 930) 931) 931) 932) 932) 933) 933) 934) 934) 935) 935) 936) 936) 937) 937) 938) 938) 939) 939) 940) 940) 941) 941) 942) 942) 943) 943) 944) 944) 945) 945) 946) 946) 947) 947) 948) 948) 949) 949) 950) 950) 951) 951) 952) 952) 953) 953) 954) 954) 955) 955) 956) 956) 957) 957) 958) 958) 959) 959) 960) 960) 961) 961) 962) 962) 963) 963) 964) 964) 965) 965) 966) 966) 967) 967) 968) 968) 969) 969) 970) 970) 971) 971) 972) 972) 973) 973) 974) 974) 975) 975) 976) 976) 977) 977) 978) 978) 979) 979) 980) 980) 981) 981) 982) 982) 983) 983) 984) 984) 985) 985) 986) 986) 987) 987) 988) 988) 989) 989) 990) 990) 991) 991) 992) 992) 993) 993) 994) 994) 995) 995) 996) 996) 997) 997) 998) 998) 999) 999) 1000) 1000) 1001) 1001) 1002) 1002) 1003) 1003) 1004) 1004) 1005) 1005) 1006) 1006) 1007) 1007) 1008) 1008) 1009) 1009) 1010) 1010) 1011) 1011) 1012) 1012) 1013) 1013) 1014) 1014) 1015) 1015) 1016) 1016) 1017) 1017) 1018) 1018) 1019) 1019) 1020) 1020) 1021) 1021) 1022) 1022) 1023) 1023) 1024) 1024) 1025) 1025) 1026) 1026) 1027) 1027) 1028) 1028) 1029) 1029) 1030) 1030) 1031) 1031) 1032) 1032) 1033) 1033) 1034) 1034) 1035) 1035) 1036) 1036) 1037) 1037) 1038) 1038) 1039) 1039) 1040) 1040) 1041) 1041) 1042) 1042) 1043) 1043) 1044) 1044) 1045) 1045) 1046) 1046) 1047) 1047) 1048) 1048) 1049) 1049) 1050) 1050) 1051) 1051) 1052) 1052) 1053) 1053) 1054) 1054) 1055) 1055) 1056) 1056) 1057) 1057) 1058) 1058) 1059) 1059) 1060) 1060) 1061) 1061) 1062) 1062) 1063) 1063) 1064) 1064) 1065) 1065) 1066) 1066) 1067) 1067) 1068) 1068) 1069) 1069) 1070) 1070) 1071) 1071) 1072) 1072) 1073) 1073) 1074) 1074) 1075) 1075) 1076) 1076) 1077) 1077) 1078) 1078) 1079) 1079) 1080) 1080) 1081) 1081) 1082) 1082) 1083) 1083) 1084) 1084) 1085) 1085) 1086) 1086) 1087) 1087) 1088) 1088) 1089) 1089) 1090) 1090) 1091) 1091) 1092) 1092) 1093) 1093) 1094) 1094) 1095) 1095) 1096) 1096) 1097) 1097) 1098) 1098) 1099) 1099) 1100) 1100) 1101) 1101) 1102) 1102) 1103) 1103) 1104) 1104) 1105) 1105) 1106) 1106) 1107) 1107) 1108) 1108) 1109) 1109) 1110) 1110) 1111) 1111) 1112) 1112) 1113) 1113) 1114) 1114) 1115) 1115) 1116) 1116) 1117) 1117) 1118) 1118) 1119) 1119) 1120) 1120) 1121) 1121) 1122) 1122) 1123) 1123) 1124) 1124) 1125) 1125) 1126) 1126) 1127) 1127) 1128) 1128) 1129) 1129) 1130) 1130) 1131) 1131) 1132) 1132) 1133) 1133) 1134) 1134) 1135) 1135) 1136) 1136) 1137) 1137) 1138) 1138) 1139) 1139) 1140) 1140) 1141) 1141) 1142) 1142) 1143) 1143) 1144) 1144) 1145) 1145) 1146) 1146) 1147) 1147) 1148) 1148) 1149) 1149) 1150) 1150) 1151) 1151) 1152) 1152) 1153) 1153) 1154) 1154) 1155) 1155) 1156) 1156) 1157) 1157) 1158) 1158) 1159) 1159) 1160 | |



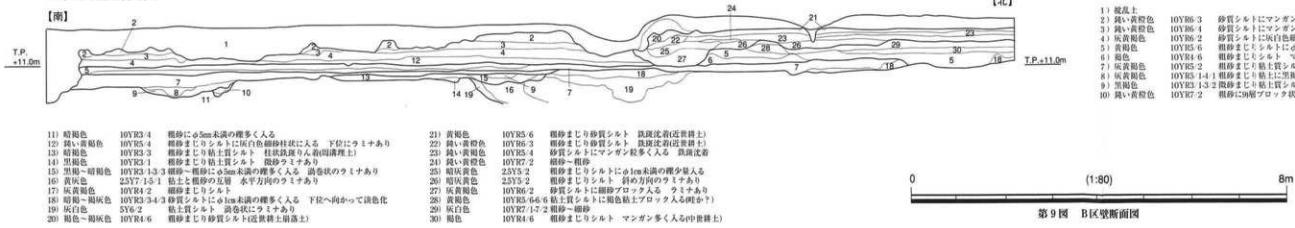
B区南壁断面図

〔東〕

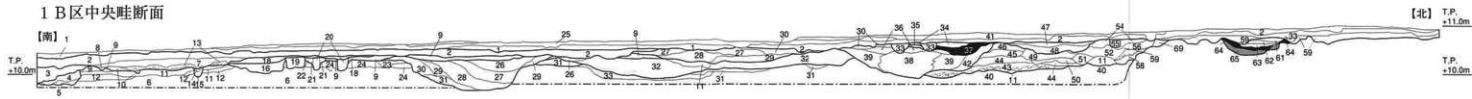


B区西壁断面図

【四】



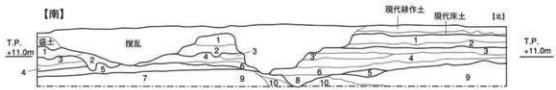
第9図 B区横断面図



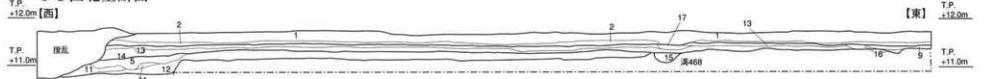
- | | | |
|---------------|-------------|--|
| 1) 犬原田 | H07Y2 | 織機またはリヨン織機用の、織機用ガバブリット(ガバブリット)と、その他の織物用ガバブリット(ガバブリット)を組合せたガバブリット(ガバブリット)(特許出願) |
| 2) 鹿児島市 | H07Y2-5 | 織機用ガバブリット(ガバブリット)と、その他の織物用ガバブリット(ガバブリット)を組合せたガバブリット(ガバブリット)(特許出願) |
| 3) 佐賀県 | H07Y2-5 | 織機用ガバブリット(ガバブリット)と、その他の織物用ガバブリット(ガバブリット)を組合せたガバブリット(ガバブリット)(特許出願) |
| 4) 福岡県 | H07Y2 | ガバブリット(ガバブリット)と、下に付するタキウ(タキウ)上部より下部(前時代中期構造溝付) |
| 5) 熊本県・鹿児島県 | H07Y2-5 | 織機用ガバブリット(ガバブリット)と、その他の織物用ガバブリット(ガバブリット)を組合せたガバブリット(ガバブリット)(特許出願) |
| 6) 黄・黄・黄・褐色 | H07Y2-4-4 | 織機用ガバブリット(ガバブリット)と、他の織物用ガバブリット(ガバブリット)を組合せたガバブリット(ガバブリット)(特許出願) |
| 7) 黒里地 | H07Y2 | 織機用ガバブリット(ガバブリット)と、他の織物用ガバブリット(ガバブリット)を組合せたガバブリット(ガバブリット)(特許出願) |
| 8) 黄色地 | H07Y2-4-4 | 織機用ガバブリット(ガバブリット)と、他の織物用ガバブリット(ガバブリット)を組合せたガバブリット(ガバブリット)(特許出願) |
| 9) 黄・黒色地 | H07Y2-4-4-6 | 織機用ガバブリット(ガバブリット)と、他の織物用ガバブリット(ガバブリット)を組合せたガバブリット(ガバブリット)(特許出願) |
| 10) 黄・黒色地 | H07Y2-4-6 | 織機用ガバブリット(ガバブリット)と、他の織物用ガバブリット(ガバブリット)を組合せたガバブリット(ガバブリット)(特許出願) |
| 11) 黑色地 | H07Y2-7 | 織機用ガバブリット(ガバブリット)と、他の織物用ガバブリット(ガバブリット)を組合せたガバブリット(ガバブリット)(特許出願) |
| 12) 黄・黒・白地 | H07Y2-1-5 | 織機用ガバブリット(ガバブリット)と、他の織物用ガバブリット(ガバブリット)を組合せたガバブリット(ガバブリット)(特許出願) |
| 13) 黑・黄・灰・褐色 | H07Y2-1-5-1 | 織機用ガバブリット(ガバブリット)と、他の織物用ガバブリット(ガバブリット)を組合せたガバブリット(ガバブリット)(特許出願) |
| 14) 黑・黄・白地 | H07Y3 | 織機用ガバブリット(ガバブリット)と、他の織物用ガバブリット(ガバブリット)を組合せたガバブリット(ガバブリット)(特許出願) |
| 15) 黄・白地 | H07Y3-1 | 織機用ガバブリット(ガバブリット)と、他の織物用ガバブリット(ガバブリット)を組合せたガバブリット(ガバブリット)(特許出願) |
| 16) 黑・灰・黃・白色地 | Z35Y1-7 | 織機用ガバブリット(ガバブリット)と、他の織物用ガバブリット(ガバブリット)を組合せたガバブリット(ガバブリット)(特許出願) |
| 17) 黄・黄色地 | Z35Y3-7 | 織機用ガバブリット(ガバブリット)と、他の織物用ガバブリット(ガバブリット)を組合せたガバブリット(ガバブリット)(特許出願) |
| 18) 黄・黑色地 | Z35Y4-7 | 織機用ガバブリット(ガバブリット)と、他の織物用ガバブリット(ガバブリット)を組合せたガバブリット(ガバブリット)(特許出願) |
| 19) 明るい褐色 | Z35Y7 | 織機用ガバブリット(ガバブリット)と、他の織物用ガバブリット(ガバブリット)を組合せたガバブリット(ガバブリット)(特許出願) |
| 20) 黄・黄色地 | Z35Y8-4 | 織機用ガバブリット(ガバブリット)と、他の織物用ガバブリット(ガバブリット)を組合せたガバブリット(ガバブリット)(特許出願) |

- | | |
|-------------|--|
| 21) 青色-近似 | 暗緑色青色系「ブルーカラー」多く入り
暗緑色青色系「ブルーカラー」多く入る |
| 22) 青色-近似 | 暗緑色青色系「ブルーカラー」多く入る |
| 23) 青色 | 暗緑色青色系「ブルーカラー」多く入る |
| 24) 灰黄色 | 2575/7-16
粘土系シートトヨタ車用樹脂プロック、下に約5mm未満の砂を盛る |
| 25) 青色 | 755/6-3
粗糸化シートトヨタ車用樹脂プロック、下に約5mm未満の砂を盛る |
| 26) 青色-近似 | 755/6-3
粗糸化シートトヨタ車用樹脂プロック、下に約5mm未満の砂を盛る |
| 27) 鮎色-青色陶器 | 755/6-3-5
粗糸化シートトヨタ車用樹脂プロック、下に約5mm未満の砂を盛る |
| 28) 白灰-青色陶器 | 2575/7-16-2
粗糸化シートトヨタ車用樹脂プロック、下に約5mm未満の砂を盛る |
| 29) 青色-青色陶器 | 2575/7-4-6
シルバー-銀 |
| 30) 砂灰-青色陶器 | SY3-2
砂質ペイント上塗り用分量 塗装(日本文具会合) |
| 31) 砂灰-青色 | SY3-2
砂質ペイント上塗り用分量 塗装(日本文具会合) |
| 32) 鮎色-青色 | 10HES-3-4
粘土系シートトヨタ車用樹脂プロック、下に約5mm未満の砂を盛る |
| 33) 鮎色-青色 | 10HES-3-4
粘土系シートトヨタ車用樹脂プロック、下に約5mm未満の砂を盛る |
| 34) 鮎色-青色 | 10HES-4-4
粘土系シートトヨタ車用樹脂プロック、下に約5mm未満の砂を盛る |
| 35) 白灰-青色陶器 | 10HES-4-5
粘土系シートトヨタ車用樹脂プロック、下に約5mm未満の砂を盛る |
| 36) 白灰-青色陶器 | 10HES-4-5
粘土系シートトヨタ車用樹脂プロック、下に約5mm未満の砂を盛る |
| 37) 黒色 | 10HES-4-5
粘土系シートトヨタ車用樹脂プロック、下に約5mm未満の砂を盛る |
| 38) 黑色-青色 | 10HES-4-6
粘土系シートトヨタ車用樹脂プロック、下に約5mm未満の砂を盛る |
| 39) 黑色-青色 | 10HES-4-6
粘土系シートトヨタ車用樹脂プロック、下に約5mm未満の砂を盛る |
| 40) 砂灰-青色 | SY3-2
砂質ペイント上塗り用分量 塗装(日本文具会合) |
| 41) 砂灰-青色 | SY3-2
砂質ペイント上塗り用分量 塗装(日本文具会合) |

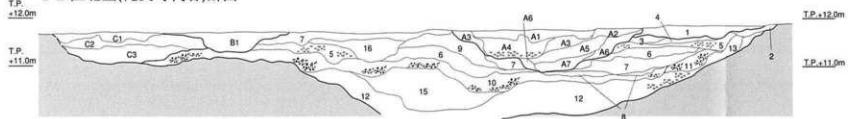
1 C区西壁断面



1 C区北壁断面



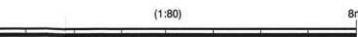
2 B区北壁(縄文時代谷)断面



- | | | | | |
|-------------------|---------|--|--------------------|---|
| A) 開拓地・開拓地周辺(耕作地) | 10YR7/2 | 根巻き・根巻き、波状ともうらり
根巻き・根巻き、波状ともうらり | 1) 坎黄色地
2) 坎黄色地 | 10YR7/2-2
根巻きリヨンナムト・根巻き色黒地ブロッカ50%程度
1km未満の耕作地・耕種手当入る・生占・暫時代合解 |
| A-1) 耕作地 | 10YR7/1 | シルトよりミルトに、暗紅褐色と似る
シルトよりミルトに、暗紅褐色と似る | 1) 坎灰褐色
2) 坎灰褐色 | 10YR7/1-2
シルトよりミルトに、暗紅褐色と似る
シルトよりミルトに、暗紅褐色と似る |
| A-2) 耕作地 | 10YR7/1 | 細面・細面に1cm未満の細砂を含む
細面・細面に1cm未満の細砂を含む | 1) 岩褐色
2) 岩褐色 | 10YR7/1-1
細面・細面に1cm未満の細砂を含む
細面・細面に1cm未満の細砂を含む |
| A-3) 耕作地 | 10YR7/1 | 粘土・粘土に2cm未満の細砂を含む
粘土・粘土に2cm未満の細砂を含む | 1) 岩褐色
2) 岩褐色 | 10YR7/1-2
粘土・粘土に2cm未満の細砂を含む
粘土・粘土に2cm未満の細砂を含む |
| A-4) 耕作地 | 10YR7/1 | 粘土・粘土に2cm未満の細砂を含む
粘土・粘土に2cm未満の細砂を含む | 1) 岩褐色
2) 岩褐色 | 10YR7/1-3
粘土・粘土に2cm未満の細砂を含む
粘土・粘土に2cm未満の細砂を含む |
| A-5) 里側面 | 10YR7/2 | 粘土・粘土に2cm未満の細砂を含む
粘土・粘土に2cm未満の細砂を含む | 1) 岩灰褐色
2) 岩灰褐色 | 10YR7/2-2
粘土・粘土に2cm未満の細砂を含む
粘土・粘土に2cm未満の細砂を含む |
| A-6) 里側面 | 10YR7/2 | 粘土・粘土に2cm未満の細砂を含む
粘土・粘土に2cm未満の細砂を含む | 1) 岩灰褐色
2) 岩灰褐色 | 10YR7/2-3
粘土・粘土に2cm未満の細砂を含む
粘土・粘土に2cm未満の細砂を含む |
| A-7) 里側面 | 10YR7/2 | 粘土・粘土に2cm未満の細砂を含む
粘土・粘土に2cm未満の細砂を含む | 1) 岩灰褐色
2) 岩灰褐色 | 10YR7/2-4
粘土・粘土に2cm未満の細砂を含む
粘土・粘土に2cm未満の細砂を含む |
| B) 中世田園風景 | | | | |
| B-1) 灰色 | 10YR8/1 | 砂質シルトに少い程の微少入る | 1) 黄褐色
2) 黄褐色 | 10YR8/1-2
砂質シルトに少い程の微少入る
砂質シルトに少い程の微少入る |
| C) 古墳時代開拓地跡 | | | | |
| C-1) 黄褐色・棕褐色 | 10YR8/3 | 細面・細面に1cm未満の粗砂有
細面・細面に1cm未満の粗砂有 | 1) 黄褐色
2) 黄褐色 | 10YR8/3-2
細面・細面に1cm未満の粗砂有
細面・細面に1cm未満の粗砂有 |
| C-2) 棕褐色 | 10YR8/3 | 細面・細面に1cm未満の粗砂有
細面・細面に1cm未満の粗砂有 | 1) 黄褐色
2) 黄褐色 | 10YR8/3-3
細面・細面に1cm未満の粗砂有
細面・細面に1cm未満の粗砂有 |
| C-3) 棕褐色 | 10YR8/3 | 細面・細面に1cm未満の粗砂有
細面・細面に1cm未満の粗砂有 | 1) 黄褐色
2) 黄褐色 | 10YR8/3-4
細面・細面に1cm未満の粗砂有
細面・細面に1cm未満の粗砂有 |
| C-4) 黄褐色 | 10YR8/3 | 細面・細面に1cm未満の粗砂有
細面・細面に1cm未満の粗砂有 | 1) 黄褐色
2) 黄褐色 | 10YR8/3-5
細面・細面に1cm未満の粗砂有
細面・細面に1cm未満の粗砂有 |
| C-5) 黄褐色 | 10YR8/3 | 細面・細面に1cm未満の粗砂有
細面・細面に1cm未満の粗砂有 | 1) 黄褐色
2) 黄褐色 | 10YR8/3-6
細面・細面に1cm未満の粗砂有
細面・細面に1cm未満の粗砂有 |
| C-6) 黄褐色 | 10YR8/3 | 細面・細面に1cm未満の粗砂有
細面・細面に1cm未満の粗砂有 | 1) 黄褐色
2) 黄褐色 | 10YR8/3-7
細面・細面に1cm未満の粗砂有
細面・細面に1cm未満の粗砂有 |
| C-7) 黄褐色 | 10YR8/3 | 細面・細面に1cm未満の粗砂有
細面・細面に1cm未満の粗砂有 | 1) 黄褐色
2) 黄褐色 | 10YR8/3-8
細面・細面に1cm未満の粗砂有
細面・細面に1cm未満の粗砂有 |

1 C区壁断面土色

- | | | |
|-----------|--------|--|
| 1) 明黄色 | HYR6-6 | 明黄色シートに黄色ウレタンストップゴム+ファン形栓に入る
明黄色シートに白色ウレタンストップゴム+扇形栓に入る |
| 2) 黄色 | HYR5-6 | 黄色シートに白色ウレタンストップゴム+扇形栓に入る
黄色シートに白色ウレタンストップゴム+扇形栓に入る |
| 3) 淡黄-黄色 | HYR5-3 | 淡黄-黄色シートに白色ウレタンストップゴム+扇形栓+ダンガル栓多量入(中世様) |
| 4) 黄-黄色 | HYR5-2 | 黄-黄色シートに白色ウレタンストップゴム+扇形栓+ダンガル栓多量入(中世様) |
| 5) 黄-黃色 | HYR5-1 | 黄-黃色シートに白色ウレタンストップゴム+扇形栓+ダンガル栓多量入(中世様) |
| 6) 黑色 | HYR2-2 | 黒シートに白色ウレタンストップゴム+扇形栓+ダンガル栓多量入 |
| 7) 黑褐色 | HYR2-3 | 黒褐色シートに白色ウレタンストップゴム+扇形栓+ダンガル栓多量入 |
| 8) 黑褐色 | HYR2-3 | 黒褐色シートに白色ウレタンストップゴム+扇形栓+ダンガル栓多量入 |
| 9) 茶褐色 | HYR4-2 | 茶褐色シートに白色ウレタンストップゴム+扇形栓+ダンガル栓多量入 |
| 10) 茶褐色 | HYC3-2 | 茶褐色シートに白色ウレタンストップゴム+扇形栓+ダンガル栓多量入 |
| 11) 黑褐色 | HYC3-2 | 黒褐色シートに白色ウレタンストップゴム+扇形栓+ダンガル栓多量入 |
| 12) 淡黄-黑色 | HYR4-3 | 淡黄-黑色シートに白色ウレタンストップゴム+扇形栓+ダンガル栓少量入 |
| 13) 淡黄-黑色 | HYR7-4 | 淡黄-黑色シートに白色ウレタンストップゴム+扇形栓+ダンガル栓少量入 |
| 14) 淡黄-黑色 | HYR7-4 | 淡黄-黑色シートに白色ウレタンストップゴム+扇形栓+ダンガル栓少量入 |
| 15) 明黄色暗 | HYR6-6 | 明黄色シートに白色ウレタンの扇形栓の栓に入る |
| 16) 黄色暗 | HTY6-6 | 黄色シートに白色ウレタンの扇形栓の栓に入る |
| 17) 黄色暗 | HYR7-1 | 黄色シートに白色ウレタンの扇形栓の栓に入る |



第10圖 1区中央畦・1C区壁・2B区输出排水沟断面图

第2節 基本層序

ここでは調査成果によって得られた土層堆積状況について、その特徴および造構面・層位の認識について記述した。なお、調査区は傾斜地上に立地するため、高低差のあるA区とB区とでは、検出した造構面の性格や包含層の様相を異にする。このため、全調査区を通じて確認した包含層に層名を冠し、個別の薄層については枝番を付して記録したことをあらかじめ述べておく。

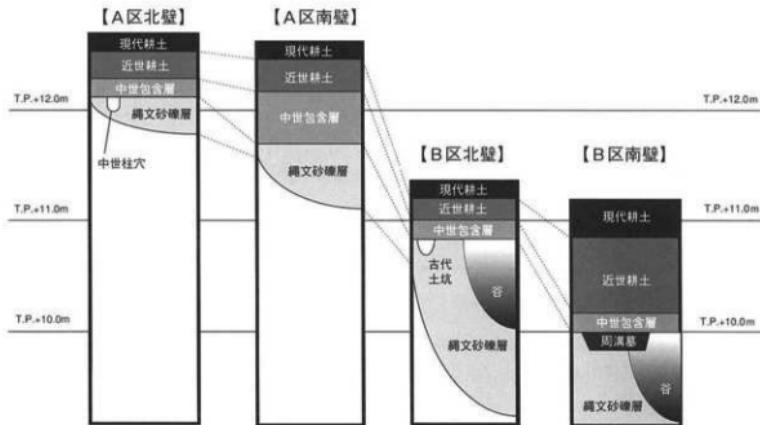
機械掘削層（現代耕土・現代耕土床土・攪乱土） 重機によって除去した調査不要層である。今回の調査では、一昨年度において確認調査を行った際のトレンチ埋土についても攪乱土として扱った。

第1層（近世包含層） すべての調査区において確認した水田耕作土壤である。A区北端では、削平を受けたため造構内においてのみ確認したが、A区東側では約20cm、B区東端では約80cmの厚さをもって堆積していた。細かいマンガン粒を多分に含むしまりの悪い砂質シルト層であり、黄褐色～にぶい黄褐色を呈する。土質により1-1層・1-2層・1-3層に細分できる。

第2層（中世包含層） すべての調査区において確認した耕作土である。第1層よりもくすんだ黄褐色を呈するシルト層であり、しまりが良く、上位には鉄班が沈着する。今回の調査では最も多くの遺物を出土した包含層であり、その大半が瓦器片と須恵器片であった。2-1層・2-2層・2-3層に細分できる。

第3層（古墳時代後期～古代包含層） 1B区南側から西側の一部において確認した包含層であり、そのほとんどが、中世期の精力的な開墾により削平されている。灰色～褐灰色粘土質シルトを主体とする上層と、黄褐色粗砂～細砂を主体とする下層に大分できる。上層からは8世紀所産の遺物が出土し、下層からは5～6世紀の須恵器片が出土した。概ね下層の遺物残存状況の方が良好であった。

第4層（縄文時代包含層） きめ細かく、よくしまった灰黄色砂質シルト層を主体とする縄文時代の包含層である。この上位面では古墳時代前期の周溝と、弥生～庄内期に埋没したと推定される河川跡が検出された。また、下位には縄文時代前期の谷が確認された。



第11図 基本層序模式図

第4章 調査成果

第1節 旧石器時代～縄文時代の遺構と遺物

今回の調査では、縄文時代中・後期の遺構面を最下面として検出した。この面および遺構埋土からは、後期旧石器時代に属すると見られるナイフ形石器や縄文土器片が出土した。縄文時代遺構面に該当するのは、古代包含層である第3層を除去した第4面および、縄文時代後期から弥生時代に堆積したと見られる第4層を除去した第5面である（層・面名称については前章参照）。この遺構面では、縄文時代中期以前に開削した谷地形と、この谷の埋没過程において形成された流路および土坑を検出した。

遺構 調査区北東の2A区では、近世期の削平によって洪積層上面が露出し、黄灰色粘土質シルトの平坦な広がりとして見られた。また、南東側の1A区では、洪積層の上位に縄文時代中期以前とみられる砂礫混じり黄褐色シルトの堆積（第4層）があった。この堆積は、丘陵部から流出した河道によって運ばれてきた土砂とみられるが、この層より縄文土器が1点出土した。この土器は、ほぼ完形であり、口縁をやや上方に向けて横たわった状態で出土したが、残存状態が極めて悪く、取り上げることは不可能であった。平底の底部をもち、肩部に最大径を有し、緩くくびれた頸部と湾曲する口縁部をもつこの土器は、そのプロポーションから縄文中期に遡る深鉢であることは頗推できたが、胎土と周辺土壤が同化しており、写真撮影と断面図化をおこなうのが精一杯であった。なお、東接する高宮遺跡（その1）調査区では、船元I式の特徴を備える縄文土器片を含んだ流路が確認されており、当調査区において検出した河跡もこの流路に關係する遺構と捉えることが可能であることから、今回採取不可能であった縄文土器も同式のものである可能性が高い。

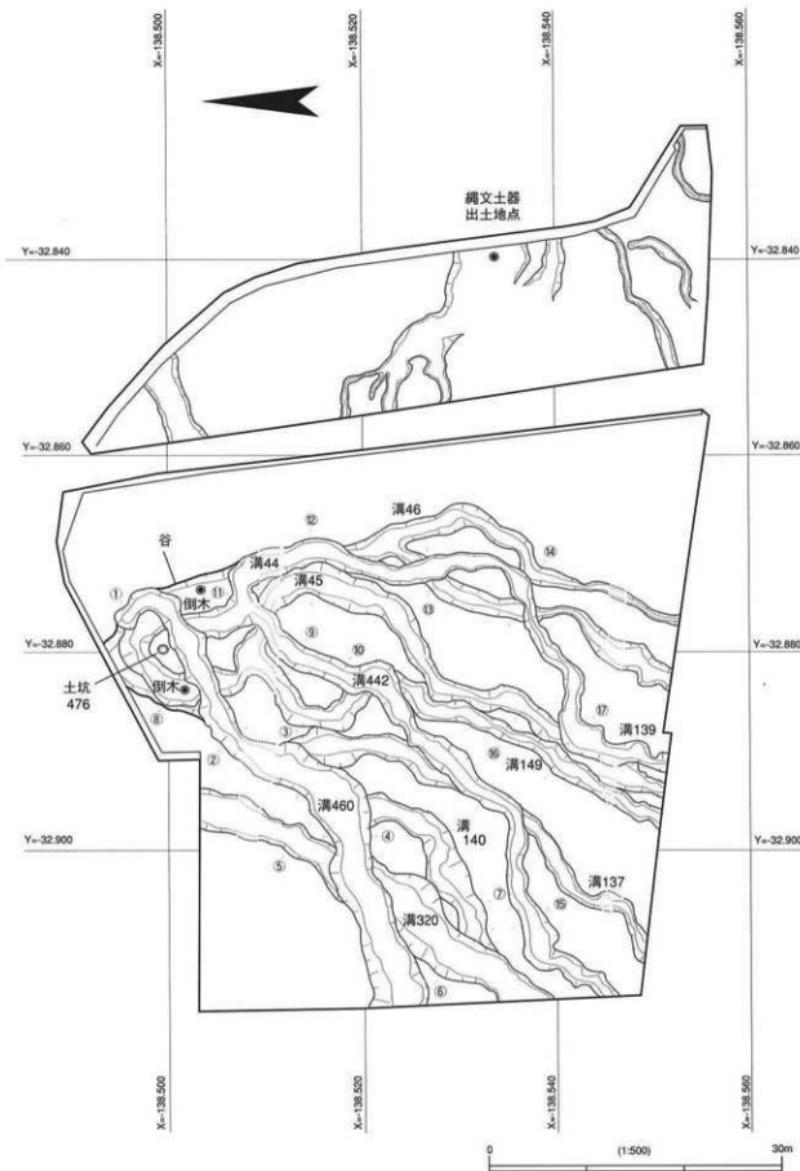
調査区北西側の2B区では、洪積層を大きく抉りこむ谷地形を検出した。この谷は、2B区北端で幅15m、深さ2.8mを測る。南西方向へむかって扇状に開き、調査区外へと続く。その広がりとともに深さを増しており、沖積地を構成する層へと連続するものと考えられる。また、地形図を見る限り、この谷の源泉は調査区北東に位置する宮池周辺の谷地に求められる（第5図参照）。

谷の埋土は、もっとも深い地点において計3層に大別することができる。すなわち、しまりのよい灰黄色細砂～粗砂majiriシルトを主体とする上層と、有機物を多量に含む粗砂majiri暗灰黄色粘土である中層、径3cm未満の礫を多く含むものはほぼ均質な灰色粗砂が堆積する下層の3層である。このうち上層は上述の第4層に相当する。掘削調査は上層から順に進めたが、中層上面を検出した段階で、腐葉土に埋もれたアカガシ亜属・コナラ・サクラの風倒木を検出した。また、アカガシの根元から、サヌカイト切片および剥片が6点出土した。この谷がある程度埋没した時点において一定の植物繁茂があり、その状況下において、人間の去來があったことを示す資料である。

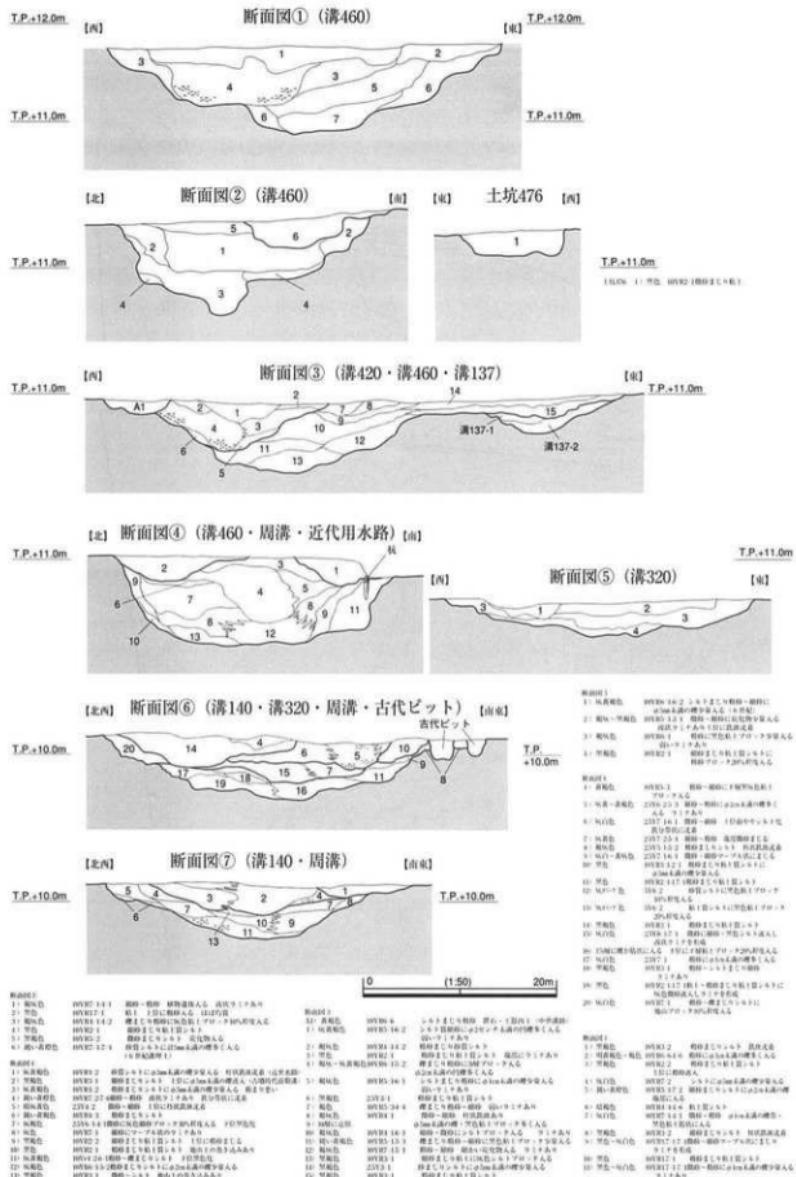
この谷はその最終形態を、幾筋もの流路としてとどめている。谷の上面において、谷の開口と同方向に流れる流路を検出したが、これらのほとんどが同様の埋土と堆積状況を示し、調査区南西へと続く。この流路内からの遺物出土はほとんど見られなかつたが、溝460より大歳山式の特徴を備える土器片が1点出土した（第16図）。

また、第4層からは多くの切片・剥片にまじり、石鎌や石匙といった多種にわたる石器が出土した。

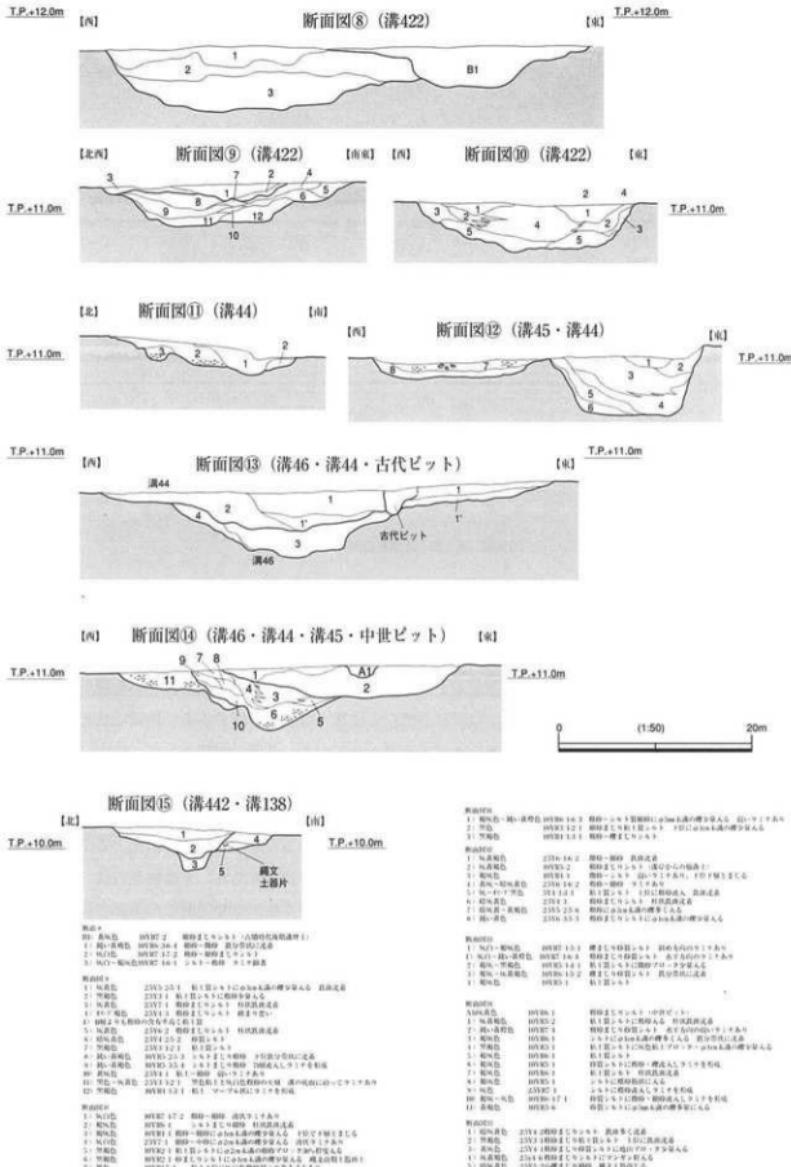
遺物 第16図1は、深鉢の口縁部である。外面はRL縄文を地文とし、二本の貼り付け凸帯を半截竹管



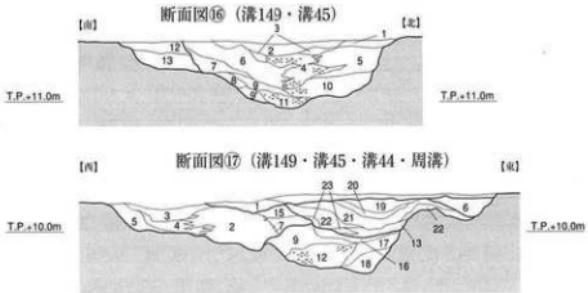
第12図 縄文時代遺構平面図 (1:500)



第13図 繩文時代流路断面図(1) (1:50)



第14図 桶文時代流路断面図(2) (1:50)

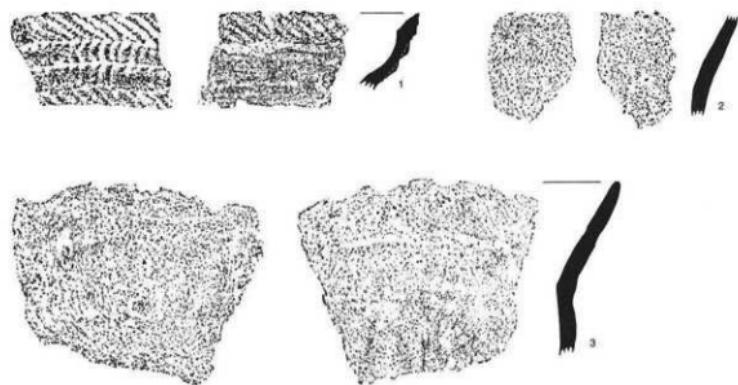


断面図16	断面図17
1: 深鉢	1: 深鉢
2: 前・後部	2: 前部
3: 細部	3: 細部
4: 細部	4: 細部
5: 細部	5: 細部
6: 細部	6: 細部
7: 細部	7: 細部
8: 細部	8: 細部
9: 細部	9: 細部
10: 細部	10: 細部
11: 細部	11: 細部
12: 細部	12: 細部
13: 細部	13: 細部
14: 細部	14: 細部
15: 細部	15: 細部
16: 細部	16: 細部
17: 細部	17: 細部
18: 細部	18: 細部
19: 細部	19: 細部
20: 細部	20: 細部
21: 細部	21: 細部
22: 細部	22: 細部
23: 細部	23: 細部

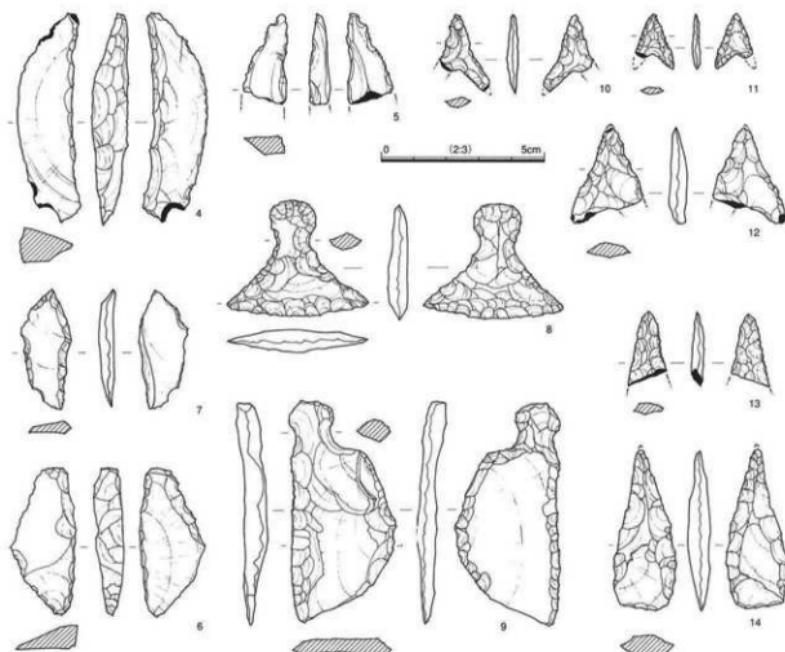
第15図 繩文時代流路断面図(3) (1:50)

状工具で上段→下段の順に右方向へ押し引いている。原体幅は約8mmで、断面はカマボコ形を呈す。内面は、やや肥厚させた口縁端部にRL繩文を施し、器面を丁寧なナデ調整で平滑している。色調は暗黄褐色を基調とする。また、外面には煮沸の痕跡である煤が付着している。繩文時代前末期の大歳山式に相当する。2は、内外面ともに摩耗が激しく、文様・調整は不明である。色調はにぶい黄橙色を基調とする。3は、深鉢の口縁部である。外面は摩耗が激しく文様・調整は不明である。内面は成形時の粘土堆积み上げ痕が残っているほか、丁寧なナデで平滑されている。煮沸の痕跡として、内面に煤が付着している。色調は黄褐色を基調とする。2・3は文様・調整が不明瞭なため、型式は特定できないが、繩文時代前期後葉に属すると思われる。

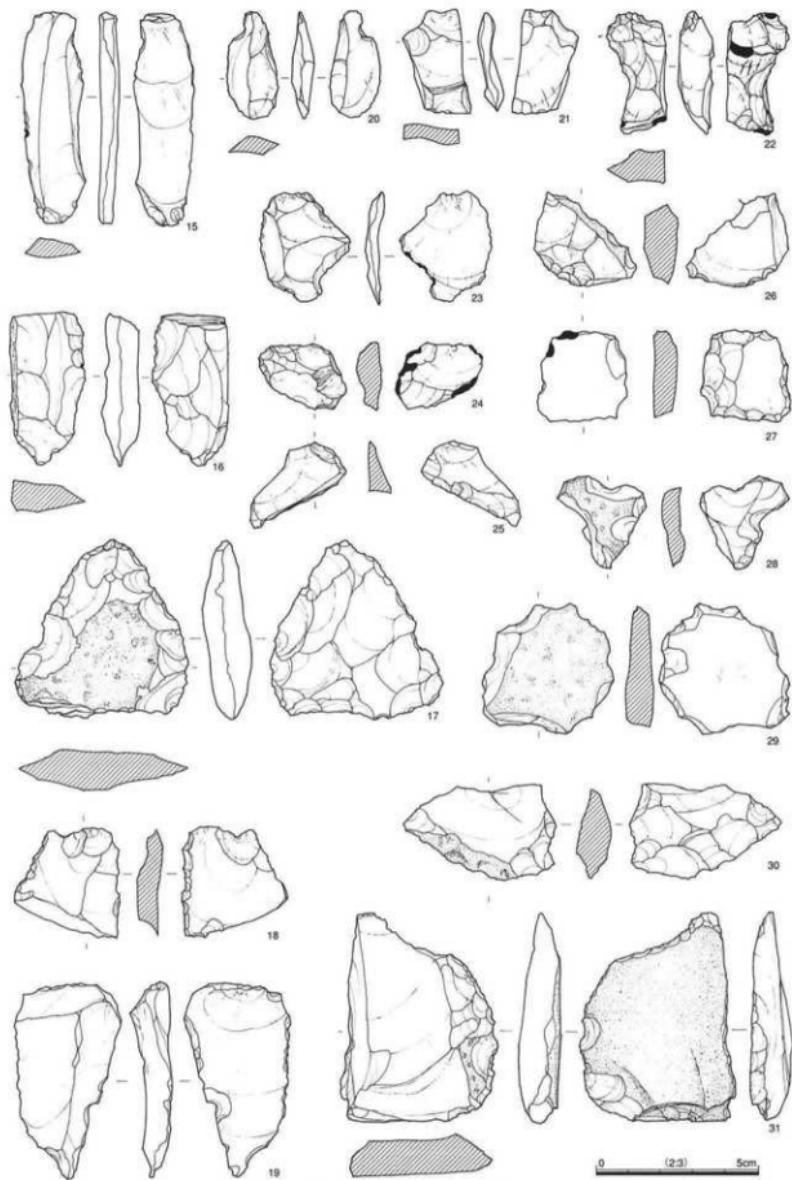
第17図4・5は、後期旧石器に属する国府型ナイフ形石器である。各々下半部を折損するが、側面に明確な刃を打ち出している。6~14は繩文時代に所産時期をもつ製品である。8は横腹石匙、9は縦型石匙である。8は緻密な加工によって円頭状の把手部と抉りをつくり、やや湾曲した刃部を打ち出している。9も同様、円頭状の把手部と抉りをもつが、直線・曲線を呈する両側縁に刃を打ち出している。10~12は無茎石鏃である。10・11は小型品であり、細かい調整がなされている。12は、先端部に再加工の痕跡が残る。



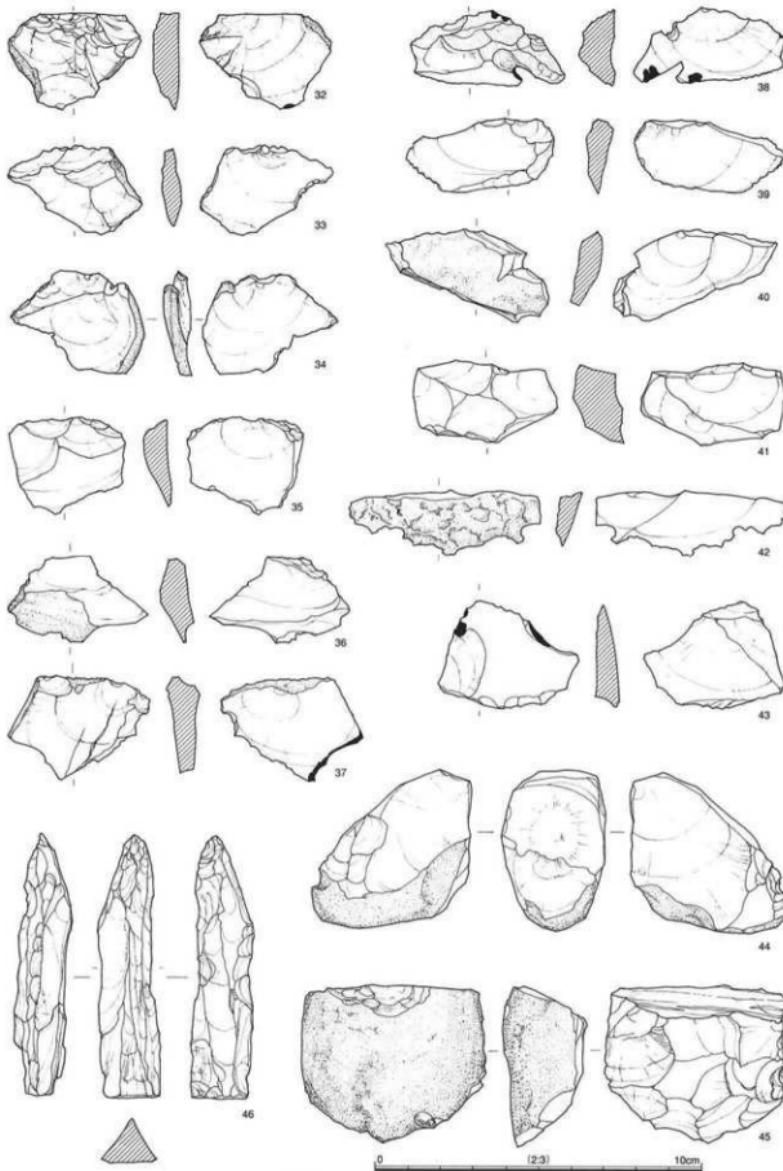
第16図 出土遺物実測図（縄文土器） (S=1:1)



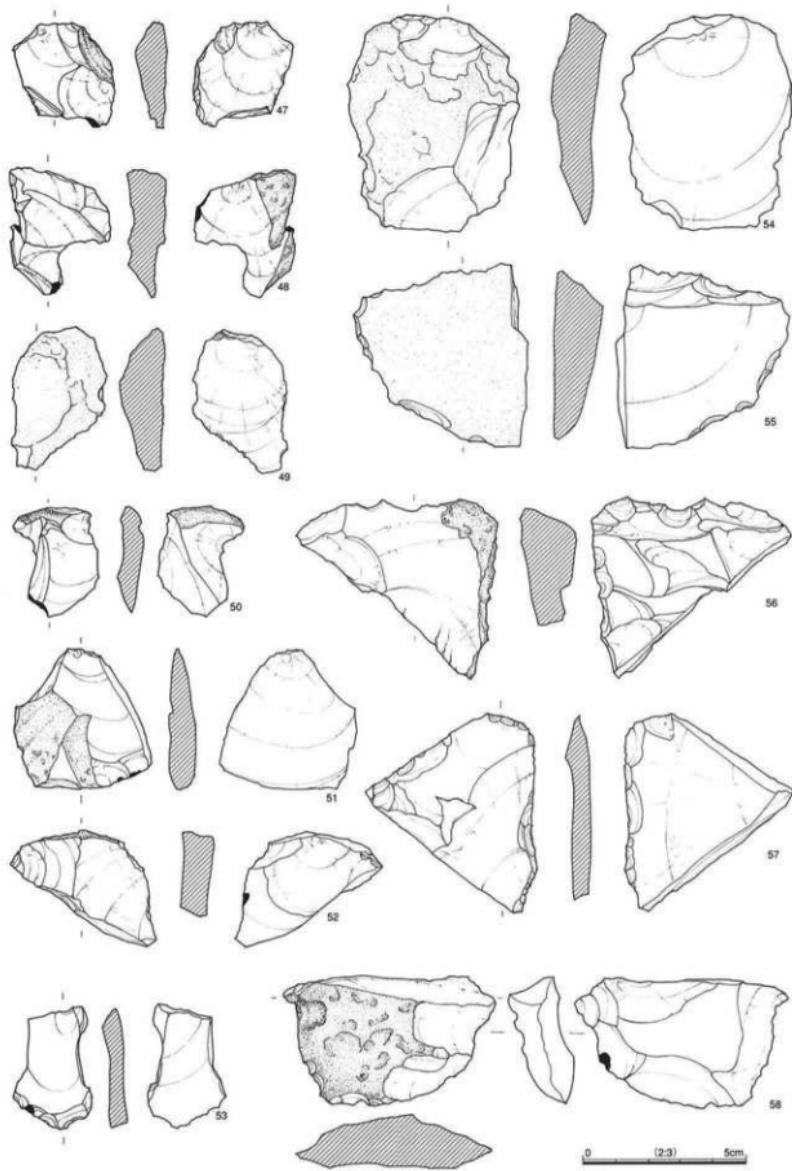
第17図 出土石器実測図(I) (S=2.3)



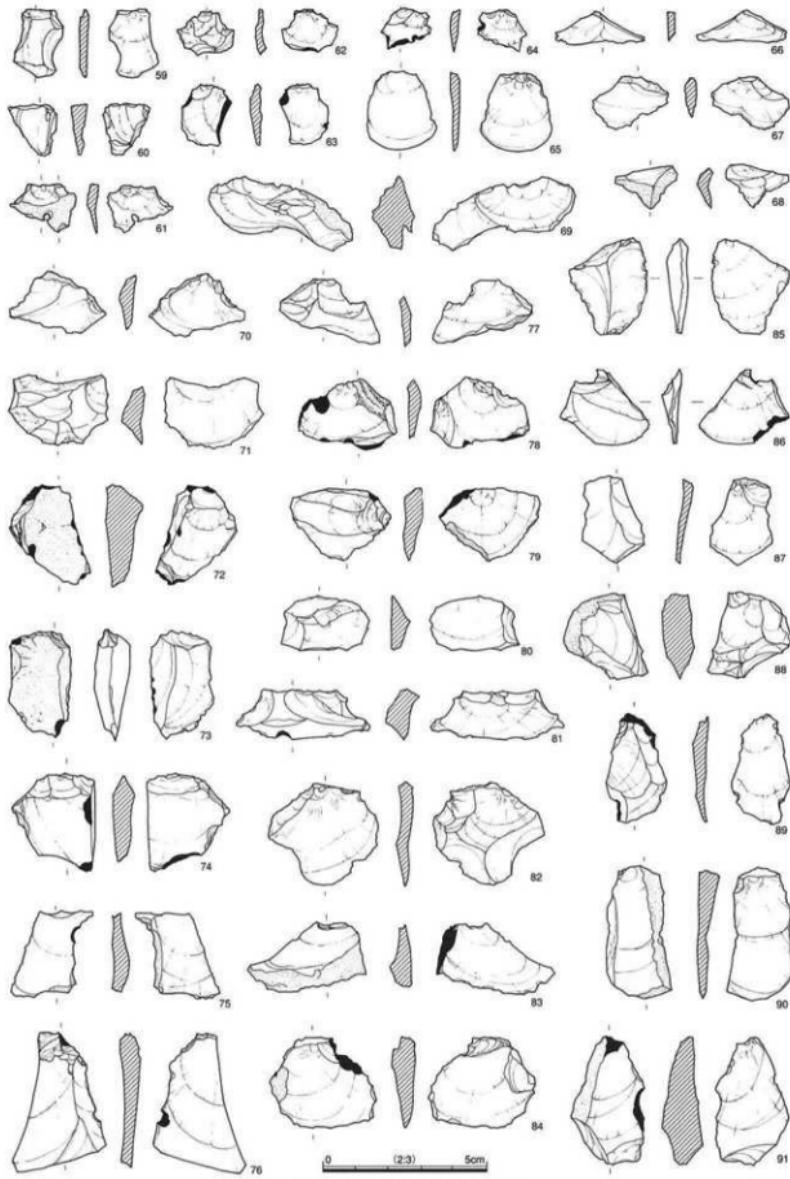
第18図 出土石器実測図(2) (S=2.3)



第19圖 出土石器尖端圖(3) (S=2:3)



第20圖 出土石器實測圖(4) (S=2:3)



第21圖 出土石器実測図(5) (S=2:3)

第2節 弥生時代～古墳時代前期の遺構と遺物

弥生時代から古墳時代前期の遺構面は、縄文時代堆積層である第4層の上面において検出した。今回の調査では、明確な弥生時代の遺構は検出できなかったが、遺物の出土が少量あった。また、方形に廻る溝を14箇所で検出したが、これは供獻土器の出土や隣接調査区の成果などから、古墳時代前期に築造された周溝墓群であることがわかった。

古墳時代前期に築かれた周溝墓の存在は、南接する小路遺跡（その3）の調査において、大型の前方後方形周溝墓が検出されたことにより確定した。当調査区内では1B区南端において、この周溝墓の北東角部を検出している（周溝1）。この周溝墓は、3基の方形周溝墓を周辺に配しており、この地域一帯が墓域であった可能性が指摘された。このため、墓域の北方への広がりを確認するため、1B区・2B区においてより詳細な精査と観察が必要となった。

当調査区内において、古墳時代前期の周溝および土坑は、薄層である第4層と縄文河川が埋没した地盤の直上から掘り込まれていたが、調査段階では縄文時代から中世までの遺構が重複して見えており、その隙に垣間見える周溝を検出することは大変困難であった。黒色埋土をもつ縄文河川は幅員2m～3mを保ちながら交錯し、その上面にはこれを辿るように古墳時代後期の流路が走っていたが、この流路が不自然に屈曲する様相をみせる箇所が各所に見られた。この部分を重点的に捉えて小トレンチを設定し、土質の差異を断面において観察したところ、調査区内に14基を数える周溝墓を確認することができた。もっとも、検出した周溝墓の墳丘盛土は完全に削平されており、主体部についてはその痕跡を確認できていない。

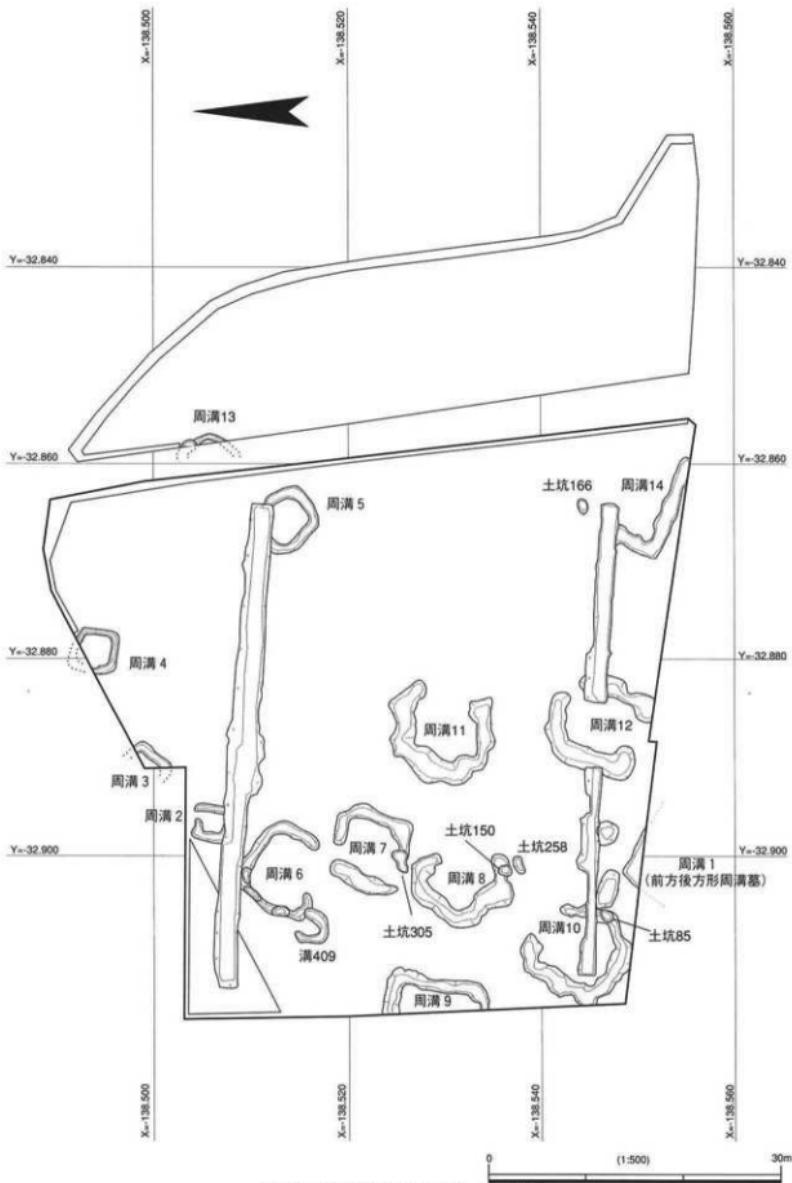
この周溝群は、一辺10m前後を測るやや大型のものと一辺4mに満たない小型のものとに分別できる。調査区南側では大型のものが集中し、北側では小型のものが築かれていた。また、大型のものには同質の埋土をもつ長辺1m未満の土坑を付随して検出することがあり、何らかの関連性がうかがえた。

また、北側において検出した供獻土器を伴う周溝墓（周溝2・周溝3）の存在は、墓域がさらに北方へと広がることを予想させる結果となった。

遺構 周溝1 周溝1は、南接する小路遺跡（その3）調査区内において検出された前方後方形周溝墓の一角である（第24図上段）。縄文堆積層である第4層上面から掘り込まれており、灰色粗砂と黒褐色粘土質シルト層から成る。断面では周溝外部北側からの土砂流入によって徐々に埋没した過程が確認できた。埋土の黒色化は水の浸みによるものと解される。遺物の出土はなかった。

周溝2 周溝2は、調査区北西端で検出した供獻土器を伴う周溝である（第23図上段）。南辺を搅乱によって消失しているものの、一辺3.8mを測る方形周溝墓であることが復元できる。遺物は東辺溝よりまとまって出土した（第23図下段）。北側より舌状にのびた丘陵の裾部に築造されているため、古墳時代以降の流路による浸食を回避できたものと思われる。

供獻土器とみられる土器は、2点出土した（第23図92・93）。92は土師質の壺形土器である。口縁に明確な段を有し、端部を若干折り曲げてなく、丸く仕上げている。磨滅が著しく、調整は内面にハケ目が一条残るのみであった。胎土はきめ細かく、外面は鮮やかな橙色を呈する。在地の土器には見られない形態であり、搬入品である可能性が高い。93は、92よりも大型品であるが、同様に緩い段を口縁部に備えた壺である。くすんだ色調をもち、布留式壺に近似する。なお、小路遺跡（その3）調査区出土の大型の供獻壺形土器類は、吉備周辺および東海地域のものと共通する点が見られると報告されている。



第22図 古墳時代前期遺跡平面図

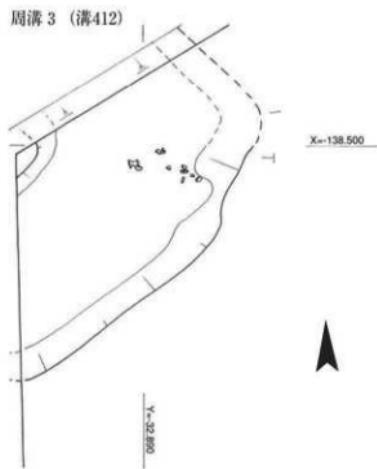
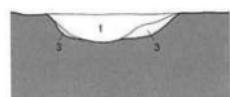
(S=1:500)



周溝 2 - ①



周溝 2 - ②

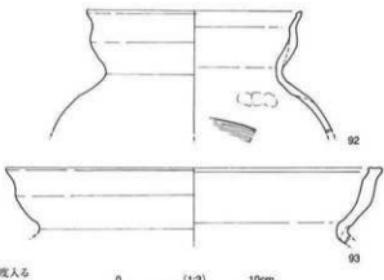


周溝 3



周溝 2 - ①・②

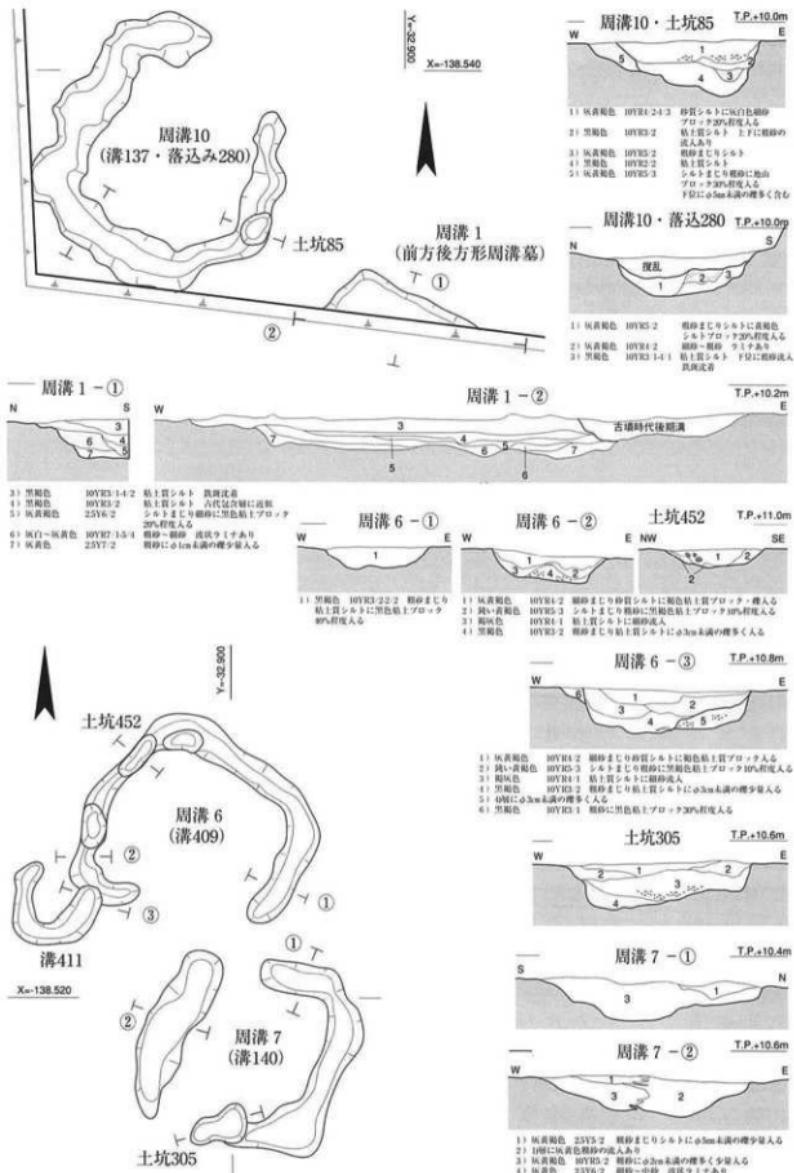
- 1) オリーブ褐色 25Y4/3 粗砂まじり粘土に黒色粘土ブロック10%程度入る
柱状鉄浜沈着
- 2) 山筋に灰白色微細シルトブロック入る上位より下位へ斜にラミナあり(埴丘崩落上部)
粘土と10YR6-2(6)黄褐色粗砂の互層 ラミナあり
- 3) 黒灰色 10YR4/1



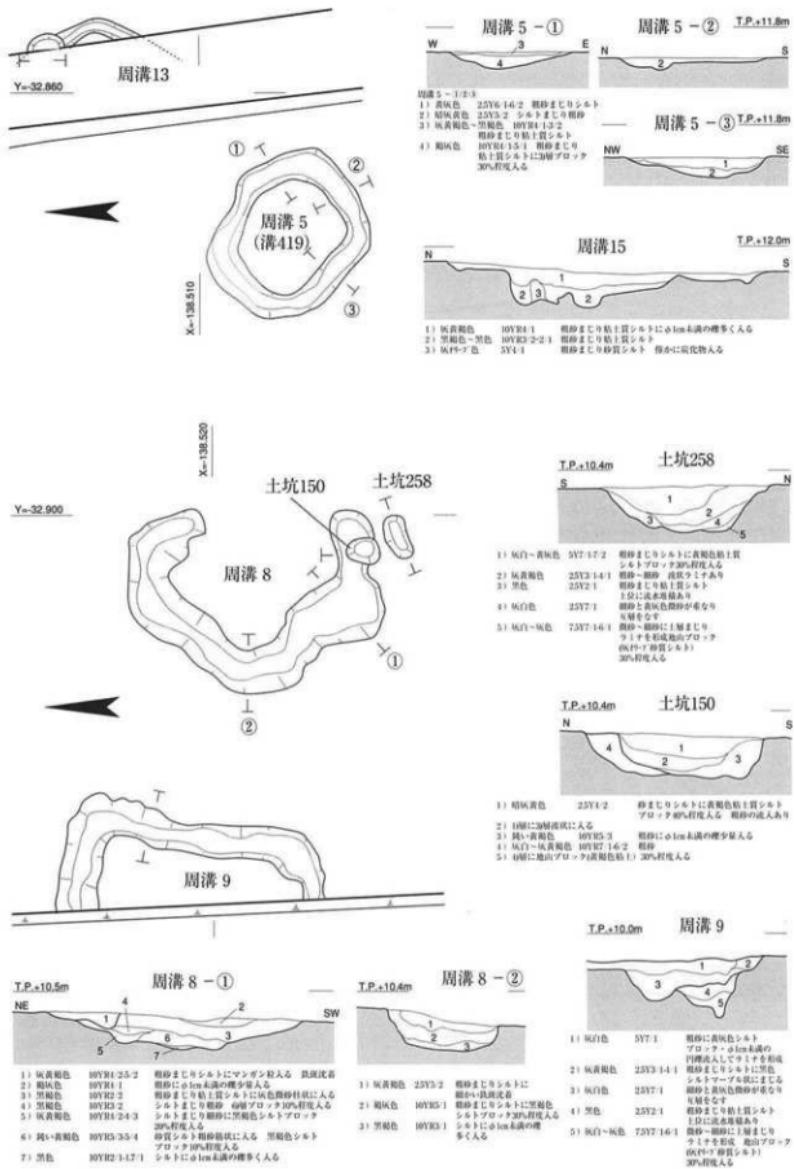
周溝 3

- 1) 黒褐色 10YR4/1-4/2 粗砂まじりシルトに2cm未満の鉢紋・椎少量入る 黒斑沈着
- 2) 灰青褐色 10YR4/2 粗砂まじりシルトに10YR3-1黒褐色粗土質シルト ゆるいウミナ状に入る 鉄浜沈着
- 3) 黑灰色 10YR6-1-6-2 中-細砂 (下解説路跡)
- 1') 山筋に黒褐色粘土ブロック少量入る

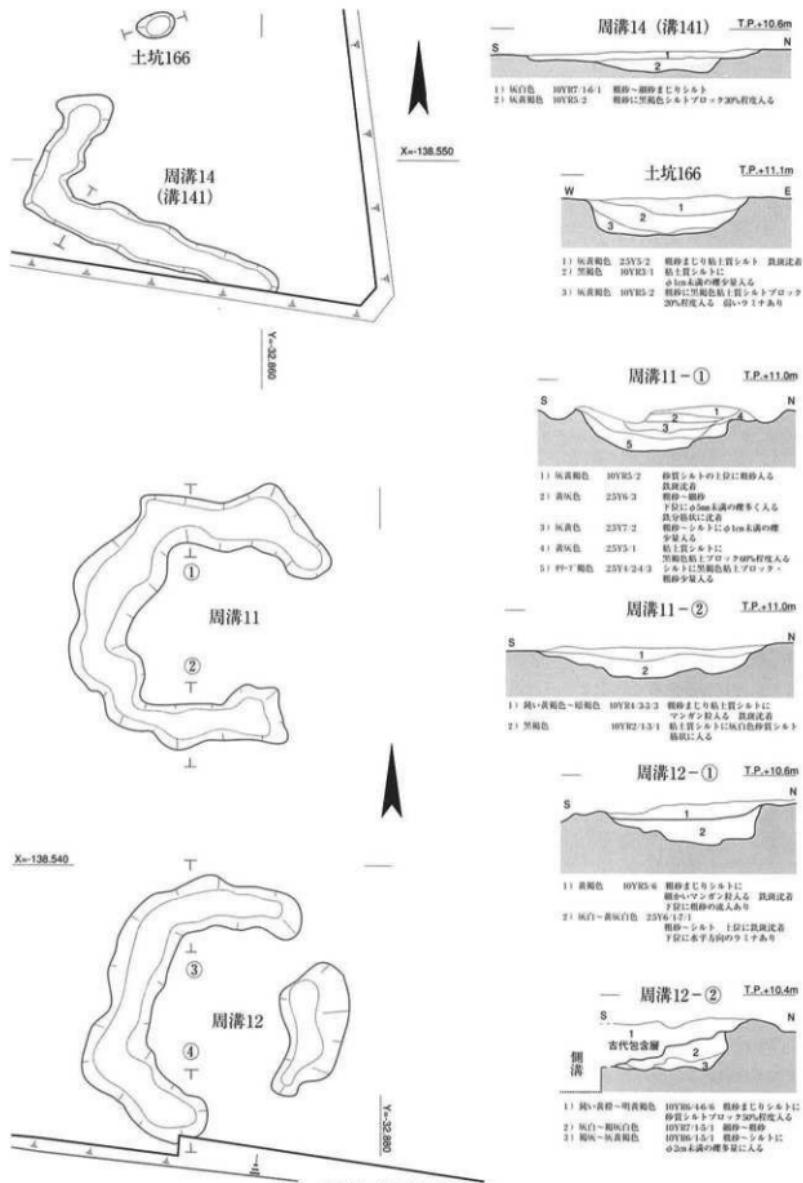
第23図 周溝墓平面断面図(1)・出土遺物実測図



第24図 周溝幕平面断面図(2)



第25図 周溝墓平面断面図(3)



第26図 周溝竈平面断面図(4)

周溝3 周溝3は、周溝2の北東に位置している。一辺4m未満のほぼ同規模をもつ周溝墓であると推測されるが、周溝2とは異なる方向軸をもつ。一角のみの検出であったが、1.3mを測る溝幅が確認できた。出土遺物には土師器壺破片（第27図100）と高環脚部が含まれていた。

周溝4 周溝4は2B区北端において検出した一辺3.6mの周溝である。溝の幅は0.4～0.5m、深さは0.2mを測る。縄文谷および河川の上に築かれていることから、削平をうけた可能性が高い。周溝2とほぼ同じ方向軸をもつものの、遺物の出土はなかった。

周溝5 周溝5は2B区東側で検出した。第4層上面から掘り込まれていたため比較的容易に検出することができた。搅乱によって一角を損失するが、一辺2.8m～3.4mの方形として復元できる。溝幅は1.1m、残存深さは0.2mを測る。本来黒色シルト層として検出されるべき埋土が、ラミナを伴う黄褐色砂質シルトであることから、上位の大部分を削平によって失ったものと考えられる。

周溝6～13は、大型の周溝である。周溝1とほぼ同様の方向軸を保つつつ、6m～8m程度の一定間隔をもって配されたように検出された。

周溝6 周溝6は、溝内に3基の土坑をもつ周溝である。南側の一部を5世紀の須恵器を包含する溝409に切られているが、一辺8.8～9.0mを測る方形周溝であったとみられる。西側溝より布留式とみられる土師器高环の脚部が1点出土した（第27図106）。

周溝7 周溝7は、周溝6の南側に位置する、土坑一基をもつ周溝である。古代の流路に寸断されているが、一辺8.2mを測る方形周溝であろうと推測される。土坑305は明らかな掘方をもつ造構であり、長辺1.8m、短辺1.3m、深さ0.4mを測る。埋土は疊まじり黒褐色粘土質シルトと細砂から成る。遺物の出土はなかった。

周溝8 周溝8は周溝7の南側に位置する造構である。この周辺は古代の溝やピットが混在するため周溝の検出は困難であったが、その南西溝が縄文河川の方向性と直交することや、黒色埋土をもつ土坑2基が周間に存在することなどから周溝として検出するに至った。その規模は、一辺8.5m～9.0m、溝幅1.2～2.0m、深さ0.3mを測る。土坑150は一辺1.4mの隅丸方形を呈し、深さ0.4mを測る。埋土はラミナをもつ細砂まじり褐色シルトと第4層ブロックを含む黒褐色シルト層から成る。土坑256は、長辺1.5m、短辺0.7mを測る楕円形を呈し、深さ0.3mの掘方をもつ。埋土は土坑150と同様に黒褐色シルトを主体とする。遺物の出土はなかった。

周溝9 周溝9は、1B区の西端において検出した造構である。はじめ古代の溝状造構として認識していたが、古代包含層である灰黄色砂質シルトを埋土とするのは上層のみであり、下層において黒褐色粗砂まじりシルトの堆積が見られたことから、周溝である可能性をもつ造構として検出した。西半部が調査区外へと続くため明らかではないが、一辺10.5mを測る規模をもつと推測される。遺物の出土はなかった。

周溝10 周溝10は、調査区南西隅において検出した造構である。周溝墓1とは4mの距離をおいて近接する。北側は削平をうけているが、幅1.2～1.7m、深さ0.4mを測る溝を廻らせた、一辺10.3mの方形を呈する周溝であったと考えられる。東側の溝には長辺1.3m、短辺1.0m、深さ0.5mを測る土坑85を伴う。南溝上層には古代の溝が重複して流れていたため、8世紀所産遺物の混入がみられたが、下層からは土師器高环の破片が出土した。

周溝11・12 周溝11・12は、1B区中央付近において検出した造構である。縄文流路および中央畦の断面観察において明確に分層できたことから、その存在が確実となった。周溝11は、一辺9.5～10.3mのや

や丸みをおびた方形を呈し、幅1.5~1.8m、深さ0.3mの溝をめぐらせる。周溝12は、確認トレンチによって寸断されているが、一辺10.0~10.8m範囲において、幅1.3m、深さ0.4mの溝を方形にめぐらせる周溝であったと考えられる。ともに遺物の出土はなかった。

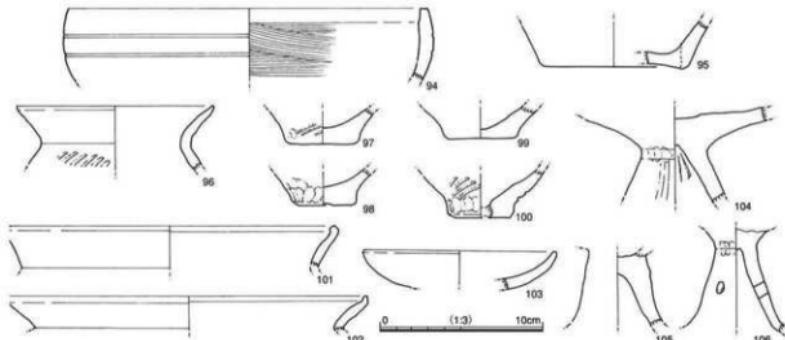
周溝13 周溝13は、唯一2A区において検出した周溝である。2A区の西端側縁は、古代包含層を埋土とする落込みが認められたが、その底辺部において、屈曲する小溝を検出した。埋土は黒色粘土質シルトであり、明らかに古代包含層とは土質を異にする。2B区では連続する遺構が見られないことから、完結する遺構であると考え、周溝の一基に加えた。結論は、今後A区とB区を隔てる土手部分の調査成果を待たねばならないが、現時点では一辺3m未溝の小型周溝である可能性を掲げておきたい。この溝からの遺物出土はなかった。

周溝14 周溝14は、1B区北東端で検出した溝である。西側に屈曲する一角を有することと、黒褐色シルトを埋土とする土坑166を伴うことから、周溝であると判断した。北半部を近世の整地によって削平されているため、明らかではないが、一辺10.5m前後を測る方形周溝であった可能性が高い。前方後方形周溝幕と同じ方向軸をもつ。遺物の出土はなかった。

遺物 弥生時代に相当する明確な遺構は検出できなかったが、包含層より弥生土器数点が出土した。第27図94・95は弥生中期に所産時期をもつ土器片である。94は鉢の口縁部であり、畿内IV様式に分類される特徴をもつ。外面にはヘラミガキを施した後に沈線を2条めぐらせており、内面には横方向のハケ目調整痕が認められる。94・95とともにローリングを受けており、遺存状態は大変悪い。縄文河川の最終埋没時期は弥生時代にまで下がるとみられることから、おそらく北方からの土砂流入によってもたらされたものであろうと考えられる。

96~106は、古墳時代前期に所産時期をもつ土器片である。96~100は外面にタタキを施す壺である。平底を持ち、多分に弥生土器の様相をもつ形態を備えているが、この近隣地域ではいわゆる弥生型壺の生産が比較的長期にわたって見られ、薄い器壁をもった庄内壺作成手法の導入はおくれる傾向にあることが指摘されている。

101・102は布留式壺である。101は口縁端部を内面に折り曲げて丸く作り、102は端部をつまみあげて整形している。103~106は、高环の一部である。103は庄内式、104~106は布留式の特徴を備えている。所産時期は4世紀中期頃に求められる。



第27図 出土遺物実測図（弥生時代～古墳時代前期） (13)

第3節 古墳時代後期～古代の遺構と遺物

古墳時代後期および古代の遺構面は、中世包含層である第2層を除去した面において検出した(第3面)。これは、中世に行われた大規模な整地と精力的な開墾によって、古代の包含層(第3層)が削平あるいは中世耕土として攪拌され、ほとんど残存していなかったためである。

この遺構面では、5世紀後半～6世紀頃に埋没したとみられる小流路と8世紀前半期に掘削された多数の柱穴群・土坑・溝等を検出した。

遺構 小流路群 古墳時代後期の遺構とみられる小流路群は、1B区および2B区において検出した。この流路は、概ね北東方向から南西へと流れる方向性を持ち、幅1～1.5m、深さ50cm前後の規模をもつ。埋土の多くが浅黄色～灰白色の色調をもつ細砂～粗砂であり、断面においては波状ラミナが認められる。不規則に細かく蛇行して、調査区外へと流出しており、このうち数本が南接する小路跡(その3)トレンチ内において検出された。遺物は5世紀から6世紀に所産時期をもつ須恵器類がほとんどである(第39図)。これらは、調査区外から水流とともに運ばれてきたものと考えられ、単純にこの区画内における人間の起居と直結するものではない。しかし換言すれば、流路川上である調査区北方には集落が営まれていた証左として報告できるものである。また、調査地東方の丘陵上に位置する高宮遺跡(その3)の調査区内では、初期須恵器を伴う大型堅穴住居が検出されており、こちらから流入した遺物も多いと考えられる。

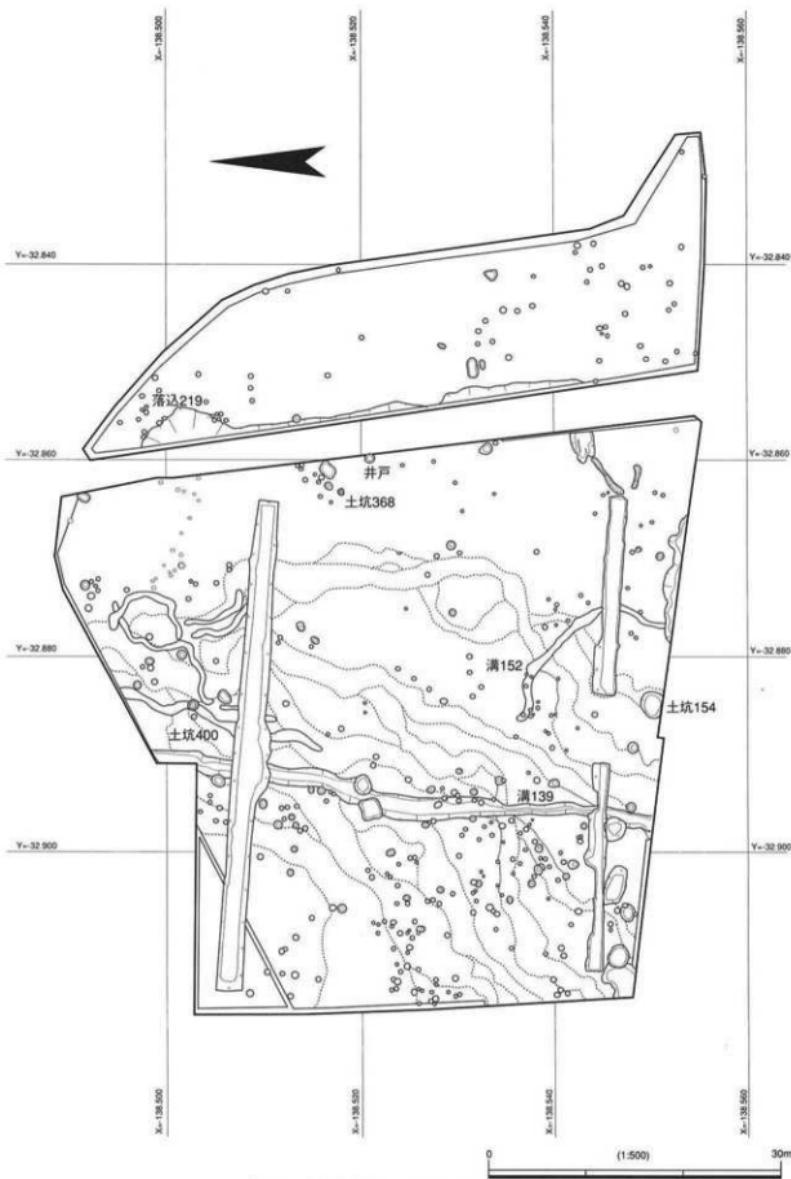
なお、この流路群は、縄文時代から弥生時代を通じて形成された河川の上面および古墳時代前期に形成された周溝墓をことごとく破壊しながら流走したことが、断面観察より確認できた。水流がより脆弱な土壤の上を辿っていった結果である。

古代の遺構は、自然地形の落込みを埋め立てた整地跡(落込219)、7世紀の土器埋納土坑(土坑368)、8世紀に掘削された柱穴群、10世紀の土坑(土坑400)、古代末期に掘られた大溝(溝139)等が挙げられる。

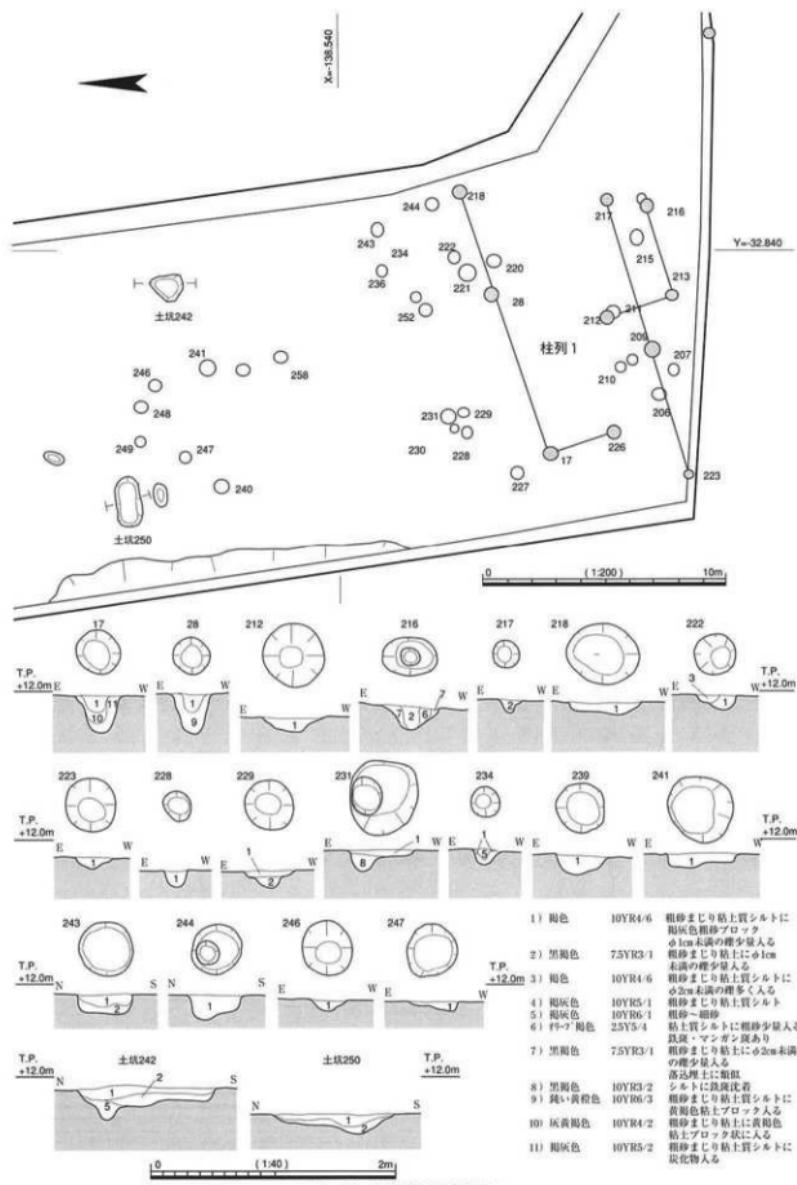
落込219 落込み219は、2A区の西側で検出した褐色砂礫を埋土とする自然地形である(第30図)。埋土は褐色を呈する疊まじりシルト層であり、6世紀の須恵器片が出土した。古代における整地痕跡と考えられる。

土坑368 土坑368は、2B区の南東端に位置する直径40cm、深さ28cmの土坑である。埋土は、粗砂まじり黄灰色粘土質シルトを主体とする。土坑底面から、土器飾の鉢が1点出土した(第38図107)。椀状の器形を有するが、屈曲して外側へと開く口縁を備えるため、鉢もしくは壺と呼称すべきであろう。外面は鈍い黄橙色、内面は黒色を呈し、内外面ともに精密なミガキが施されている。残存状態はよく、完全復元が可能であった。他に同時期の遺構が見られないことが、この遺構の特異性を際立たせている。現段階では、この土坑が掘削された意義については不明と言わざるをえないが、ここでは「7世紀におこなわれた農耕に関する土器埋納遺構」であるという憶測や「8世紀におこなわれた大規模な建物群の建築に先立って行われた祭祀的特色をもつ遺構」という仮説を示すにとどめておきたい。いずれにせよ、包含層には7世紀に所産時期を持つ遺物が僅かながらも含まれており、この遺構の存在は、その時点において、人々がこの地に関与したことの裏付けるものである。

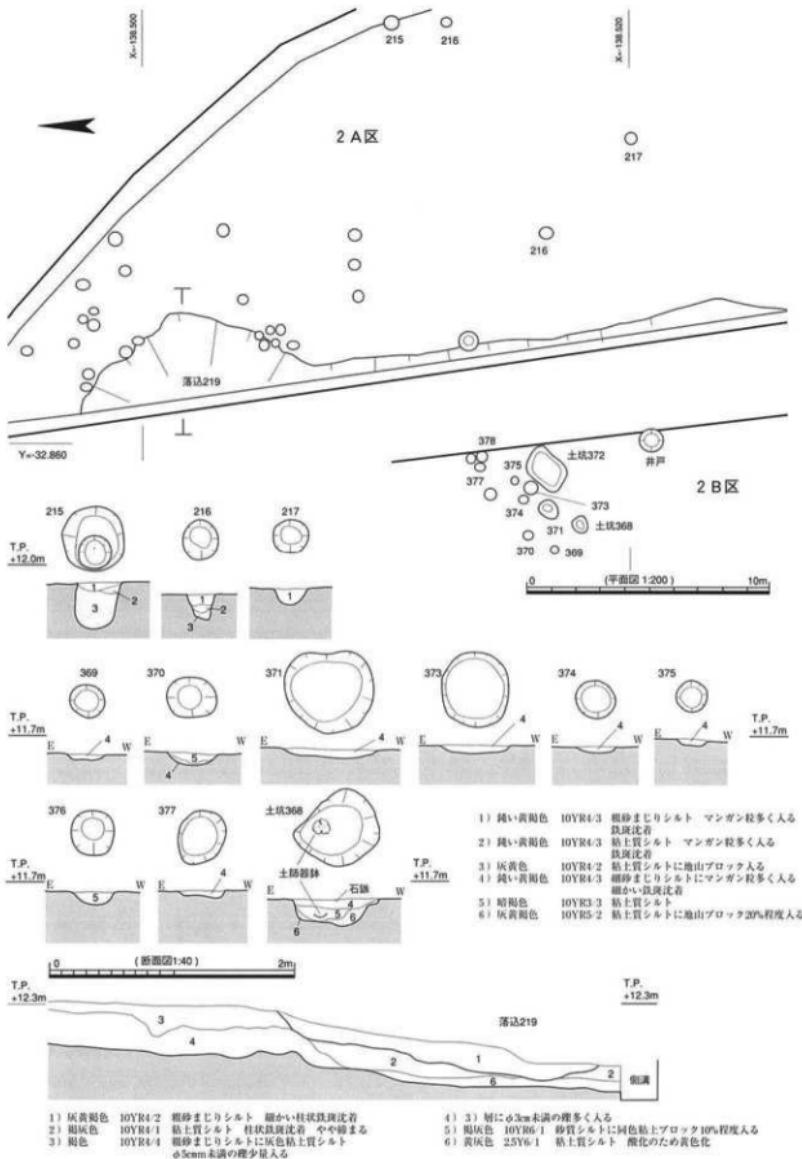
柱穴群 8世紀前半期を中心として掘削された柱穴は、300点余りにのぼる。これらは埋土と形状の違いから以下の5種類に大別できる。



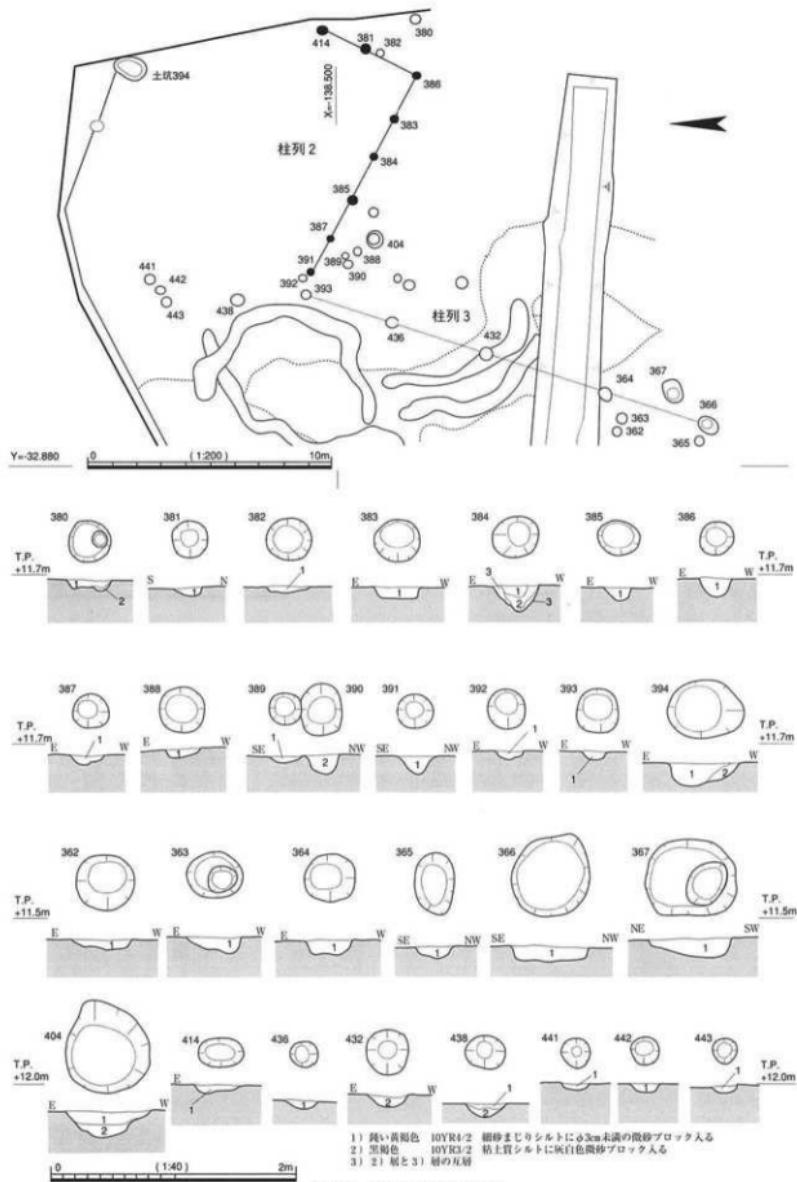
第28図 古墳時代後期～古代遺構平面図 (1:500)



第29図 古代遺構平面断面図(1)



第30圖 古代遺構平面斷面圖(2)



第31図 古代造構平面断面図(3)

- 直径30cm未満で灰黄褐色砂質シルトを主要埋土とするもの
- 直径50cm前後で黄褐色シルトを主要埋土とするもの
- 黄灰色シルトと粗砂を主要埋土とし、埋土や掘形に柱痕跡が残るもの
- 比較的浅く、粗砂まじりシルトないし細砂を埋土とするもの
- 黒褐色シルトと粗砂を主要埋土とするもの

以上の特徴に留意して柱穴を分類すると、数種の柱列を想定することができる。

柱列1 柱列1は、1A区の南側に並ぶものである（ピット17・28・218・226、ピット217・209・223）。東北東から西南西の方向軸をもつ柱列であるが、柱間の間隔が一定に保たれておらず、建物としての復元は難しい。昨年度調査をおこなった高宮遺跡（その1）調査区内では同方向に軸をもつ柱列が検出されているが、これと関連するか否かは今後の課題である。

柱列2 柱列2は、2B区東側においてL字形に曲がる柱穴群である（第31図ピット414・381・386・383・384・385・387・391）。北西から東南方向へのびる長軸と90度屈曲して北東に向かう短軸から成る。柱穴の埋土は上記4)タイプの範疇に含まれるが、著しく後世の削平を受けている地点であることへの留意も必要である。柱間隔は、約1.8mを測る一定の間隔をほぼ保つ。建物跡としての復元も考えられたが、対称となる北側柱列が確認できなかったことから、あえて柱列として表記した。

柱列3 柱列3は、2B区を北東-南西方向へと結ぶ方向軸をもつ柱穴群である（第31図ピット393・436・432・364・366）。埋土は柱列2と同様であるが、こちらは柱間隔が4.5~5.0mと幅広である。

柱列4 柱列4は、1C区と2B区にまたがる柱穴群である（第34図ピット343・344・345・346・350）。北西-南東方向を軸とし、埋土は黒褐色シルトと粗砂を主とする。柱間隔は2.3~2.5mを測る。1C区には弥生時代包含層とみられる黒褐色シルト層の堆積があり、この柱列はその上面において検出した。

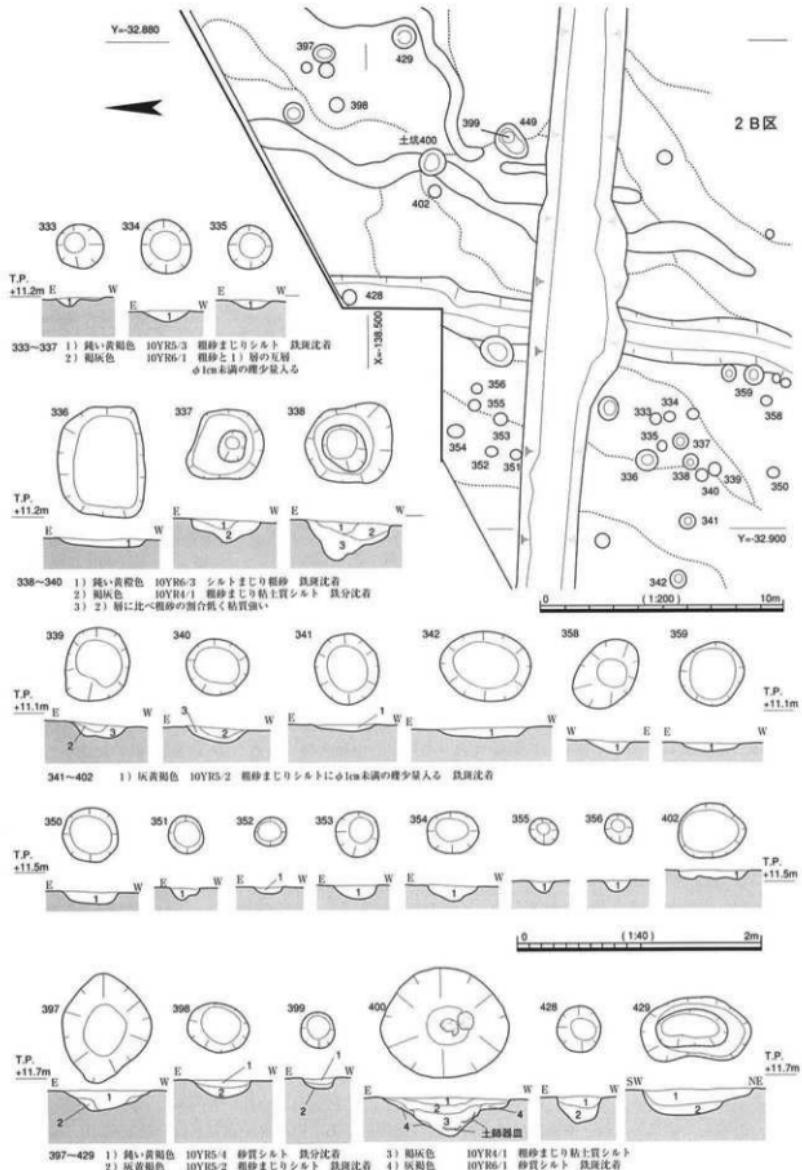
柱列5 柱列5は、2B区の西端に位置する柱穴群である（第34図59・65・68・70・73・79）。西北西-東南東方向の軸とし、12.5mの長さをもつ。掘方の大きさには大小の差があるが、埋土は黒褐色シルトと粗砂から成る。柱間隔は2.5mを測り、一定の間隔を見せる。

柱列6 柱列6は、同じく2B区の西端において検出した柱穴群である（第34図61・72・271・308・272）。北東-南西の方向軸を持ち、2.3mの柱間隔を保ちながら調査区外へと続く。埋土は、黄灰色シルトと粗砂を主体とする。柱穴の掘方には、大小の差があるものの、中央に一段深く柱痕跡を残す形状をもつという共通点がある。

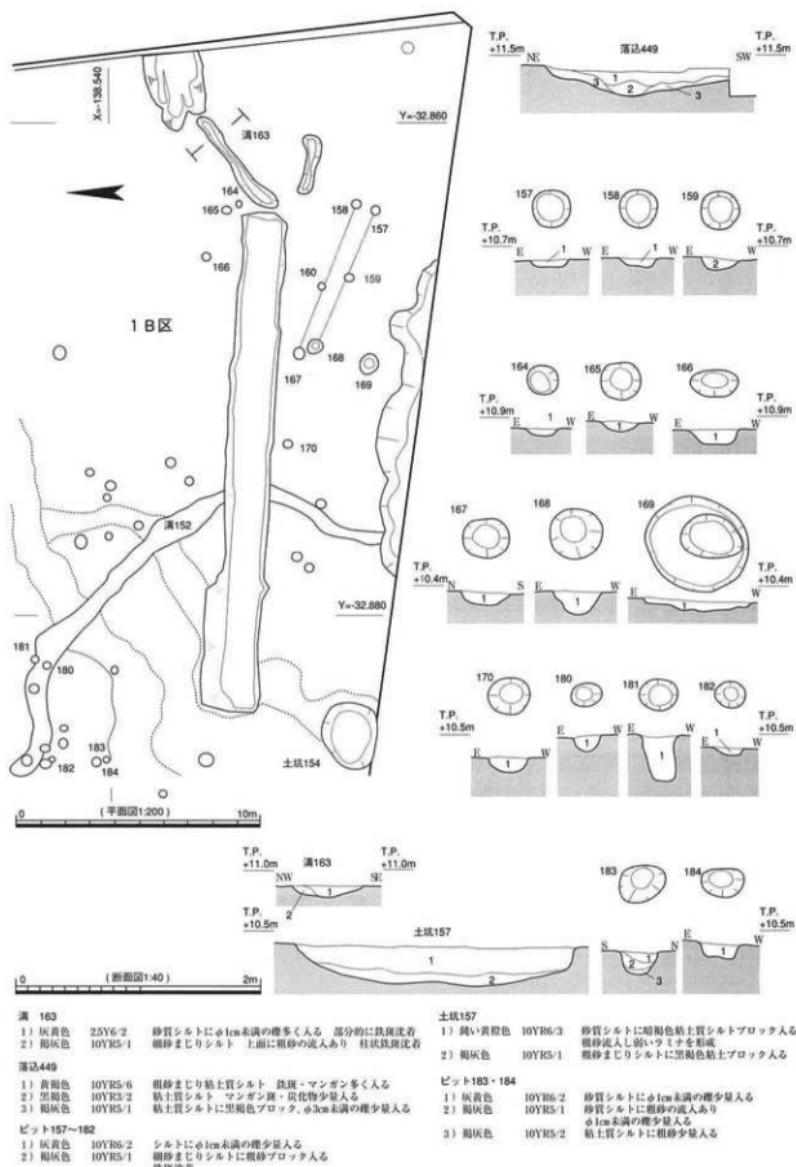
柱列7 柱列7は、1B区と2B区の境界付近において検出した柱穴群である（第36図51・52・49・302・115・293）。北北西-南南方向の軸をもち、6個の柱穴から成る。柱間隔は1.5~2.0mを測り格差がある。掘形は浅く、埋土は灰黄褐色砂質シルトを主要埋土とする。

柱列8 柱列8は、一部が溝139と切りあい関係にある柱穴群である（第36図ピット108・109・110・111）。北東-南西方向に長軸をもち、南東-北西へとT字形に開く。掘方は径50cm前後、深さ30cmを測る。黄褐色シルトを主要埋土とするが、これは古代包含層と同質のものである。柱間隔は長軸が4m、短軸が2mを測る。

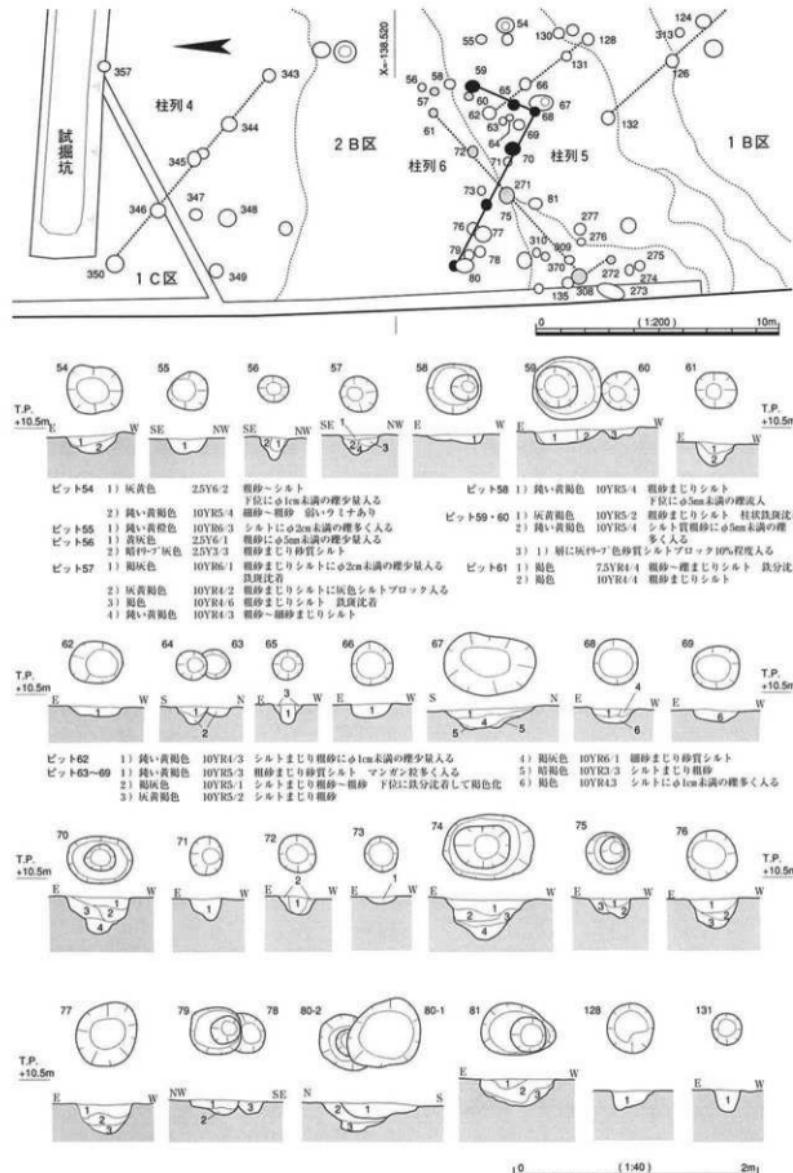
柱列9 柱列9は、はじめ北東-南西方向へ軸をもつ柱穴4個から成る柱列を想定したが、埋土の類似性から分類した結果、北西-南東方向へ主軸を持つ建物跡である可能性が示された（第36図101・107・255・95・94・146・256・258）。確認できた柱穴は9個である。柱穴の掘方は、径30~50cmと差異を見せるが、柱間隔は2.3mを測り、ほぼ一定の距離を保つ。埋土は黄褐色シルトが主体であった。



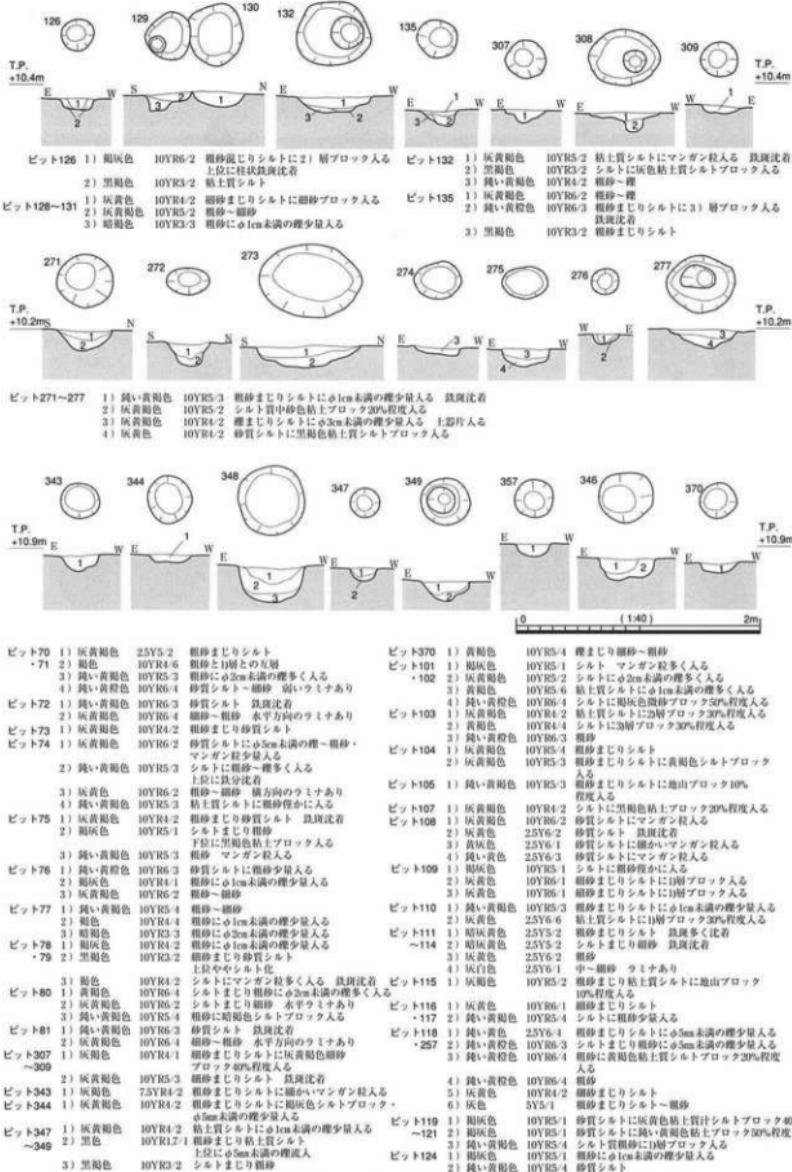
第32図 古代遺構平面断面図(4)



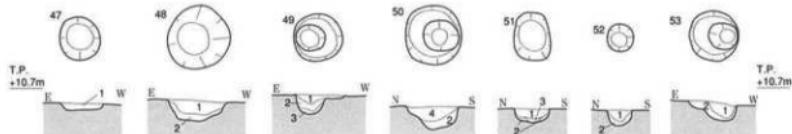
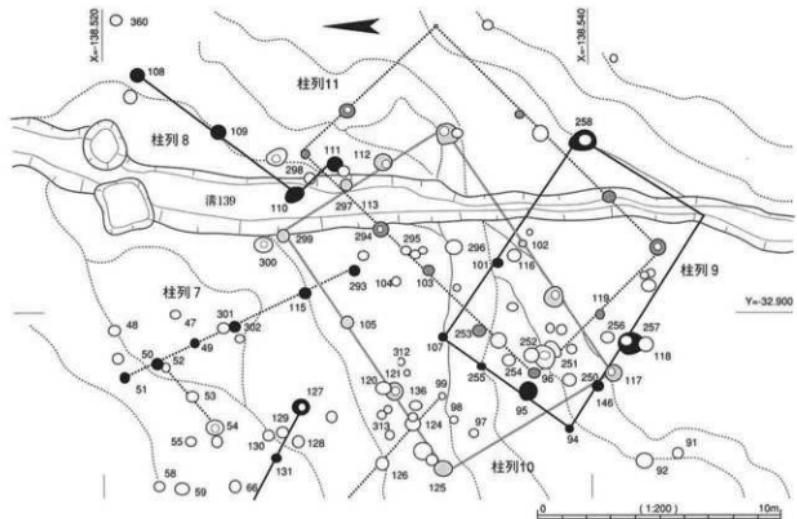
第33図 古代遺構平面断面図(5)



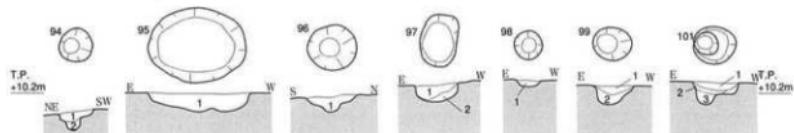
第34図 古代遺構平面断面図(6)



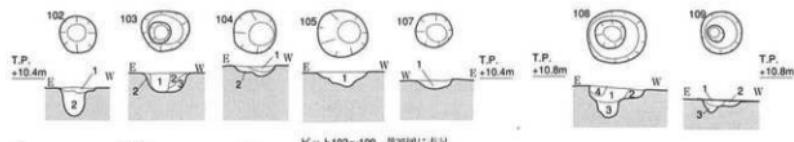
第334図 古代遺構平面断面図(7)



ピット47~49 1) 黄・黄褐色 10YR5-1 粗砂まじりシルトにマンガン粒多く入る
2) 黄褐色 10YR5-2 粗砂に5mm未溝の砂多く入る
3) 黄褐色 10YR5-3 粗砂混じりシルトにシルト多く入る
ピット51 1) 黒褐色 10YR3-2 シルトに3mm未溝の砂多く入る
2) 黄・黄褐色 10YR3-3 粗砂まじりシルトに5mm未溝の砂少しある

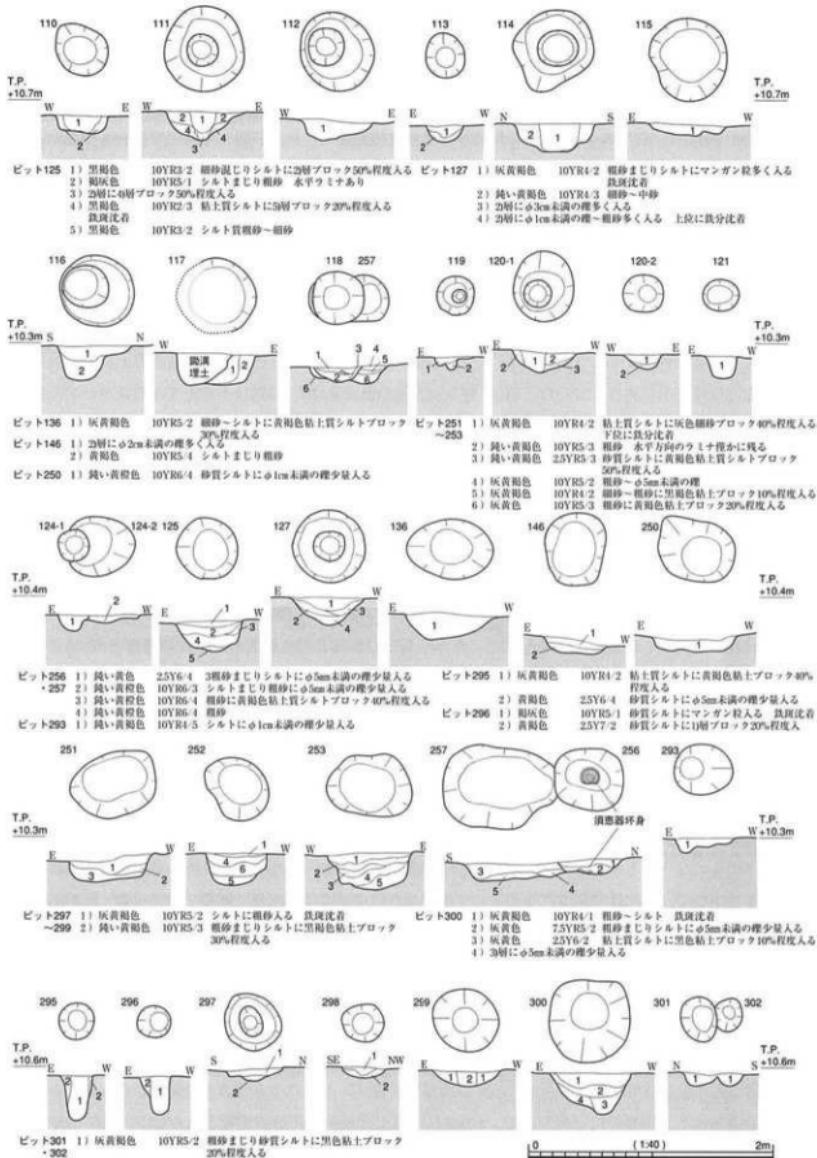


ピット94 1) 反青褐色 10YR4-2 粗砂まじりシルトに2) 壁ブロック入る
2) 黑褐色 10YR3-1 黏土質シルトに粗砂多く入る
ピット95 1) 黄・黄褐色 10YR6-3 シルトまじり粗砂に黒色粘土ブロック20%程度入る
ピット96 1) 反青褐色 10YR4-4 粗砂まじりシルトに微細ブロック30%程度入る
マングン粒入る
ピット 1) 反青褐色 25Y4-3 粘質シルト 上位に粗砂流入
97~98 2) 黄灰色 25Y5-1 粗砂~粗砂
ピット 1) 灰色 3Y6-1 粘質シルトに粗砂ブロック40%程度入る
99~101 2) 明灰黄色 25Y5-2 シルトまじり粗砂



ピット102~109 第35回に記述

第36図 古代構造平面断面図(8)



第37図 古代遺構平面断面図(9)

柱列10 柱列10は、11個の柱穴から成る柱列である（第36図112・297・294・103・253・96・119）。北東－南西方向に主軸をとり、2間×3間の規模をもつ建物跡である可能性が高いが、検出できていない柱があるため明言はできない。柱間隔は、3.5～3.8mを測る。埋土は灰黄褐色砂質シルトを主体とする。

柱列11 柱列11は、柱列10とやや方向軸を異にしながらも重複する位置にある柱穴群である（第36図ビット298・294・103・253・96・117・102）。北東－南西方向に主軸をとり、3間×4間の規模をもつ建物跡である可能性がある。柱間隔は、3.0～3.5mを測り、やや偏りが見られる。埋土は灰黄褐色砂質シルトが主体であった。

以上、柱穴群を柱列として記述したが、全体的に見て、その方向軸は必ずしも正方位を意識しておらず、北西－南東あるいは北東－南西方向に軸をとっていることがわかる。

土坑400 土坑400は、2B区中央付近において検出された、直径50cm、深さ30cmの規模をもつ遺構である。埋土は、砂溝の上面から掘り込まれているため、砂質が強い暗灰黄色粘土質シルトを主要埋土とする。土坑の底面付近から、土師器皿が2点出土した（第38図110・111）。ともに内面を上に向かた状態であり、ほぼ完形で残存していた。110は明るい肌色の色調を持ち、111はややくすんだオリーブ灰色を呈している。上述の土坑368と同様、同時期の遺構が周囲に見られず、その性格は不明である。やはり、祭祀的性格を備えた遺構である可能性を現時点では示しておきたい。

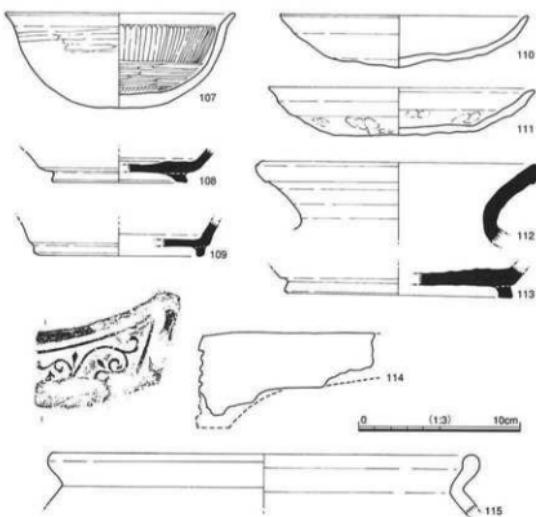
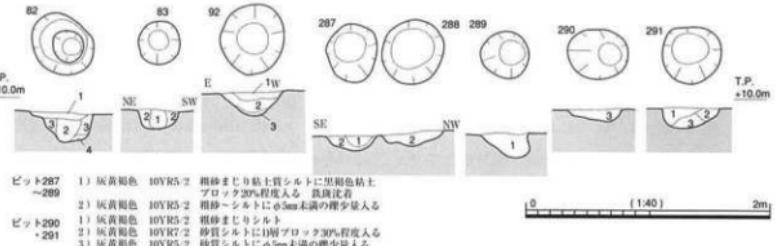
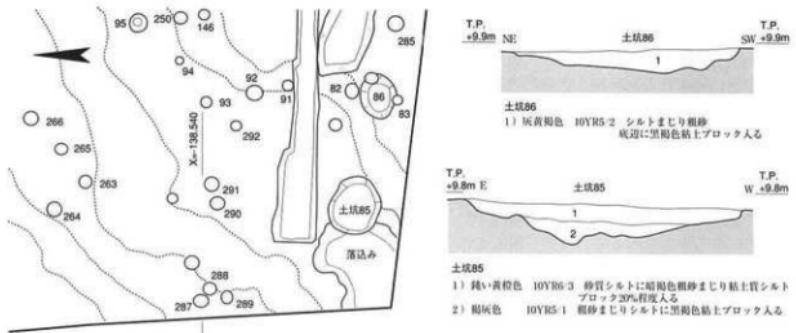
遺物 今回の調査では、古墳時代から古代に所産時期をもつ土器片が大量に出土したが、遺構に伴うものは少なく、大半が包含層から出土したものか、後世の遺構埋土内に混入したものである。以下、時期・器種を考慮して図示した（第38図下段・第39～42図）。

第38図は、遺構内から出土した遺物の実測図である。107は土坑368から出土した土師器壺（壺C）である。外面は剥落が著しいが、内面には横方向ナデの後、縱方向・横方向に緻密なミガキを施している。外面は鈍い黄橙色、内面は黒色を呈する。丸みをおびた体部と短く屈曲外反した口縁部をもつ。7世紀初頭（飛鳥I～II式）の製品とみられる。110・111は、土坑400から出土した土師器皿である。口径15～16cmを測り、やや深みのある器形を有する。両者ともにナデ調整を施すが、外面に指頭圧痕を随所に残すため、表面には凹凸が目立つ。10世紀の所産品である。114は、溝469（溝420の上層部分）より出土した軒平瓦である。内区には繊細な唐草文を配し、外区には圈をめぐらせている。高宮庵寺出土遺物と同じ文様をもつものであり、創建当時（白鳳期）所産の製品と考えられる。

第39図は、5世紀から6世紀に所産時期をもつ出土遺物の実測図である（上段に5世紀・下段に6世紀所産のものを主として図示）。須恵器は比較的遺存状況の良いものが目を引いたが、土師器類は磨滅したものが多く、図化は容易ではなかった。出土した須恵器には、环身・环蓋・高环・壺・瓶の器種があり、土師器には壺・高环・瓶等の器種がある。須恵器のなかには初期須恵器と呼称される一群が含まれていたが、これらは一概に青灰色の外面と赤紫～セピア色の断面を持っており、灰白色に焼きあがった6世紀に属する須恵器とは明確に分類できた。

116～123は环類である。117は、撮みを有する环蓋で、カキ目状の沈線帯とヘラ状工具による列点文を施す。5世紀前半の製品である。118は、包含層（第2層）よりほぼ完形で出土した。120は丸みをおびた断面形の受部をもつ。124・125は高环の脚部であるが、ともに4方向の方形透かしを有している。

126～129は須恵器壺の口縁部である。129は、口縁下に断面三角形の突帯を巡らせる。130～132は布留式の特徴を備えた土師器高环の脚部である。133は土師器瓶の把手部である。体部は確認できていなが、円形の穿孔をもつ底部破片は2A区より出土している。



第38図 古代造構平面断面図(10)・造構内出土遺物実測図

137～141は、6世紀に所産時期をもつ須恵器坏類である。139～141は、ほぼ完形で出土した。調査区北側からの土砂流入によって運び込まれたと考えられるが、外面には磨滅がほとんどみられないことから、当該時期に営まれた居住城が近隣にあったものと推測される。142は高坏の脚部である。裾部近くに三角形の透かしを有する。6世紀末頃の製品である。143・144は壺の体部である。143は上胴部にナデによる突帯をめぐらせる。144の内面には液体の残滓とみられる黒色化した付着物が認められた。

第40図には、7世紀末～8世紀に所産時期をもつ須恵器の坏・皿類を掲げた。なかでも8世紀前半期に所産時期をもつ高台付坏身が、出土点数についてはもっとも多く、他を凌駕する。高台の形状は、断面円形のものや方形のもの、外側へ張るものなど多彩である。しかし墨書き有する等、特徴のあるものが1点もみられないことから、すべてが一般什器として使用消費されたものと思われる。

第41図には、坏類以外の須恵器実測図を掲げた。器種は皿・壺・平瓶・短頸壺・長頸壺・細頸壺・四耳壺・広口壺・細頸瓶・擂鉢・風字硯・台付盤等、多岐にわたる。203は平瓶の口縁部である。外面および内面の一部にオリーブ灰色の自然釉が付着する。

210～214は須恵器壺の底部である。211は大きく開いた高台に焼成前の穿孔をもつ。215・216は短頸壺の肩部であり、ともに蓋をかけて焼成した痕跡が残る。

221は風字硯の脚部である。脚は断面四角形を呈する。墨痕は残っていないが、内面は平滑であった。222は台付盤の脚部である。台付盤は通常3本の脚をもつ。脚の断面は面取りが施された変形六角形を呈する。223は長頸瓶（壺N類）のミニチュア品である。底部は厚く、外面にヘラ状工具でナデ上げた痕跡が残る。224は細頸壺の底部である。高台はもたず、底面には糸切痕を残す。226は四耳壺の肩部である。直径5mmを測る円形孔を穿った方形の耳部をもつ。236～238は壺の口縁部である。238には口縁部に並行タタキ後ナデを施した痕跡が見られる。

第42図には、土師器・陶器・磁器・黒色土器・瓦等の遺物実測図を掲げた。土師器の器種には、坏・壺・製塙土器が、青磁には坏・灰釉陶器には皿と碗がある。これらには8世紀後半～10世紀に所産時期を持つものが含まれている。239・240は土師器坏である。ともに横方向のナデを施すが、240には一部に斜め右上へのナデ上げが認められる。241は製塙土器の口縁部である。外面には指頭圧痕が残り、凹凸が見られる。内面は工具を使用してなたた痕跡が残る。奈良時代末期から長岡京期にかけての出土例が多いタイプである。242・250～257は土師器壺の一部である。242は球状の体部をもつ壺の把手であり、他は口縁部である。254・257には外面にハケメ痕が残っていた。

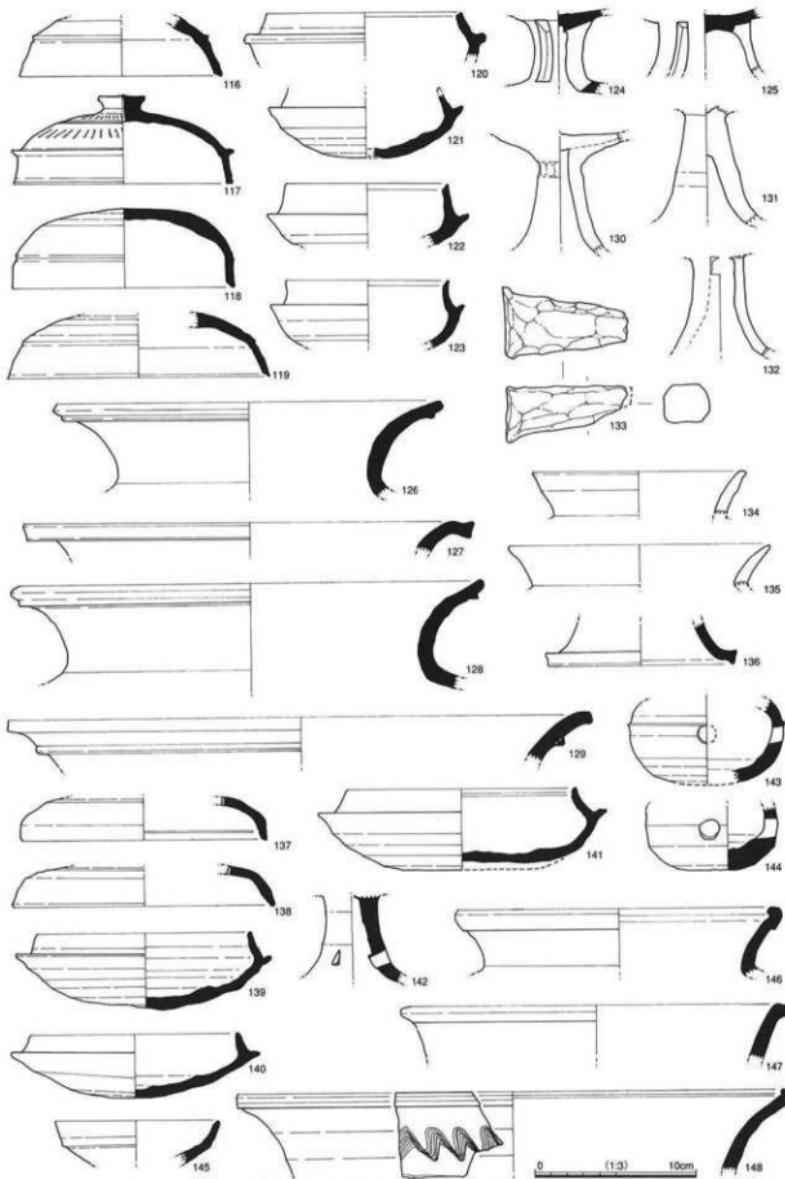
243は輸入青磁の坏である。内面の素地に曲線模様を描き、その上に緑灰色の釉薬を施す。口縁端部は花弁状に刻み目を入れる。8世紀の中期に所産時期をもつ越州窯系産の製品である。

244～247は灰釉陶器である。245は、内外面の口縁部にのみ釉を塗布するため、下半部は露胎する。9～10世紀の製品である。

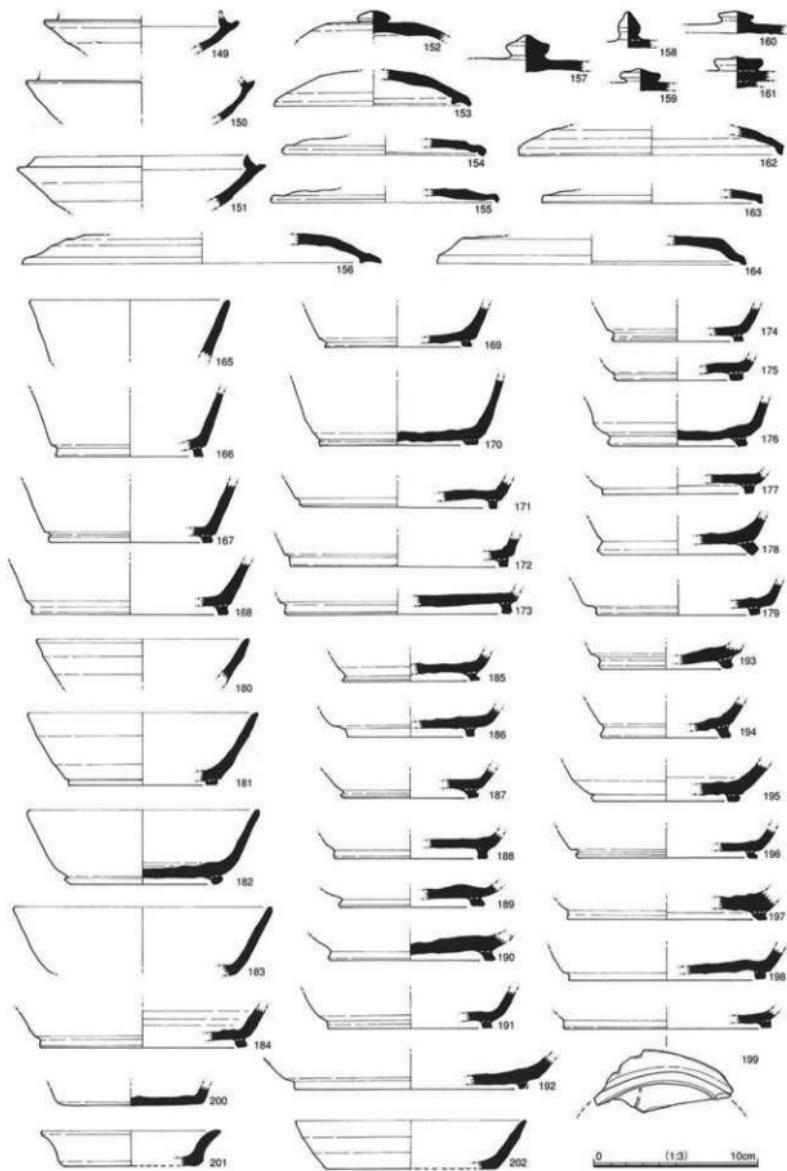
248・249は黒色土器の底部である。外面はにぶい浅黄色、内面は黒色を呈する。ともに10世紀の製品である。黒色土器の出土は全体的にみて、少数であった。

258・259は須恵器壺の口縁部である。259は体部内面に同心円状のタタキ、外面には斜め右下方向へのカキ目を施す。外面頸部には工具によるナデが認められた。

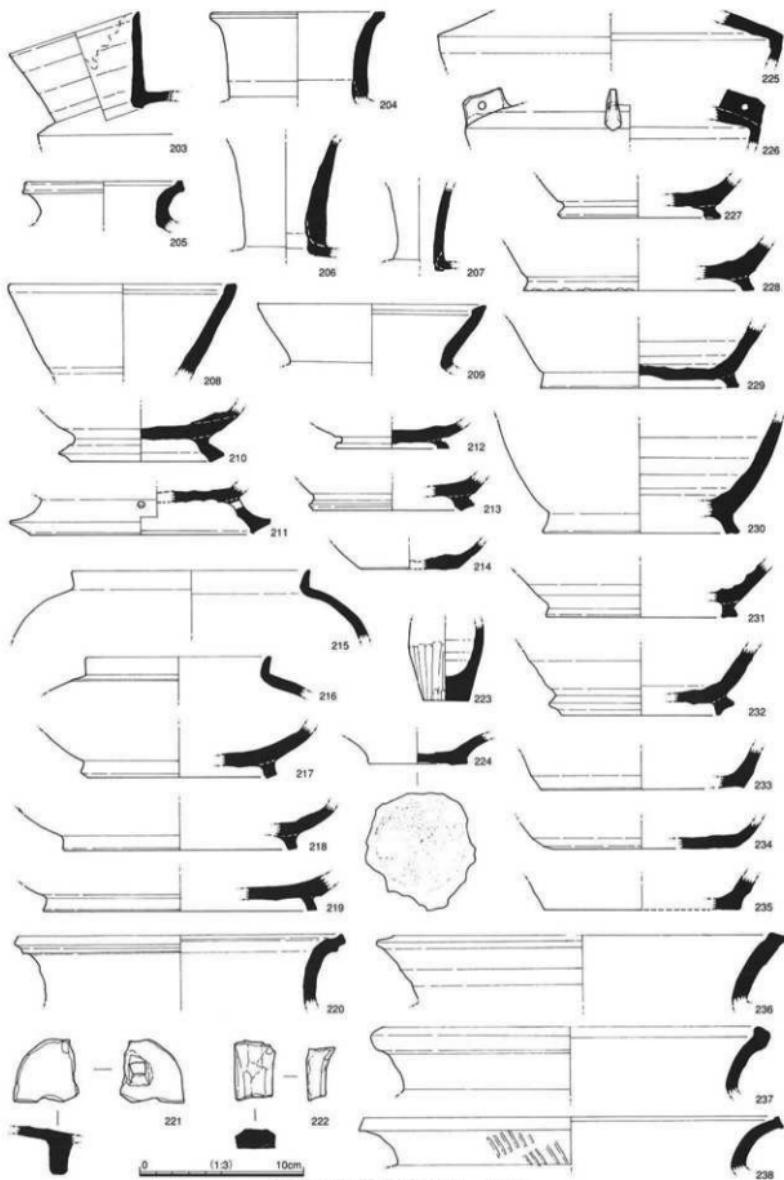
瓦には布目と繩目を持つものがある。今回の調査では予想以上に瓦類の出土が多くみられた。その多くが平瓦であるが、割れ口は磨滅しており、接合する資料も少ない。土砂とともに流れ込んできたものと考えられ、高宮廃寺の屋根瓦として使用されていたものと推測する。



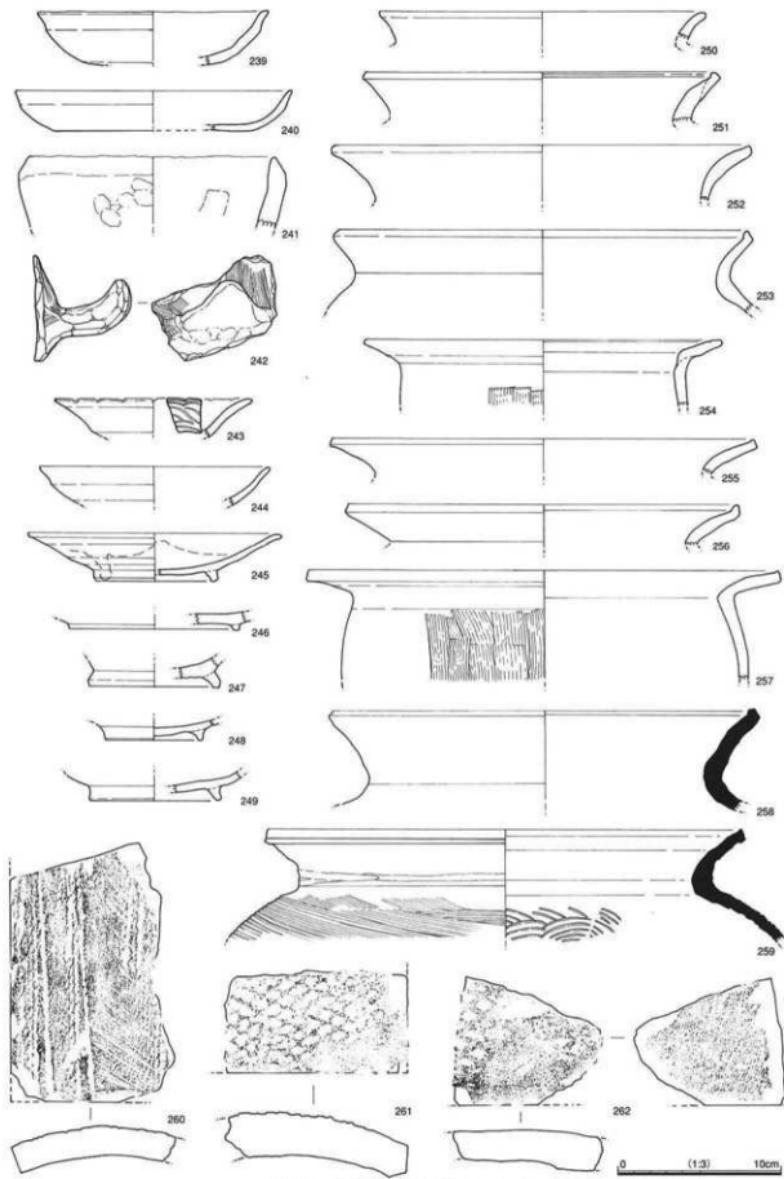
第39図 出土遺物実測図(古墳時代後期) (S=1:3)



第40圖 出土遺物実測図(古代I) (S=1:3)



第41図 出土遺物実測図(古代2) (S=1:3)



第42圖 出土遺物実測図(古代3) (S=1:3)

第4節 中世の遺構と遺物

今回の調査において最も厚く堆積していたのが、鎌倉時代を主とする中世包含層である。

中世包含層は、計3層（第2-1・2-2・2-3層）に細分できため、その細分層ごとに包含層を除去して遺構面を検出した。1A区は、鉄斑の沈着が広範囲にみられる褐色シルト層である第2-1層によって全面が覆われていた。これを除去したところ、西半部にのみ暗褐色粘土質シルトである第2-2層が堆積する状況が見られた。この第2-2層を除去したところ、東半部において、中世遺構面の基盤層であると認識していた黄褐色シルトを呈する堆積土内に中世遺物を含む様相が見られた。そのため、この黄褐色シルト層を中世包含層の一部として捉えることとし、第2-3層として除去した。結果、2間×5間以上の両庇をもつ掘立柱建物（建物1）を1棟と井戸3基（井戸41・井戸43・井戸204）、方形土坑2基（土坑40・土坑42）を検出した。

2A区では、1A区に近い南半部と西半部でのみ中世包含層の堆積を確認した。第2-1層・第2-2層を除去したところ、曲線を描く鶴溝を検出した。また、北端部において耕作地の区画溝と考えられる溝を1条検出した（溝331）。柱穴や土坑がみられず、また遺物の出土も稀少であったことから、2A区該当地点は耕作地であったとみられる。

1B区・2B区では、第2-1層および第2-2層の堆積が見られた。2A区同様、湾曲した区画溝（溝45・溝396）と、不定形に曲がる鶴溝群を検出した。

溝45・溝396 1B区・2B区で検出した区画溝である。ともに幅0.4~0.6mを測り、最深0.3m程度残存する。埋土は第2-2層である灰黄色シルトである。標高が高い北西にコーナーを設け、湾曲して南、西方向へとのびる方向性を見せており、周囲の鶴溝方向もほぼこれに準じている。

この区画溝と鶴溝群が掘削された遺構面の時期確定は、条里制水田地割がこの区画内に導入された時代の決定に関わるものである。第2層に含まれる遺物は14世紀を下らないことから考えると、少なくとも中世前半期には、この区画内において条里に基づく地割が施行されていなかったことが推測される。

しかし、1B区西側を南北に走る里道は、条里地割に則した方向性を有しており、西接・南接する小路遺跡（その3）調査区では、連続すると見られる中世耕作面において、ほぼ正方位を示す鶴溝群が検出された。このことは、1B区の西側を南北に走る里道と南側を東西に通る既設水路が、中世前半期における条里地割の北側限界ラインであった可能性を示している。

溝139 溝139は、調査区中央を南北方向に走る遺構である。1B区北端付近で一時分断されるが、ふたたび連続して調査区外へと続く。溝幅は1.8~2.6m、深さ0.3~0.6mを測る。埋土はラミナを伴う疊まじり粗砂である。掘削時期は不明であるが、中世初頭には埋没していたものと考えられる。一部に石列を配しており、その付近から均整唐草文を施した軒平瓦が出土した（第38図114）。

この溝の方向軸は真北に対して12°西へ振れる方位を示す。1A区で検出された建物とは40mほどの距離を隔てるが、方向軸を重視するならば、同時期の遺構として扱うことが出来るのではないかと考えられる。居住区の周囲をめぐる区画溝としての性格を備える遺構であれば、寸断された部分は土橋として機能していた可能性が指摘できる。

遺構 建物1（ピットN1~N6・Ns2~Ns5・S1~S6・Ss0~Ss4・Ss6） ほぼ東西方向を主軸とする掘立柱建物である（第44図）。主屋を支える柱列のほかに庇もしくは縁側を支える2列の柱列を作り。今回の調査では5間×2間の間数をかぞえる総計22個の柱穴を検出した。もっとも柱列の西端は調査区の

壁にかかるており、5間以上の柱列として連続する可能性も否定できない。

主屋の柱穴は、直径約20cm・深さ約50センチ前後の規模を測る。径は狭いが総じて深く掘り込まれている。このうち、柱根が残るものは3個であり、疊まじり灰黄色シルトを主要埋土としていた。しかし、柱根を有しないビットは黄褐色粘土ブロック(地山ブロック)を含む褐色シルトによって充填されており、故意に柱を抜きとった後で埋め戻された可能性がある。

庇(もしくは縁側の支柱)の柱穴は、直径15cm・深さは20cm程度と浅く、小型のものが目立つ。南側庇柱が1ヶ所検出できなかったことから、この部分に建物入口が設けられていたと考えられる。このことは、この居住城への入口(門)がさらに南側に設けられていた可能性を示している。

また、棟の東側面中央と柱穴N2とS2を結ぶラインの西側中央に柱穴を検出した(ビット26・31)。この2個のビットは当初、建物主軸中央ライン上に相対して位置していることから、棟持柱の柱穴である可能性が指摘されたが、建物主柱穴が西側へ連続することが判明したため、その可能性を否定せざるを得なくなってしまった遺構である。もっとも建て替え等が行われていた場合については、その意義を保ちうる性格を備えていることから、図示することとした。

第44図263~267は建物1を構成する柱穴内より出土した遺物である。263はビットS1、264はビットN3、265と267はビットN4、266はビットNs3より出土した。これらのビットは柱根を残していないことから、遺物は埋め戻した際に混入したものと考えられる。263~267はすべて12世紀に所産時期をもつものであり、このことは、建物の廃絶が12世紀を下がらないことを示している。

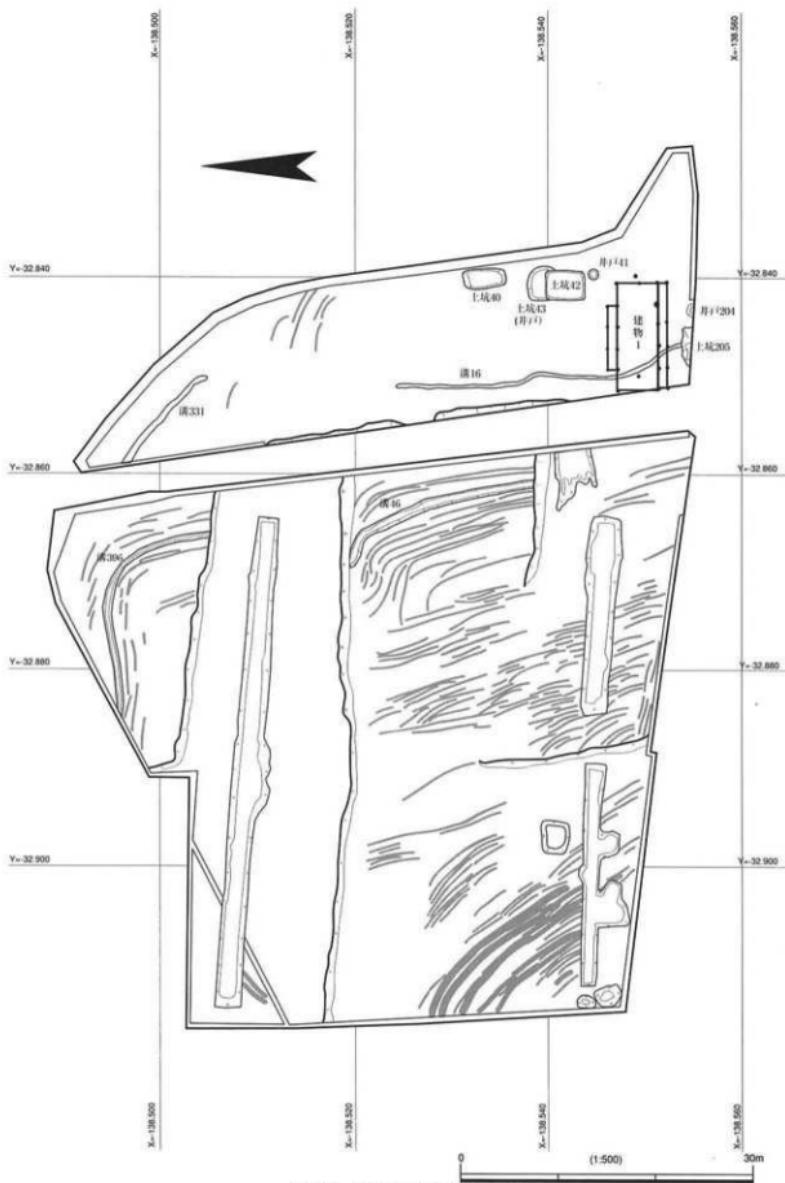
土坑40 建物1の北西側において検出した遺構群のうちのひとつである。長辺4.0m、短辺2.0m、最大深0.3mの規模を持つ、ややいびつな隅丸方形土坑である(第46図)。底部はほぼ平坦であり、埋土中から瓦器碗・土師器皿・土師器羽釜など、12世紀中期を中心とした所産時期をもつ遺物が多く出土した(第48図上段)。

土坑42 井戸41の北側で検出した土坑である。長辺5.3m、短辺3.0m、最大深0.4mを測る方形土坑である(第45図上段)。北半中央には焼土の広がりが認められた。12世紀に所産時期をもつ土師器皿や瓦器碗の破片が遺構内より多数出土した。また、遺構埋土を除去したところ、埋没した井戸があらわれた(井戸43)。

土坑40・42の性格はその遺物出土状況からみて、炊事場としての機能を備えた施設ではなかったかと思われる。中世遺構面において検出された類似遺構は近隣にも少なからず存在し、遺物も日常什器や煮沸具が炭化物を伴って出土する様相をみせる。廐棄土坑として報告された例もあるが、焼土や炭化物を伴う理由を説明できていない。上屋構造の存否については解明されておらず、今回の調査でもこれに該当するような柱穴などの検出はみられなかったが、隣接して井戸が設けられていることからも、炊事施設としての可能性をここに掲げておきたい。

井戸41 土坑群の南端において検出された平面円形を呈する素掘りの井戸である。規模は、直径2.2m、中心部は1.5mを測る。底面東隅部には1段深い掘方が見られ、ここから土師器羽釜片がまとまって出土した。接合復元を試みたところ底部を欠損していることがわかり、筒状の井戸枠として転用された製品と考えられる。他に遺物の出土はなかった。

井戸43(土坑43) 土坑42の北半部下層において検出した遺構である(第45図中・下段)。当初は土坑として調査を進め、遺物も土坑43として取上げていたが、井戸と判明した後は井戸43とした。直径3.1~3.3m、中心部の最大深度は1.2m(土坑42検出面からは1.5m)を測る。埋没状況から上層と下層とに分層



第43图 中世遺構面平面圖 (S=1:500)

ができる。上層は比較的砂質の強いシルト層で、井戸検出面より0.6mほど掘り下げた部分にある。中央部には炭化物の堆積が見られ、その周囲には完形の瓦器碗(第47図299)・土師器皿(第47図277)・石・木製槽・直径5cmを測る丸太材が出土した。下層は粘土質が強いシルト層であり、含水率が高いため黒褐色ないし青灰色を呈する。炭化物の混入はみられず、部分的に粗砂の流入が認められた。底部中央には木製曲物(写真図版4)と、これを固定するための木杭が打ち込まれていた。

井戸204 1A区壁際において検出した遺構である。調査区外へと続くが、形状から井戸41と同規模のものであったと考えられる。すなわち直径2m程度を測る素掘りの井戸であったと考えられる。埋土内からは、須恵器擂鉢(第50図419)や施釉陶器(第49図390)・瓦器碗片・土師器皿片等が出土した。

以上の遺構群について、出土遺物や埋土堆積状況からは、以下のような推測が導き出せる。まず、11世紀後半期において、建物1の建設とともに井戸43が掘られ、一定期間使用された。この井戸は曲物を底面に据え、上屋構造を有していたと考えられる。やがて井戸内に泥土が堆積したためこれを廃棄し、新たに井戸41・204を掘削した(12世紀初頭)。井戸41の底面には底部をうち欠いた羽釜が据えられた。埋没して円形の凹地となった井戸43跡は、炊事場として使用され、ここで煮炊きが行われたと見られる。やがて12世紀中半には新たに方形土坑である40・42が掘削され、炊事場の拡張が図られた。これらの施設は13世紀中半頃までは機能していたものと見られる。この間、建物1の建て替えがあったか否かであるが、掘立柱建物の存続可能年数が耐久面において限られていることを考慮するならば、十分に考えられる。13世紀には、周辺において棚田が形成され、一帯は耕作地として利用されたと推測される。

遺物 中世遺構面において検出した遺構および直上の包含層から出土した遺物は多数にのぼる(第47図～第50図)。

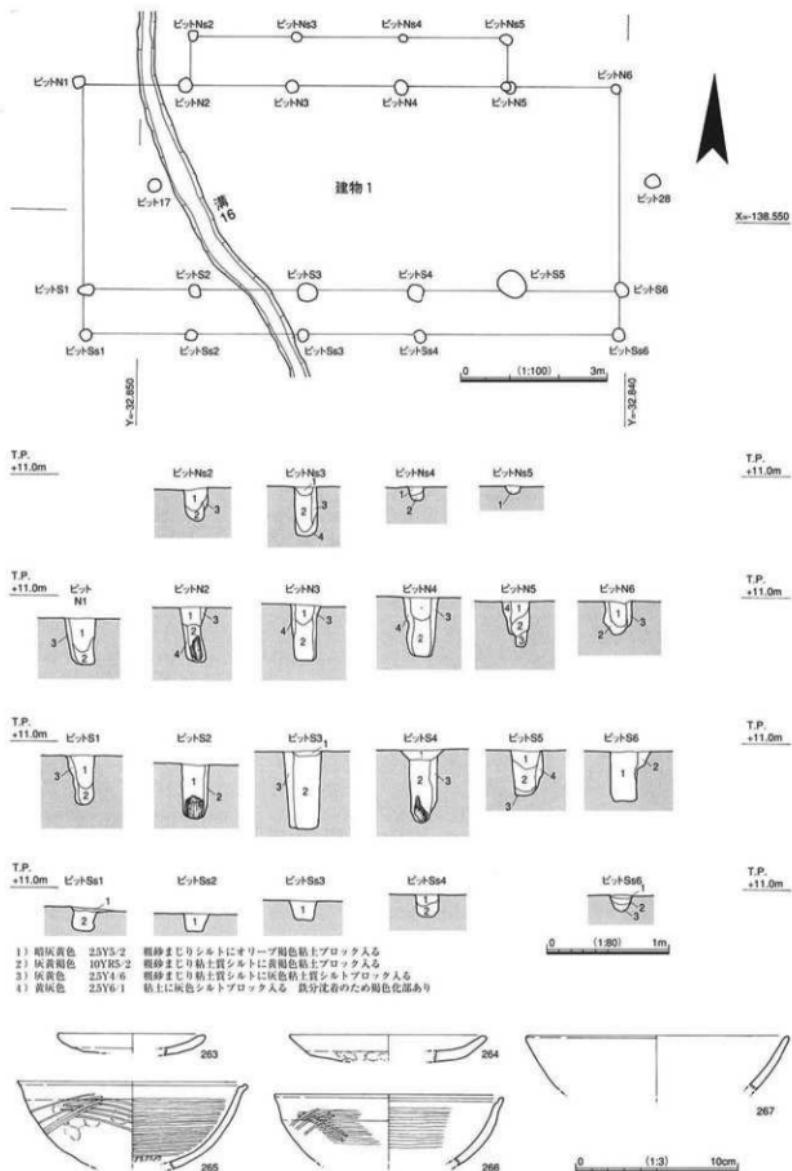
第47図は井戸43から出土した遺物の実測図である。上層からは、12～13世紀の製品が主として出土したが、下層からは11世紀末期～12世紀初頭に所産時期をもつものが多く見られた。そのほとんどが土師器皿と瓦器碗であった。268～288は土師器皿である。口縁端部を「て」字状に折り曲げるものや、平底をもつものなど、一定の時期幅がみられる。大型の皿は外部に指頭圧痕を残すものが多く、器形にひずみを生じているものも目立つ。283は深みをもつ大型皿であるが、外面底部には棟状の工具圧痕が残る。286は内面に黒色化が見られることから灯明皿と使用されたものとみられる。

289・290は、小型の瓦器碗である。289は焼成不良のため器壁が浅黄色を呈する箇所が多くみられるが、口縁部内面に段をもつなど、瓦器碗の製作手法を用いた製品である。底部には、高台の接着痕が認められた。290は、内外面ともにミガキが残り、底部内面には放射線状の暗文が認められた。口縁端部はやや肥厚し、内面に段をもつ。291は土師器の台部である。上部構造は明らかではないが、脚付皿である可能性が高い。

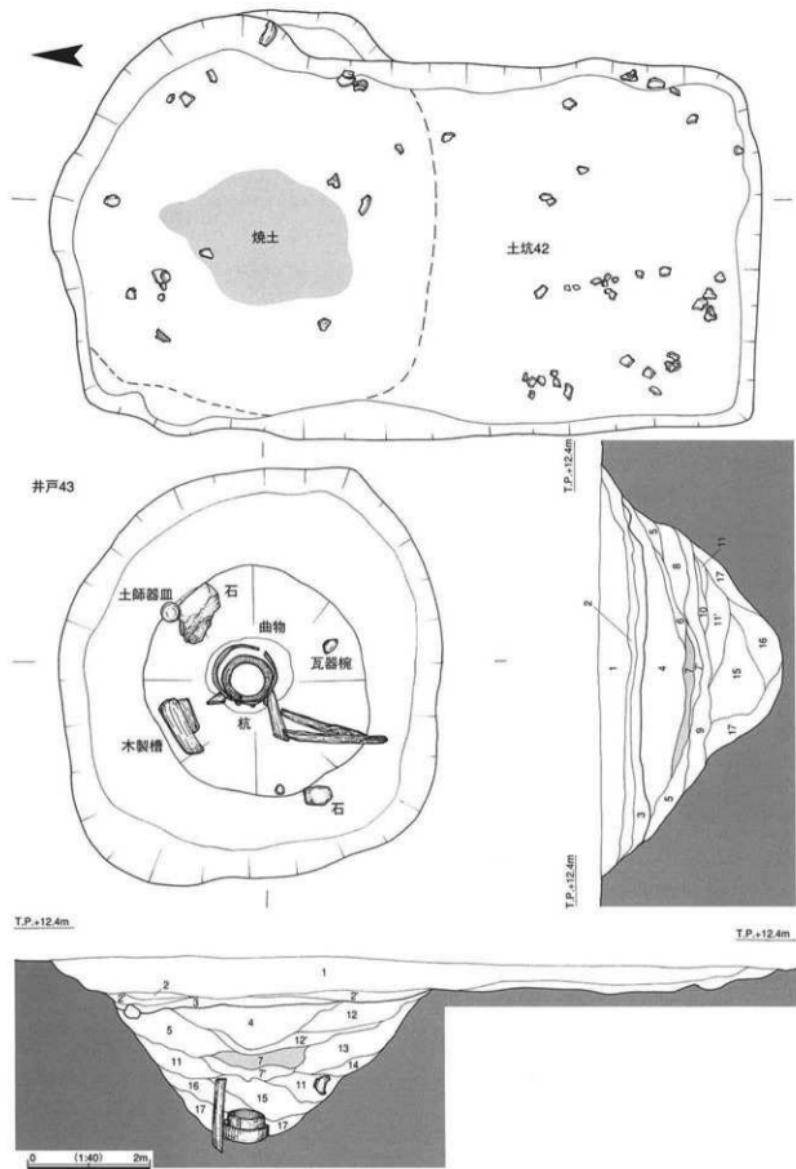
292～305・307は瓦器碗である。楠葉型I段階、大和型I・II段階のものが多数を占める。299は井戸下層より出土した大和型I段階の製品である。内面・外面ともに密にミガキを施し、口縁端部内面には段を有する。底部内面には格子状の暗文が認められる。底部には焼き歪みがあり、器壁が高台よりも下方へ飛び出している。このため、かろうじて自立はするものの高台はその存在意味を失っている。底部外面の高台内には、焼成後に「×」記号が刻まれているが、これは焼歪みに起因するものであろうか。

第48図には、土坑40および土坑42より出土した遺物の実測図を掲げた。遺物の所産時期は概ね12世紀を中心とする。土師器皿・瓦器碗のほかに、土師器羽釜の出土があった。

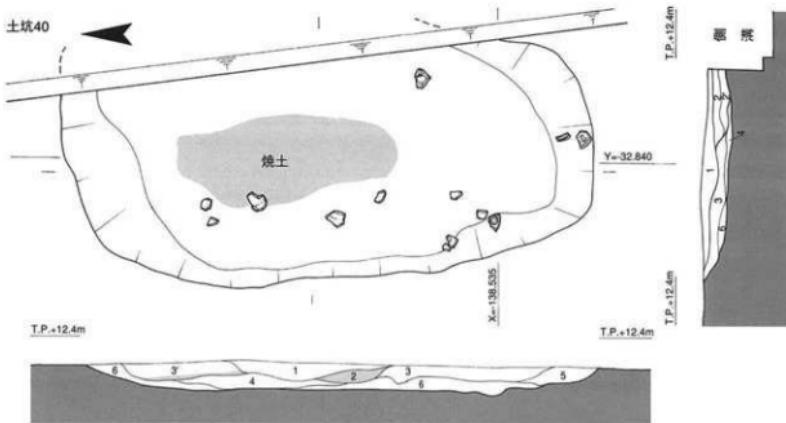
第49図・第50図には、包含層から出土した遺物の実測図を掲載した。



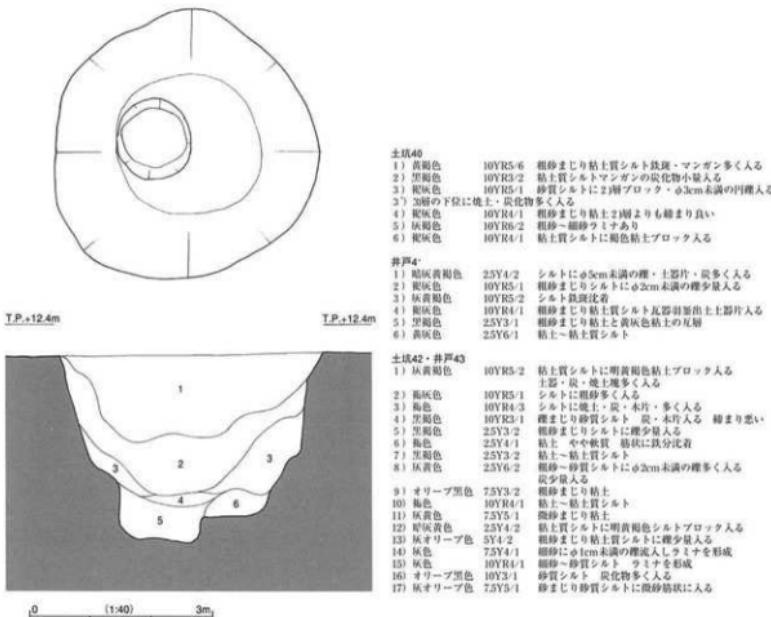
第44図 建物1柱穴平面断面図・出土遺物実測図



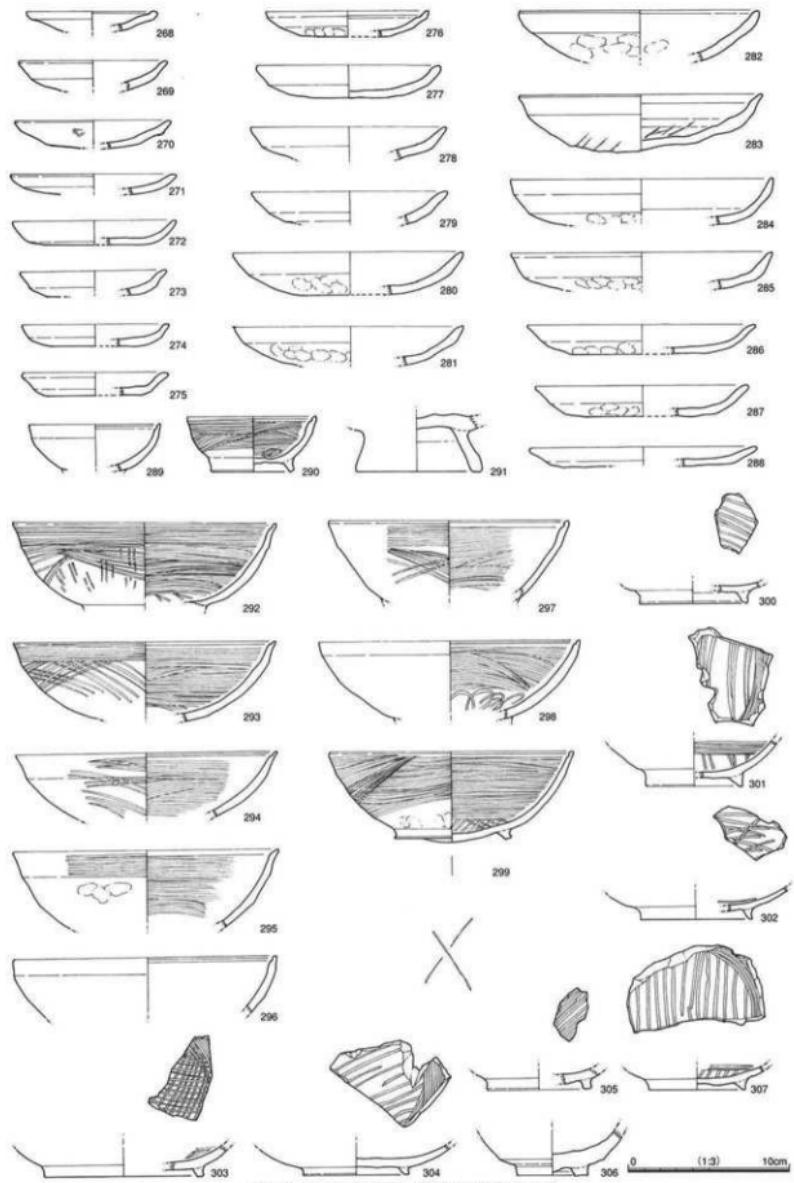
第45図 土坑42・井戸43平面断面図・遺物出土状況図



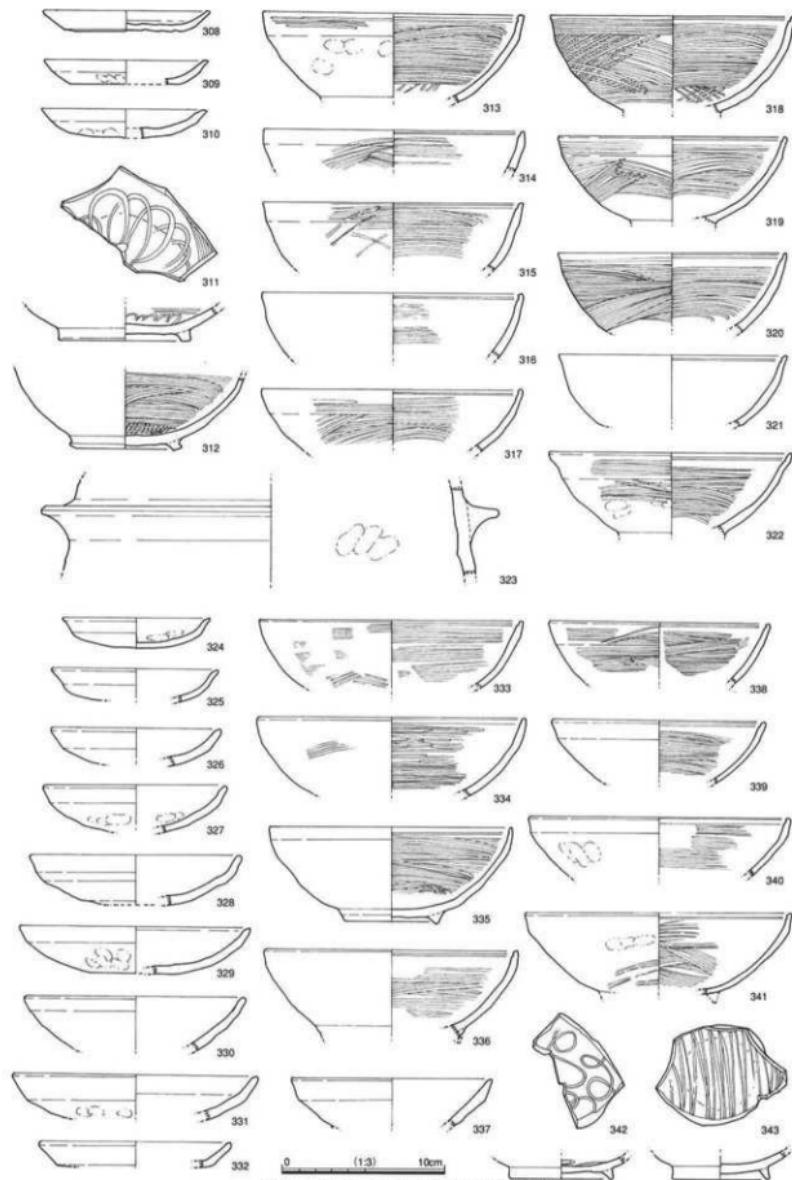
井戸41



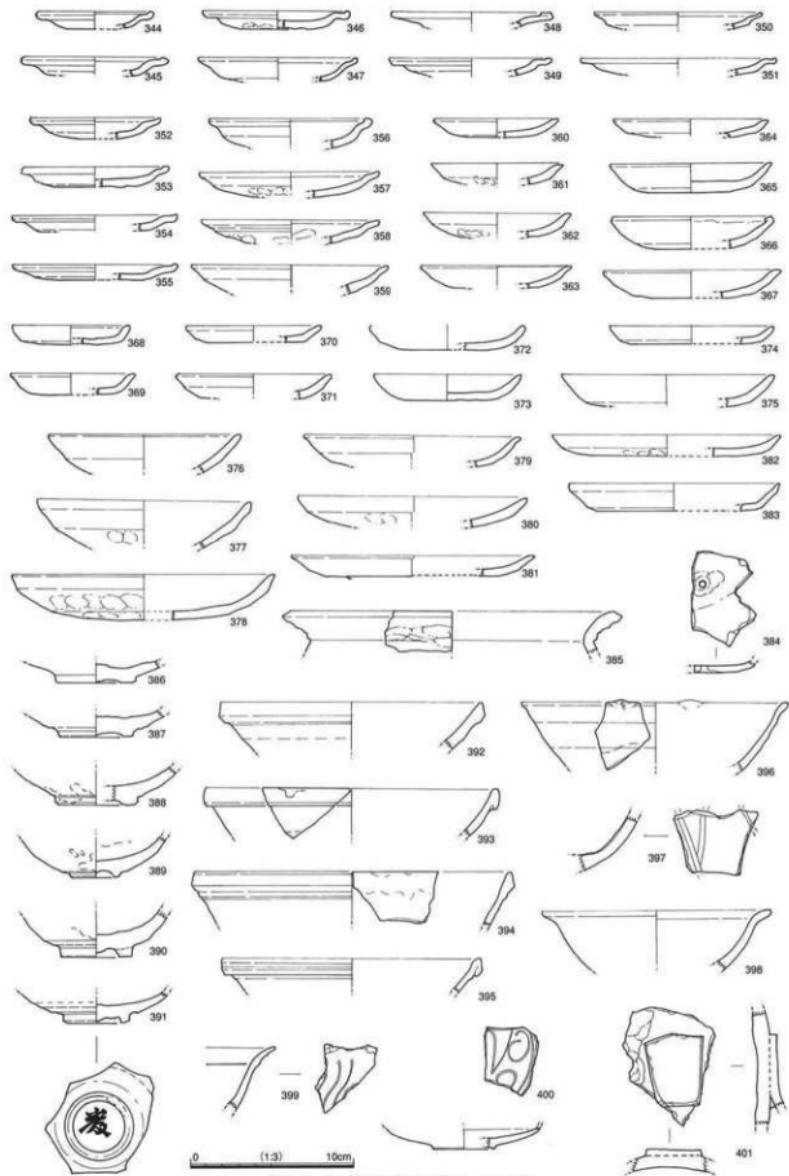
第46図 土坑40・井戸41平面断面図・遺物出土状況図



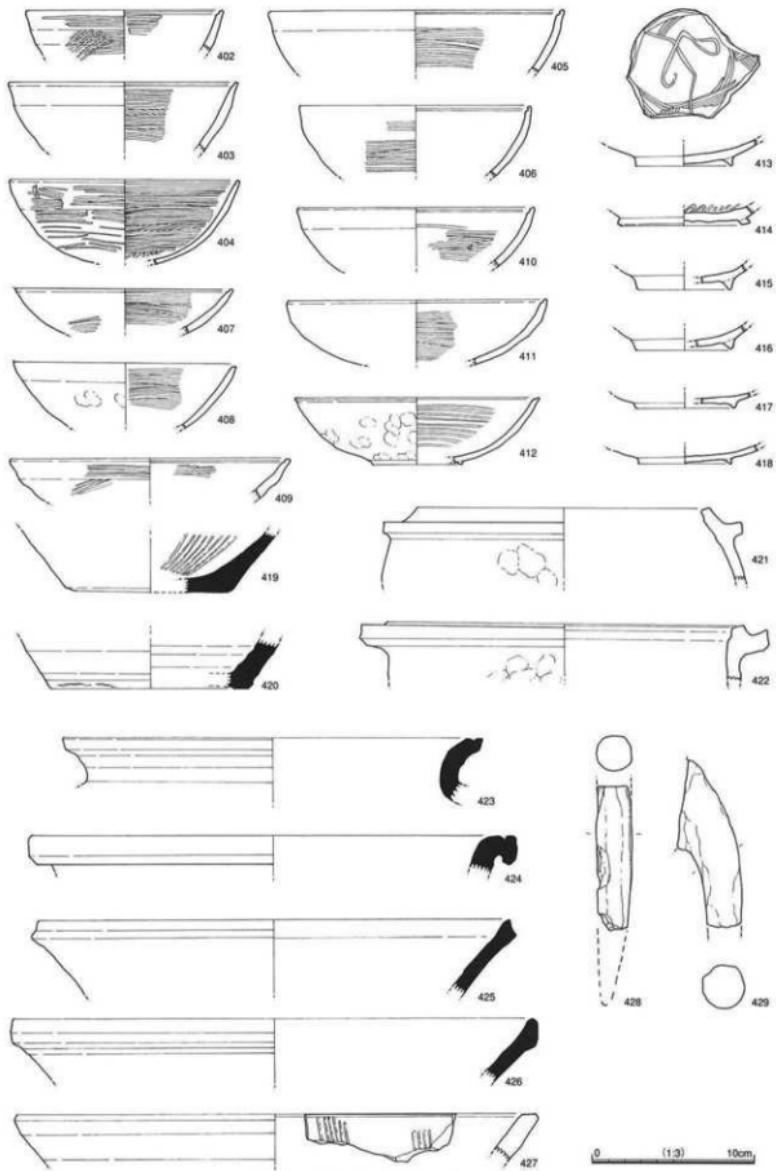
第47図 井戸43(土坑43)出土遺物実測図 (S=1:3)



第48图 土坑40·土坑42出土遗物实测图 (S=1:3)



第49圖 出土遺物実測図(中此1) (S=1:3)



第50圖 出土遺物実測図（中世2） (S=1:3)

第5節 近世～近代の遺構と遺物

近代の遺構面は、現代耕作土である機械掘削除去層直下において検出した。また、近世の遺構面は、近世包含層である第1層を除去して検出した面である。第1層は、その土質の差異から上下層に分別できたため、それぞれ第1-1層・第1-2層と呼称して遺物を採取した。また、落込み部や段差斜面などに、最下層とも呼ぶべき包含層が残存していたが、これは第1-3層として区別した。

遺構 第1-1面は、現代耕作土を除去した遺構面であるが、この面ではB区において、ほぼ東西方向に主軸をもつ直線水路と、これに連続する南北方向をもつ水路を検出した(用水路1～3)。第1-2面では、1A区において畠遺構を検出し、1Bにおいては現在よりも細かく分割された水田跡と鋤溝を検出した(第51図)。

用水路1・用水路2 1B区のほぼ中央において検出した水路である。規模は、幅0.8～1.0m、深さ0.4～0.8mを測る。地形から見て、水は東から西方向へ流れていることは明白であるが、B区西側では現代の削平を受けたため、その水源は不明である。もっともA区では連続する遺構が検出されておらず、このことから、A・B両区間に未調査部分に、南北方向へと流れる基幹水路が設けられていた可能性が高い。用水路1・2ともに主としてマツ材を用いた杭を北側斜面に打ち込んで土留めを施していた。また、通称「生駒石」と呼ばれる砂岩を据えた箇所も見られた。

用水路3 2B区の中央部において検出した鍵形に曲がる水路である。北から南へ流れながら、用水路2へと連続する。規模は幅1.0から1.2m、深さ0.5～0.8mを測る。近世～近代の染付や瓦が多く出土した。

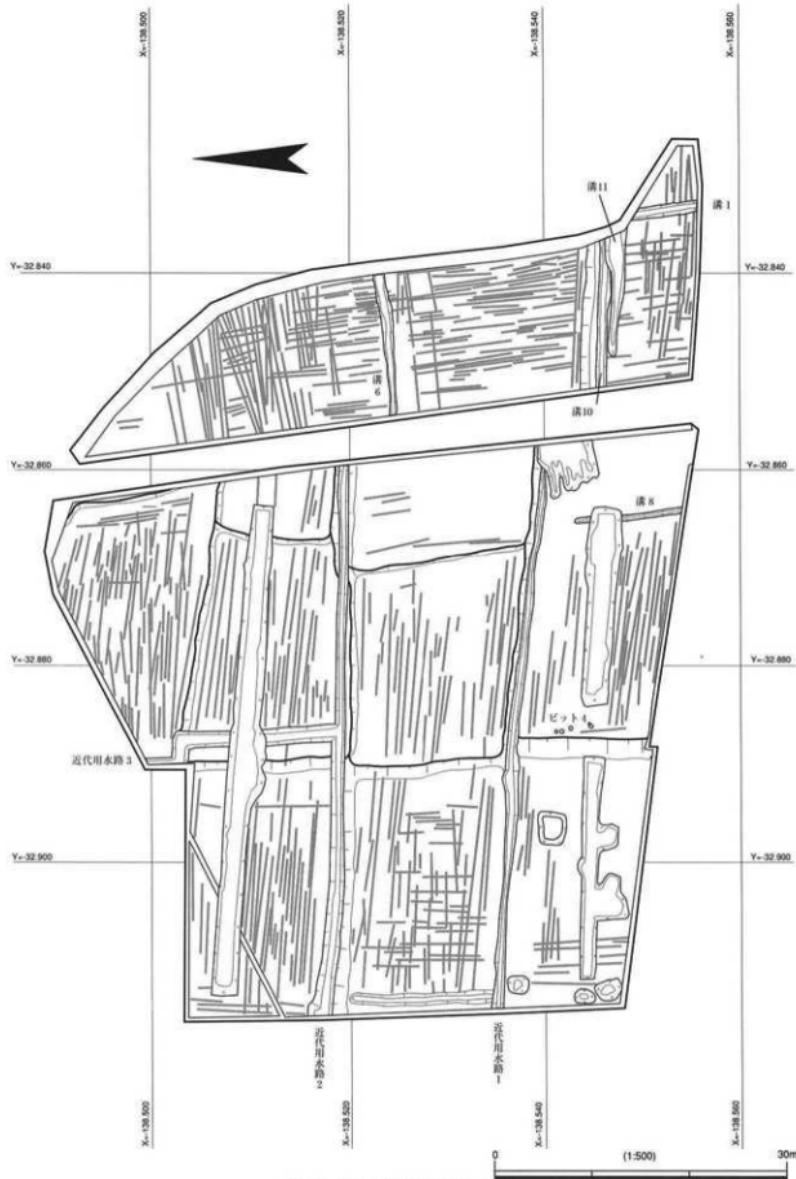
溝1 1A区南東隅において検出した溝である。南北軸に対して5°西へ振った方向性を持ち、調査区外へと続く。幅40cm、深さ20cmの規模を測る。埋土内からは近世初頭の染付碗や縄文石器等が出土したが、近世初頭の鋤溝との切り合い関係および主軸の方向性から近世後期の遺構であると推測される。

溝6 A区のほぼ中央において検出した溝である。東西軸に対して5°北へ振る方向性を持つことから、溝1と同時期の遺構であると判断した。幅は40～55cm、深さは25cmを測る。周辺の鋤溝は、溝6と並行することから、水田の区画溝であったと考えられる。遺構内からは、18世紀所産の染付片が出土した。

溝8 1B区南東部において検出した区画溝である。主軸の傾きは1A区において検出した溝1とほぼ同じである。近世期における、細かい水田区画の名残であると解される。遺物の出土はなかった。この溝の東側は削平が著しく、鋤溝を検出することができなかつた。

溝10・溝11 1A区南部において、検出した溝状遺構である。溝10の北側と南側では、約20cmの段差をもつことから、土地区画のために設けられた溝であろうと推測される。直下には中世遺構が濃密に分布するためか、瓦器・土師器片などの出土があった。

鋤溝群・畠跡 1A区では、第1-1面において南北方向へのびる鋤溝を検出し、第1-2面において畠跡を検出した。鋤溝は、概ね幅15～20cm程度を測り、深さは5～10cm程度の残存であった。畠跡は、壁断面では約10cmほどの高まりをもって確認できるものであり、この地の農産物が水稻に留まらないことを顕著に示していた。また、第2-1面(第1-3層除去面)では、南北方向へのびる鋤溝が多く検出された。2A区では、第1-2面において東西方向へのびていた鋤溝が、東北東～西南西方向へと傾く傾向にあり、現地形の傾斜に影響を受けたものと見られる。B区では主として東西方向へのびる鋤溝を多く検出した。



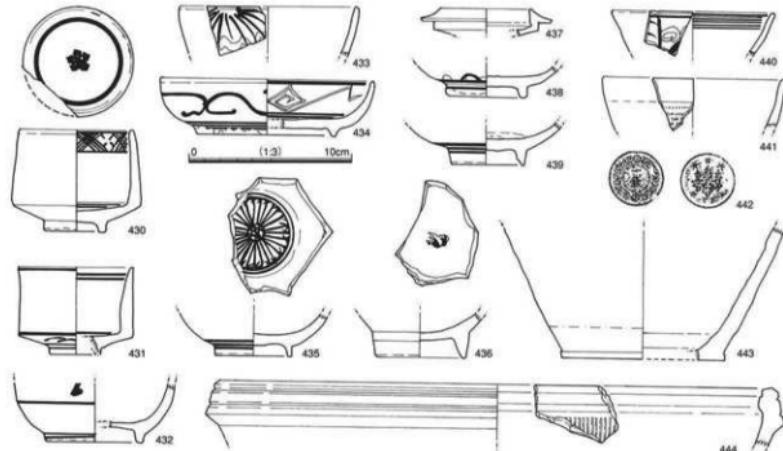
第51図 近世～近代遺構平面図 (1:500)

遺物 近世～近代に所産時期をもつ遺物は、B区から多く出土した(第51図・第53図)。その多くが染付碗であったが、施釉陶器や天目茶碗、備前焼の擂鉢等もみられた。

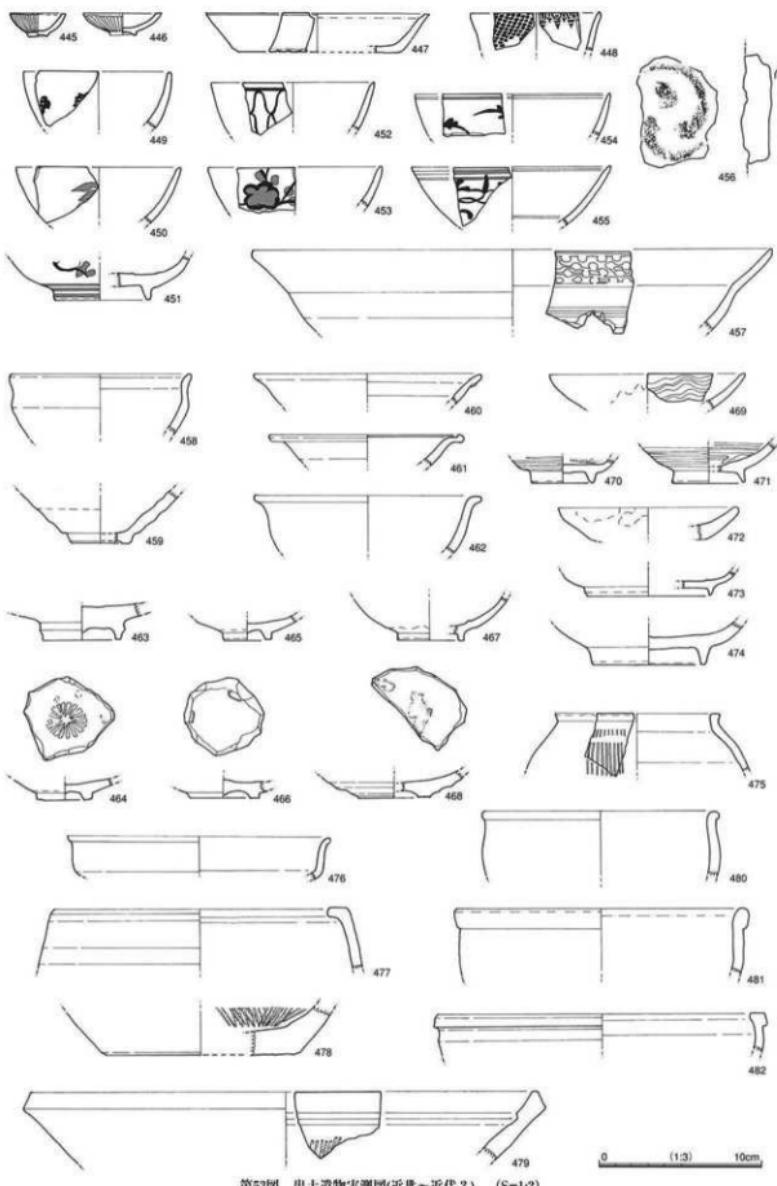
第51図には、遺構内から出土した遺物を示した。430～439は用水路3より出土したものであり、すべて近世の製品である。430・431は湯呑である。高台床付面はともに露胎する。絵付染料は青灰緑色を呈し、430は、内面底部に絵付けを施す。435・436は、染付鉢である。435の内面には、菊花を模した絵付けが手描きで為されている。436は、内外外面ともに細かい釉泡が多くみられる。見込部に炎状の絵付けが為されるが、中心には位置していない。437は、陶器の土瓶蓋である。中央の撮み部分は欠失している。上面に灰オリーブ色を呈する灰釉が施され、下面是露胎する。438は、内面に釉溜りや変色があり、釉泡が隨所にみられる。高台床付部には釉塊が付着しており、重ね焼の痕跡が見られる。439の染付碗は、見込部に蛇の目釉剥ぎが認められ、高台床付部には欠けがみられる。441は、1B区において検出したピット4から出土した施釉陶器の瀬戸産鎧茶碗である。内面は鉄釉、外面には鉄釉と灰釉が塗布されているため、茶褐色とオリーブ黄色を呈する。外面には鎧手文が施されている。18世紀前期後半の製品である。440・444は1A区において検出した溝1から出土した遺物である。440は口縁部に刻みを持つ染付鉢、444は備前焼の陶器擂鉢である。443は2B区において検出した円形土坑より出土した施釉陶器(鉄釉)の鉢である。外面は黒褐色・内面は灰色を呈する。近代の製品である。442は、大正8年製造の鉛をもつ一錢硬貨である。1B区用水路1より出土した。

第53図には、包含層より出土した遺物の実測図を掲載した。445・446は磁器紅皿である。内面には無色の施釉がみとめられる。448～455・457は染付類であるが、451の見込部には蛇の目釉剥がみられる。

458・459は美濃瀬戸産の天目茶碗である。ともに鉄釉を施しており、458は17世紀前半・459は16世紀末期の製品と見られる。460～477・480～482は、17・18世紀所産の施釉陶器である。460・461は、唐津産の灰釉陶器である。461は折線皿と称される器種であり、17世紀初頭の製品と見られる。464・466は見込部に胎土目をもつ。468は高台内および見込部に離れ砂が付着する、17世紀前半の製品である。



第53図 出土遺物実測図(近世～近代1) (S=13)



第53図 出土遺物実測図(近世～近代2) (S=1:3)

第5章 自然科学分析報告

縄文中期の埋没谷より採取した木片については、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を実施した。

試料と方法 試料は、年輪の外側部分より採取した木片3点である。酸・アルカリ・酸洗浄を施して不純物を除去し、石墨(グラファイト)に調整した後、加速器質量分析計(AMS)にて測定した。測定された¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した¹⁴C濃度を用いて¹⁴C年代を算出した。

結果 表1に、各試料の同位体分別効果の補正值（基準値-25.0%）、同位体分別効果による測定誤差を補正した¹⁴C年代、¹⁴C年代を曆年代に較正した年代を示した。¹⁴C年代値(yrBP)の算出は、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差($\pm 1\sigma$)は、計数値の標準偏差 σ に基づいて算出し、標準偏差(One sigma)に相当する年代である。これは、試料の¹⁴C年代が、その¹⁴C年代誤差範囲内に入る確率が68%であることを意味する。なお、曆年代較正の詳細は以下の通りである。

曆年代較正 曆年代較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、および半減期の違い(¹⁴Cの半減期5,730±40年)を較正し、より正確な年代を求めるために、¹⁴C年代を曆年代に変換することである。具体的には、年代既知の樹木年輪の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚のU-Th年代と¹⁴C年代の比較、および海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて¹⁴C年代と曆年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて¹⁴C年代を曆年代に較正した年代を算出する。

¹⁴C年代を曆年代に較正した年代の算出にCALIB 4.3(CALIB 3.0のバージョンアップ版)を使用した。なお、曆年代較正值は¹⁴C年代値に対応する較正曲線上の曆年代値であり、 1σ 曆年代範囲はプログラム中の確率法を使用して算出された¹⁴C年代誤差に相当する曆年代範囲である。カッコ内の百分率の値はその 1σ 曆年代範囲の確からしさを示す確率であり、10%未満についてはその表示を省略した。 1σ 曆年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示した。

考察 各試料は、同位体分別効果の補正および曆年代較正を行なった。曆年代較正した 1σ 曆年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲に注目すると、それぞれより確かな年代値の範囲として示された。

(株式会社パレオ・ラボ 新山雅広)

表1 放射性炭素年代測定および曆年代較正の結果

測定番号 (測定法)	試料データ	$\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$ (‰)	¹⁴ C年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	¹⁴ C年代を曆年代に較正した年代	
				曆年代較正值	1σ 曆年代範囲
PLD-2086 (AMS)	木片1	-27.7	4550 \pm 25	cal BC 3350	<u>cal BC 3360 - 3330 (35.0%)</u> cal BC 3215 - 3185 (30.4%) cal BC 3155 - 3125 (34.5%)
PLD-2087 (AMS)	木片2 (アカシ更生の根)	-27.6	4425 \pm 25	cal BC 3085 cal BC 3065 cal BC 3030	<u>cal BC 3100 - 3015 (87.4%)</u>
PLD-2088 (AMS)	木片3	-30.4	4625 \pm 25	cal BC 3370	<u>cal BC 3495 - 3465 (70.4%)</u> cal BC 3375 - 3360 (29.6%)

第6章 総括

以上、高宮遺跡（その2）発掘調査に関する成果を述べた。今回の調査は、前々年度に行われた確認調査の報告から古代造構面や中世遺物包含層が良好に残存していることが予想されていたが、それを上まわる造構面の検出と遺物量の出土を見た。地理的な造構の展開については、今後の周辺調査区の成果報告や遺物の整理報告を待たねばならないが、一連の発掘調査成果は、近隣地域の土地活用に関する歴史的推移の一資料として、延いては北河内地域における歴史的環境の復元について貢献できるものと思われる。以下、周辺の調査成果を交えながら、時代を追ってまとめてみたい。

縄文時代（第54図） 今回の調査では、B区において縄文時代中期に埋没した谷を検出した。この谷は、高位段丘層を削り、北から南へ向かって徐々に幅員を増しながら開口し、西接する小路遺跡（その3）調査区内へと続く様相を見せる。今回の調査では、限られた面積による検出であり、また谷底までの掘削は行わなかったため、その初源について明らかにすることはできなかった。しかし谷埋土のうち、植物遺体を多く含む層がT.P11.0mを測る地点にあり、この上位面までは掘削を行うことができた。結果、サクランボやコナラ、アカガシ亜属の風倒木（BC3300～3000頃）が出土し、その根元よりサヌカイト切片を6点採取することができた。このことは、谷地形内において植物の繁茂を見るような安定した状況が、縄文時代において一時存続したこと示すものであり、かつ人類の往来を示唆するものである。この谷は縄文時代を通じて埋没を経、最終的には蛇行する流路となった。

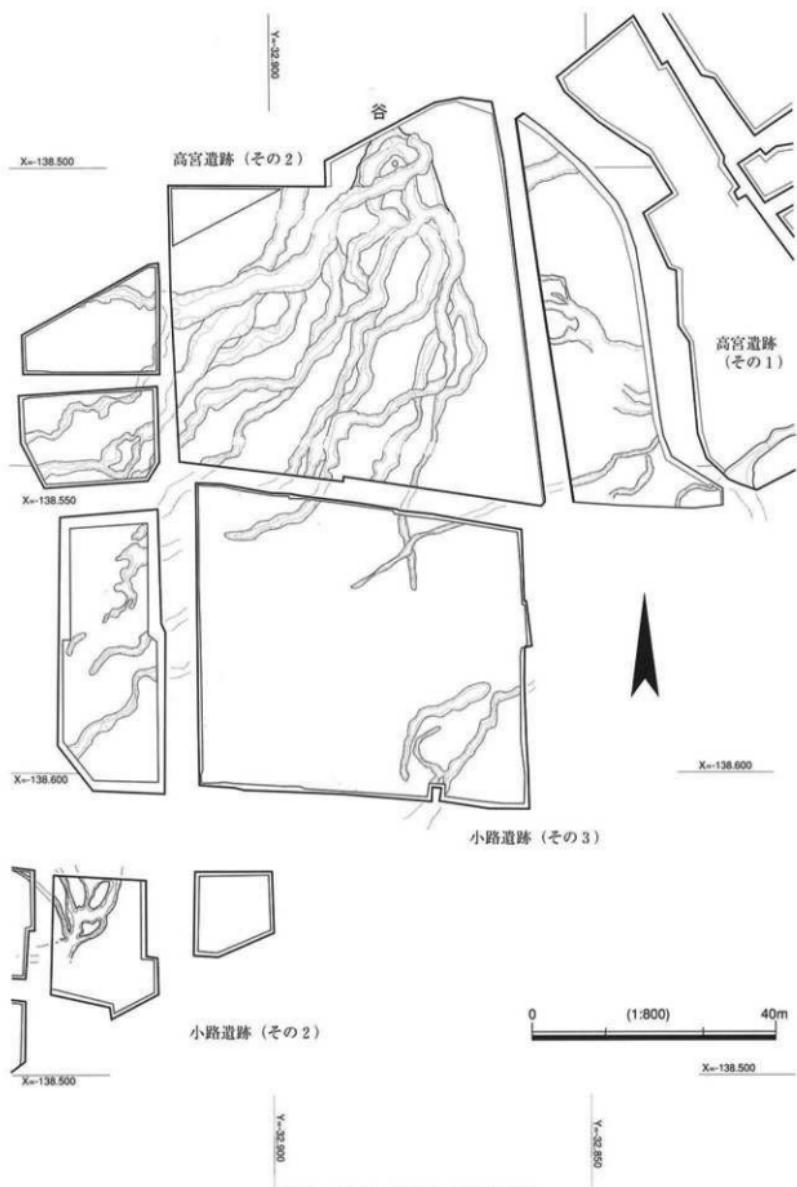
古墳時代前期（第55図） 縄文から弥生時代にかけて形成された河川が埋没し、やや安定した地表面が得られた時期である。B区の南辺部では布留期初頭とみられる前方後方形周溝墓の一角を検出した。また、B区を中心として大小の方形周溝墓14基を確認した。当該期におけるこの地区は、墓域であったことが判明した。尚、周溝に伴って出土した供獻器は、在地土器の特徴を備えておらず、吉備や東海といった他地域の土器を模倣したものである可能性が高い。

古墳時代後期 調査区内は、流路が蛇行する不安定な状況下にあった時期である。流路埋土内からは、5～6世紀所産の遺物が出土した。調査区東側丘陵上では、初期須恵器を共伴する竪穴住居群が検出されていることから、この集落からの流入が考えられる。また、6世紀の集落に関しては、高宮廃寺西側における調査事例が報告されているが、今回出土した遺物があまり損傷を受けておらず、近隣において廃棄された状況を考えると、この集落が一定の広がりをもって存続した可能性がある。

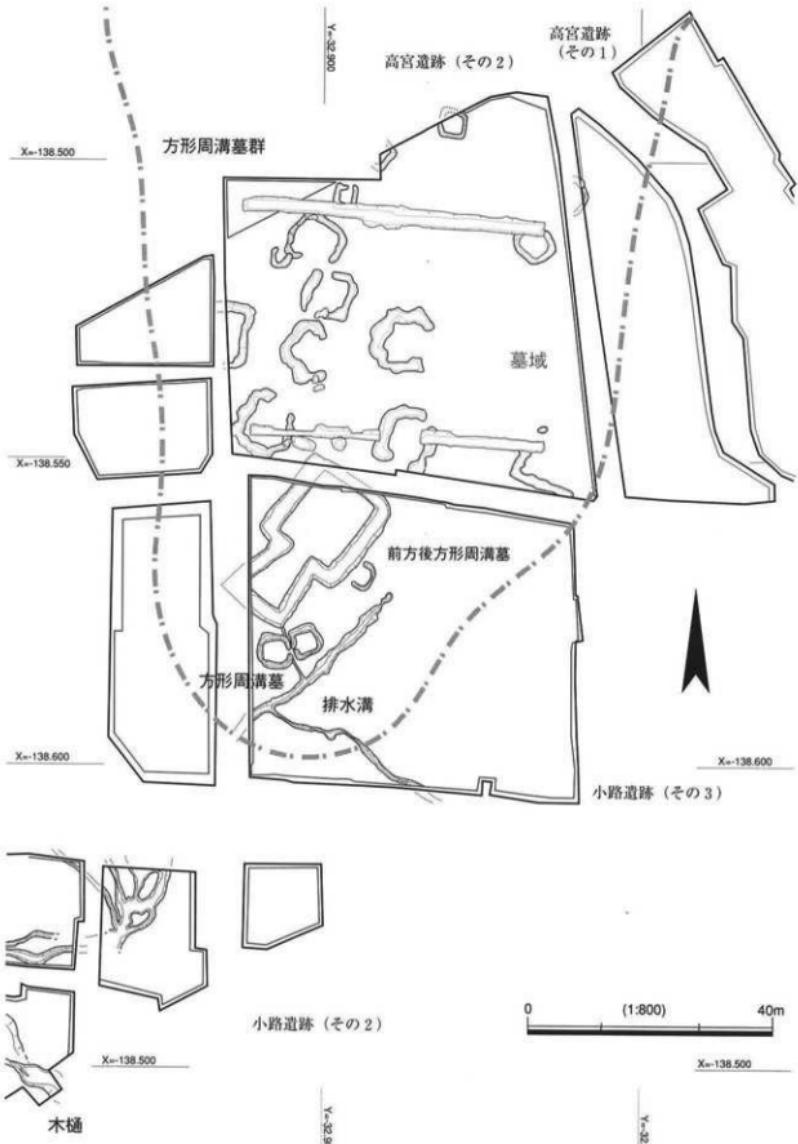
古代（奈良時代）（第56図） 再び土壤が安定し、人々が居住域としてこの空間を利用した時期である。今回の調査では、調査区一面に広がるピット群と柱列が検出された。また、後世の削平により包含層は損失していたものの、上層からは当該時期に属する土器片が多く出土した。

中世（鎌倉時代）（第57図） 人々が丘陵斜面を開拓し、居住地および水田として利用した時期である。A区では両庇を持つ掘立柱建物や曲物・羽釜を枠として転用した井戸等を検出した。また、B区では全面にわたって、地形に即した水田区画溝と耕作痕跡を確認した。このことから、正方位を意識した条里制が、中世初頭期におけるこの区画に関しては、未だ導入されていなかったことが明らかとなった。

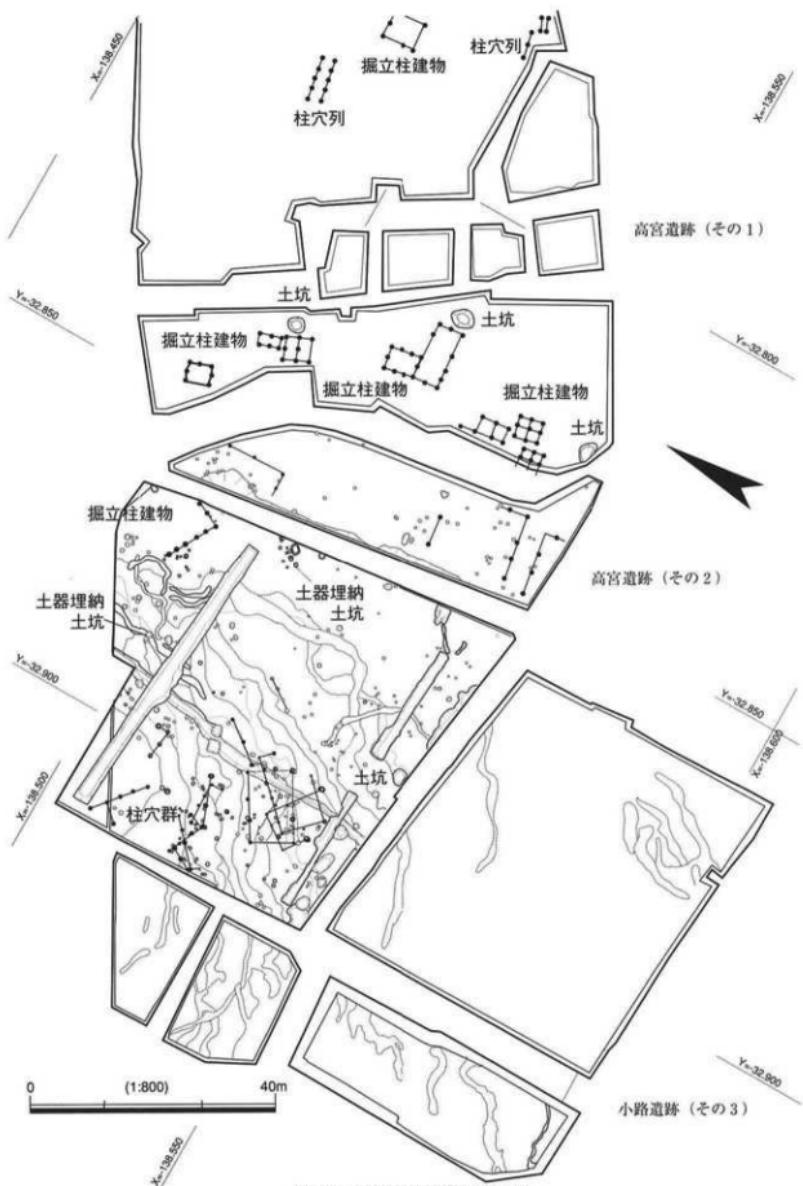
近世～近代 調査区全域が耕作地として利用された時期である。水田は正方位を軸として四方形に整備され、耕作が営まれた。近代には農業用水路が完備され、杭列を用いた土留め工が施された。



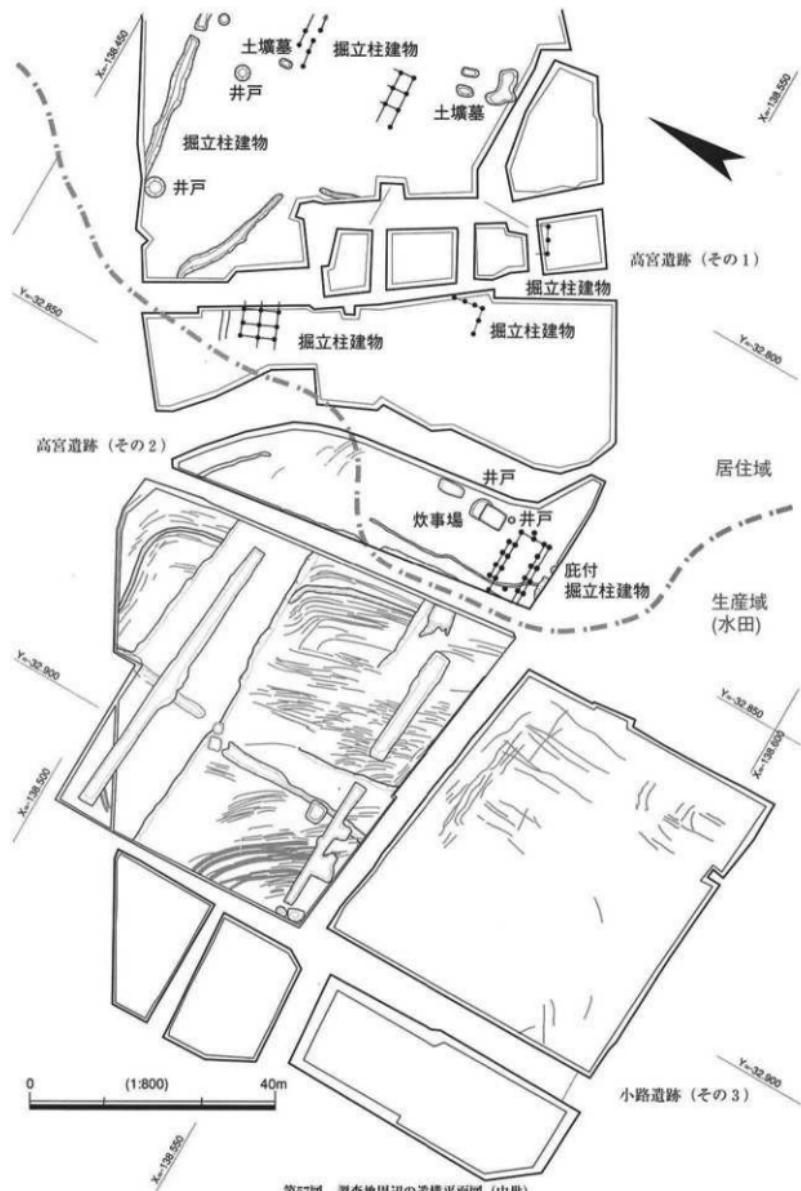
第54図 調査地周辺の遺構平面図(縄文時代)



第55図 調査地周辺の遺構平面図(弥生時代～古墳時代初頭)



第56図 調査地周辺の遺構平面図(古代)



第57図 調査地周辺の造構平面図 (中世)

表2 出土遺物一覧表（土器）

国版 番号	No.	登録実測 番号	調査区・地区	層位・遺構	種類	器種	法量				
							口径	胴径	底径	器高	最大厚
第16回	1	556	2C		流路460	縄文土器	深鉢	-	-	-	(3.2) (0.7)
第16回	2	541	2C		縄文谷	縄文土器	深鉢	-	-	-	(4.1) (0.6)
第16回	3	522	1 2B(1)	E9j8	3層(中央里層)	縄文土器	深鉢	-	-	-	(7.2) (0.8)
第23回	92	494	1 2B(2)		3面・溝421	土師器	壺	(23.0)	-	-	(4.5) (0.7)
第23回	93	495	1 2B(2)		3面・溝421	土師器	壺	13.0	-	-	(7.5) (0.5)
第27回	94	149	1 1B(4)	F9d10	1層	弥生土器	台付鉢	(22.0)	-	-	(3.3) (0.8)
第27回	95	458	1 2A		2層	弥生土器	甕	-	-	(9.0)	(2.9) (1.0)
第27回	96	397	1 2B(2)		2面・溝	土師器	甕	(12.0)	-	-	(3.8) (0.6)
第27回	97	158	1 1A	F9d6	2-2層	土師器	甕	(20.0)	-	-	(2.8) (0.6)
第27回	98	467	1 2B(1)(3)	F9a7	2層	土師器	甕	-	-	4.0	(2.0) (1.1)
第27回	99	98	2 1B(1)	F9d6	1-2層	土師器	甕	-	-	4.0	(2.2) (0.7)
第27回	100	493	1 2B(1)		3面・土坑412	土師器	甕	-	-	(4.0)	(3.0) (1.2)
第27回	101	158	1 1A	F9d6	2-2層	土師器	甕	(20.0)	-	-	(2.8) (0.6)
第27回	102	392	1 2A	F9a6	2面	土師器	甕	(22.0)	-	-	(2.0) (0.5)
第27回	103	413	15 2A		2層	土師器	高环	(11.5)	-	-	(2.4) (0.7)
第27回	104	504	1 2B(2)		3面・石列付近	土師器	高环	-	-	-	(5.5) (1.8)
第27回	105	413	13 2A		2層	土師器	高环	-	-	-	(4.7) (1.4)
第27回	106	518	1 2B		溝409	土師器	高环	-	-	-	(5.4) (1.0)
第38回	107	527	2B(3)		3面・土坑368	土師器	鉢	14.0	-	-	5.9 (0.9)
第38回	108	462	2 2A		3面・溝331	須恵器	环身	-	-	(8.2) (2.1)	(0.8)
第38回	109	288	1B(3)(4)		3面・土坑85	須恵器	环身	-	-	(10.4) (2.1)	(0.5)
第38回	110	304	1B(1)(2)		3面・土坑400	土師器	壺	16.2	-	9.0	2.9 (0.5)
第38回	111	463	2A		3面・土坑400	土師器	壺	15.5	-	9.0	3.2 (0.5)
第38回	112	507	1 2B(1)		3面・溝471	須恵器	壺	-	-	(14.0) (1.7)	(1.1)
第38回	113	507	2 2B(1)		3面・落込332	須恵器	甕	(16.6)	-	-	(4.8) (1.0)
第38回	114	469	2B(2)		3面・溝320石列	瓦	軒平瓦	-	-	-	-
第38回	115	199	1A		3面・ピット17	土師器	甕	(25.9)	-	-	(3.3) (0.9)
第39回	116	449	2B(2)	F9b10	3層	須恵器	环蓋	(12.4)	-	-	(3.5) (0.5)
第39回	117	426	2B(1)	F9a7	2層	須恵器	环蓋	(12.0)	-	-	(4.5) (1.6)
第39回	118	454	2B(3)	F9a8	2層	須恵器	环蓋	13.8	-	-	4.9 (0.8)
第39回	119	488	2B(2)		3面・溝409	須恵器	环蓋	(16.0)	-	-	(4.0) (0.8)
第39回	120	425	2B(1)		2層	須恵器	环身	(12.0)	(15.0)	-	(2.7) (0.5)
第39回	121	552	2 2C		ピット453	須恵器	环身	(9.0)	(12.0)	-	(4.3) (0.7)
第39回	122	484	2B(2)		3面・土坑405	須恵器	环身	(10.0)	(12.4)	-	(3.8) (0.7)
第39回	123	452	2B(2)	F9b2	3層	須恵器	环身	(10.0)	(12.0)	-	(4.0) (0.5)
第39回	124	456	2B(3)		2層	須恵器	高环	-	-	-	(5.3) (1.1)
第39回	125	393	2A	E9j6	2層	須恵器	高环	-	-	-	(4.6) (0.5)
第39回	126	538	1 1C		1層	須恵器	甕	(24.0)	-	-	(5.5) (0.7)
第39回	127	421	2A		3面	須恵器	甕	(28.0)	-	-	(1.9) (0.8)
第39回	128	416	3 2B(2)	F9b10	2層	須恵器	甕	(29.0)	-	-	(6.0) (0.8)
第39回	129	429	1 2B(1)	E9j9	2層	須恵器	甕	(36.0)	-	-	(3.0) (0.8)
第39回	130	503	2B(2)		3面・土坑412	土師器	高环	-	-	-	(7.0) (0.8)
第39回	131	488	2B(2)		3面・溝409	土師器	高环	-	-	-	(7.0) (1.2)
第39回	132	464	2B(1)	F9a7	2層	土師器	高环	-	-	-	(6.0) (0.6)
第39回	133	156	1 1A		2-2層	土師器	瓶	-	-	-	-
第39回	134	319	1B(3)		3面・ピット74	土師器	甕	(13.0)	-	-	(2.5) (0.8)
第39回	135	203	1B(1)(3)	F9f7	3面	土師器	壺	16.0	-	-	(2.5) (0.5)
第39回	136	462	1 2A		3面・溝331	須恵器	高环	-	-	(11.2) (2.5)	(0.6)

色調				胎土	焼成	残存 (%)	時期	備考
外面	内面	断面	書地					
灰黄褐	暗褐	暗褐	-	○ ○	1	縄文前期	大歳山式	
純黄橙	黒褐	純黄橙	-	△ △	1	縄文前期		
灰黄褐	純黄褐	純黄褐	-	△ △	1	縄文前中期	北白川下層Ⅲ～大歳山式	
純黄橙	褐灰	褐灰	-	× △	1	4C半		
橙	橙	橙	-	○ △	20	庄内並行?	外来系?	
黄灰	灰白	灰白	-	△ △	1	弥生中期	河内M様式	
灰黄	灰黄	灰黄	-	× △	1	弥生中期		
灰褐	褐灰	褐灰	-	△ ×	1	4C	弥生型タキ窓。庄内併行。	
純橙	純橙	純橙	-	△ ○	1	古墳前		
浅黄	浅黄	浅黄	-	× △	1	4C		
純赤褐	純橙	純橙	-	× △	1	古墳期	タキ窓	
浅黄	黑褐	黑褐	-	× △	1	4C	弥生型タキ窓。庄内併行。	
純橙	純橙	純橙	-	△ ○	1	古墳前		
浅黄橙	浅黄橙	浅黄橙	-	× △	1	4C半	庄内窓	
灰黄	灰黄	灰黄	-	× ○	1	4C?	庄内併行?	
純黄褐	純黄橙	純赤褐	-	○ △	10	4C中?		
黄褐	黄褐	黄褐	-	× ×	1	4C		
黄褐	黄褐	黄褐	-	× △	5	4C前		
純黄褐	黒	純黄褐	-	△ △	80	7C前	内面黒色化。飛鳥二期環C類。	
灰白	灰白	灰紫	-	△ ×	10	8C		
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	5	8C		
純黄橙	純黄橙	純黄橙	-	△ △	60	10C	土師皿A類	
浅黄橙	浅黄橙	浅黄橙	-	△ ○	98	10C	土師皿A類	
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	1	8C		
暗灰	暗灰	灰白	-	△ △	1	古代	燒泥みあり	
黑灰	灰	灰白	-	△ △	20	古代	均窓草文。市安軒平C類	
浅黄橙	純橙	純橙	-	× ×	1	古代?		
青灰	青灰	灰紫	-	○ ○	5	5C	II-2(中村編年)	
灰	褐灰	褐灰	-	○ ○	25	5C前	I-1? (中村編年) 555-518(満409)と接合	
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	100	6C前	II-2(中村編年)	
灰白	灰白	灰	-	○ △	10	5C後	I-4(中村編年)	
灰	灰	褐灰	-	○ △	3	5C前	I-1? (中村編年)	
灰白	灰白	灰	-	△ △	40	5C後	I-4(中村編年)	
灰白	灰白	灰	-	△ △	5	5C	I-4(中村編年)	
灰白	灰白	灰	-	○ △	5	5C	I-4(中村編年)	
灰白	灰白	灰紫	-	○ ×	2	5C後	4方向に長方形透かし	
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	10	6C前	4方向に長方形透かし	
青灰	青灰	赤褐	-	△ ×	1	5C前	I-1(中村編年)	
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	1	5C		
灰褐	灰	褐灰	-	△ ×	1	5C	I-4? (中村編年)	
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	1	5C	I-2(中村編年)	
純橙	純橙	浅黄	-	△ △	10	5C		
浅黄	浅黄	浅黄	-	△ ○	2	5C	布留式	
浅黄	浅黄	浅黄	-	△ ○	2	5C		
浅黄	浅黄	浅黄	-	△ △	1	5C後	把手部	
浅黄	浅黄	灰黄	-	△ △	1	5C	布留式	
浅黄橙	褐灰	浅黄橙	-	△ ×	10	古墳前	小型丸底窓(接合不可破片より)。	
灰	灰白	灰紫	-	○ △	1	5C?	I-4? (中村編年)	

図版番号	Na	登録実測番号	調査区・地区	層位・造構	種類	器種	法量				
							口径	胴径	底径	器高	最大厚
第39回	137	64	2	1A	F9c3	2-1層	須恵器	環蓋	(13.0)	-	-
第39回	138	64		1A	F9c3	2-1層	須恵器	環身	13.0	-	-
第39回	139	342	1B(3)④		3画		須恵器	環身	13.1	15.1	-
第39回	140	409		2C	溝409		須恵器	環身	12.5	15.0	-
第39回	141	552	1	2C	ビット453		須恵器	環身	14.0	17.5	-
第39回	142	306		1A	土坑43		須恵器	高环	-	-	(3.5)
第39回	143	405	10	2B(1)	1面・クランク状水路		須恵器	盤	(20.0)	-	-
第39回	144	292		1B(3)④	3面・溝137		須恵器	盤	-	(8.1)	(3.0)
第39回	145	395	2	2B(2)	2面		須恵器	高环	(10.0)	-	-
第39回	146	405	10	2B(1)	1面・クランク状水路		須恵器	甕	(20.0)	-	-
第39回	147	468		2B(2)	3面		須恵器	甕	(24.0)	-	-
第39回	148	275	3	1A		3面	須恵器	甕	(34.0)	-	-
第40回	149	420	4	2A		3面	須恵器	環身	(9.0)	(12.0)	-
第40回	150	151		1B(3)	1-2面・溝12		須恵器	環身	(14.0)	-	-
第40回	151	127	1	1A		2-2面	須恵器	環身	(14.0)	-	-
第40回	152	413	6	2A		2層	須恵器	環蓋	-	-	-
第40回	153	413	7	2A		2層	須恵器	環蓋	(12.0)	-	-
第40回	154	172	2	1B(1)②	F9c8	2-2層	須恵器	環蓋	(12.5)	-	-
第40回	155	133	1	1B(3)		1-2層	須恵器	環蓋	(14.0)	-	-
第40回	156	478		2A	F9b6	3面	須恵器	環蓋	(22.0)	-	-
第40回	157	414	2	2A	F9b6	2層	須恵器	甕	-	-	(2.3)
第40回	158	413	8	2A		2層	須恵器	環蓋	-	-	(1.8)
第40回	159	420	3	2A		3面	須恵器	環蓋	-	-	(1.4)
第40回	160	335	1	2A		1面	須恵器	環蓋	-	-	(1.3)
第40回	161	102	3	1B(3)	F9d9	1-1層	須恵器	環蓋	-	-	-
第40回	162	167		1B(2)	F9e9	2-1層	須恵器	環蓋	(16.0)	-	-
第40回	163	373	2	2A		2面	須恵器	環蓋	(13.4)	-	-
第40回	164	249	1	1B(1)		3面	須恵器	環蓋	(19.0)	-	-
第40回	165	155	1	1A	F9d5	2-2面	須恵器	環身	(12.0)	-	-
第40回	166	405	9	2B(1)	1面・クランク状水路		須恵器	環身	-	(9.0)	(4.0)
第40回	167	241	4	1A		3面・土坑42・43	須恵器	環身	-	-	(10.0)
第40回	168	531	2C	F9a9	3層		須恵器	環身	-	-	(12.0)
第40回	169	457	2A		2層		須恵器	環身	-	(9.0)	(2.5)
第40回	170	310	1A		3面		須恵器	環身	-	-	(10.0)
第40回	171	420	2	2A		3面	須恵器	環身	-	-	(12.0)
第40回	172	129	1A		2-2面・溝9		須恵器	環身	-	-	(13.3)
第40回	173	413	9	2A		2層	須恵器	環身	-	-	(14.0)
第40回	174	188	10	1A	F9d5	2-2層	須恵器	環身	-	(9.0)	(2.0)
第40回	175	79	2	1A	F9c5	2-1層	須恵器	環身	-	(8.0)	(1.3)
第40回	176	409	2C		圓溝409		須恵器	環身	12.5	15.0	-
第40回	177	215	1	1A		南側鶴溝(土坑)	須恵器	環身	-	-	(9.2)
第40回	178	440	3	2B(1)	E9f8	2層	須恵器	環身	-	-	(10.0)
第40回	179	438	2A		3面		須恵器	環身	-	-	(10.0)
第40回	180	358	1B(3)		3層		須恵器	環身	13.0	-	-
第40回	181	100	1B(1)	F9d7	1-2層		須恵器	環身	(14.0)	-	(8.0)
第40回	182	413	5	2A		2層	須恵器	環身	(14.0)	-	(9.0)
第40回	183	335	2	2A		1面	須恵器	環身	(15.6)	-	-
第40回	184	252	1B(3)④	F10d1	2-2層		須恵器	環身	-	-	(12.5)
第40回	185	355	2A	F9a4	1層		須恵器	環身	-	-	(8.2)
第40回	186	275	2	1A		3面	須恵器	環身	-	-	(8.0)

色調				胎土	焼成	残存 (%)	時期	備考
外画	内面	断面	素地					
灰	灰	灰	-	△ ○	10	6C		
灰	灰	灰	-	△ ○	5	6C中	II-4(中村編年)	
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	70	6C中	II-4(中村編年)	
灰白	灰白	灰紫	-	△ △	70	6C中	II-4(中村編年)	
灰	灰	灰	-	△ ○	40	6C前	II-2(中村編年)	
灰	灰	灰	-	△ ○	30	6C末		
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	1	6C		
灰白	灰白	灰白	-	× ○	20	6C	底内面に黒色付着物あり。注口、外面より剥離覗通。	
灰白	灰白	灰白	-	△ ×	1	6C	II-2~3(中村編年)	
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	1	6C		
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	1	6C		
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	1	6C	II-5(中村編年)	
灰白	灰白	灰紫	-	○ △	1	7C末		
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	10	6C		
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	2	7C		
青灰	青灰	灰白	-	○ ○	1	8C		
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	30	7C末		
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	10	8C		
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	10	8C		
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	5	8C		
灰柳-7'	青灰	灰紫	-	○ ×	1	8C		
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	5	8C		
灰白	灰白	灰白	-	○ △	1	8C		
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	5	8C		
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	2	8C	坏B蓋、掘部。	
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	5	8C		
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	5	8C		
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	5	8C		
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	5	8C		
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	5	8C		
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	5	8C		
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	10	8C		
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	5	8C		
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	20	8C		
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	10	8C		
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	1	8C		
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	10	8C		
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	10	8C		
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	10	8C		
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	10	8C		
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	10	8C		
灰白	灰白	灰白	-	△ △	70	6C中	II-4(中村編年)	
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	10	8C		
灰白	灰白	灰紫	-	△ ×	3	8C		
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	10	8C		
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	5	8C		
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	15	8C		
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	30	8C		
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	10	8C		
灰	灰	灰	-	○ ○	20	8C		
灰白	灰白	灰白	-	△ △	10	8C		
灰白	灰白	灰	-	△ △	15	8C		

园番号	No	登録実測番号	調査区・地区	層位・造構	種類	器種	法量					
							口徑	胴径	底径	器高	最大厚	
第40園	187	373	1 2A	2面	須恵器	環身	-	-	(8.2)	(1.7)	(0.5)	
第40園	188	188	9 1A	F9d5	2-2層	須恵器	環身	-	-	(8.0)	(1.8)	(0.6)
第40園	189	335	5 2A	1面	須恵器	環身	-	-	(8.8)	(1.3)	0.8	
第40園	190	328	1 2A	東側斜溝	須恵器	環身	-	-	(10.4)	(1.7)	(1.1)	
第40園	191	328	2 2A	東側斜溝	須恵器	環身	-	-	(10.0)	(2.5)	(0.5)	
第40園	192	183	1A	F9d4	3面	須恵器	環身	-	-	(12.8)	(1.9)	(0.8)
第40園	193	224	1A	F9d6	2-3層	須恵器	環身	-	-	(8.0)	(1.4)	(0.9)
第40園	194	188	11 1A	F9d5	2-2層	須恵器	環身	-	-	(8.0)	(2.0)	(0.5)
第40園	195	78	2 1A	F9d5	2-1層	須恵器	環身	-	-	(8.8)	(2.3)	0.9
第40園	196	368	2A	E9j6	2面	須恵器	環身	-	-	(11.0)	(1.8)	0.5
第40園	197	78	1 1A	F9d5	2-1層	須恵器	環身	-	-	(12.0)	(1.4)	1.2
第40園	198	423	2B2	3面	須恵器	環身	-	-	(12.0)	(1.8)	(0.6)	
第40園	199	128	1A	2-2面・溝6	須恵器	環身	-	-	(12.0)	(1.0)	(0.5)	
第40園	200	258	1B3/4	F9e10	2-2層	須恵器	環身	-	-	(9.0)	(1.2)	(0.6)
第40園	201	413	10 2A	2層	須恵器	環身	-	-	(10.5)	(1.5)	(0.7)	
第40園	202	395	1 2B2	2面	須恵器	環身	(14.0)	-	(10.0)	3.0	(0.6)	
第41園	203	177	1 1A	F9e5	2-2層	須恵器	平瓶	(8.5)	-	-	(7.0)	(0.8)
第41園	204	371	2A	E9j6	1層	須恵器	壺	(9.5)	-	-	(5.5)	(0.8)
第41園	205	335	3 2A	1面	須恵器	短頸壺	(11.0)	-	-	(2.5)	(0.6)	
第41園	206	153	1 1A	F9e5	2-2面	須恵器	長颈壺	-	-	-	(7.0)	(1.1)
第41園	207	272	1 1A	F9e5	2-3層	須恵器	細頸壺	0.7	-	-	(5.1)	(0.8)
第41園	208	436	2 2B3	F9e8	2層	須恵器	擂鉢	(14.0)	-	-	(5.5)	(0.7)
第41園	209	436	3 2B3	F9e8	2層	須恵器	橫糞	(14.0)	-	-	(3.5)	(0.7)
第41園	210	249	4 1B3	3面	須恵器	壺	-	-	(10.0)	(3.0)	(1.1)	
第41園	211	202	2 1B	F9e7	3面	須恵器	壺	-	-	(14.0)	(2.8)	(0.7)
第41園	212	134	1B3	F9d9	1-2層	須恵器	壺	-	-	(6.8)	(1.5)	0.8
第41園	213	141	1 1B3	F10d1	1-1層	須恵器	壺	-	-	(10.0)	(2.0)	0.8
第41園	214	271	1 1A	F9e4	2-3層	須恵器	壺	-	-	(6.0)	(1.5)	(0.9)
第41園	215	420	1 2A	3面	須恵器	短頸壺	(14.4)	-	-	(4.3)	(0.5)	
第41園	216	335	6 2A	1面	須恵器	短頸壺	(9.4)	-	-	(2.8)	(0.9)	
第41園	217	440	2 2B3	E9j8	2層	須恵器	壺	-	-	(12.0)	(2.7)	(0.7)
第41園	218	89	1 1A	F9e5	2-2面	須恵器	壺	-	-	(14.0)	(2.6)	(0.8)
第41園	219	89	2 1A	F9e5	2-2面	須恵器	壺	-	-	(16.4)	(1.9)	(1.0)
第41園	220	178	1 1A	F9e6	2-2層	須恵器	甕	(19.8)	-	-	(4.3)	(0.8)
第41園	221	116	1 1B3	F9d8	1-2層	須恵器	風字甕	-	-	-	-	-
第41園	222	188	12 1A	F9d5	2-2層	須恵器	台付甕	-	-	-	(3.1)	(1.1)
第41園	223	414	1 2A	F9e6	2層	須恵器	長頸甕	-	4.5	2.8	(4.8)	0.5
第41園	224	441	2B3	F9e8	2層	須恵器	細頸甕	-	-	6.0	(1.5)	(0.5)
第41園	225	89	3 1A	F9e5	2-2面	須恵器	広口甕	-	(20.0)	-	(2.6)	(0.8)
第41園	226	67	1 1A	F9e6	2-1層	須恵器	四耳甕	-	-	-	(2.5)	(0.8)
第41園	227	414	3 2A	F9e6	2層	須恵器	壺	-	-	(10.0)	(2.5)	(0.7)
第41園	228	96	1B3	F9e8		須恵器	壺	-	-	(16.0)	(2.5)	1.0
第41園	229	240	1 1A	井戸41		須恵器	壺	-	-	(12.0)	(3.5)	(0.7)
第41園	230	458	2 2A	2層		須恵器	短頸壺	-	-	(12.0)	(7.0)	(1.0)
第41園	231	250	1B3/4	F9e10	2-2層	須恵器	壺	-	-	(12.0)	(3.4)	(0.7)
第41園	232	62	2 1B	1面		須恵器	壺	-	-	(9.0)	(4.0)	(0.9)
第41園	233	215	3 1A	南側斜溝(土坑)		須恵器	短頸壺	-	-	(12.0)	(2.5)	(0.8)
第41園	234	413	12 2A	2層		須恵器	環身	-	-	(11.0)	(1.5)	(0.8)
第41園	235	98	1 1B3	F9d6	1-2層	須恵器	鉢	-	-	(14.0)	(2.0)	(0.8)
第41園	236	81	1A	F9e5	2-1層	須恵器	甕	(23.2)	-	-	(4.5)	(1.0)

色調				胎土	焼成 (%)	時期	備考
外面	内面	断面	素地				
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	10	8C	
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	10	8C	
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	5	8C	
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	1	8C	
灰白	灰白	灰白	-	○ △	5	8C	
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	10	8C	
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	5	8C	
灰白	灰白	灰白	-	○ ×	5	8C	
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	5	8C	
灰白	灰白	灰白	-	△ ×	10	8C	
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	5	8C	底部内部凹凸あり
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	10	8C	
灰	灰	紫灰	-	○ △	5	8C	底部外面に薬剤?
灰白	灰白	灰白	-	△ △	20	8C	底部外面に渦巻状粘土接合痕あり。
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	5	8C	
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	10	8C	
灰白	灰白	灰白	-	○ △	5	8C前	
灰白	灰白	灰白	-	△ △	1	8C?	
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	5	8C	重ね焼き施着痕あり
灰白	灰白	灰白	-	× ○	2	8C	
灰白	灰白	灰赤	-	○ △	5	8C半	
灰	灰	灰	-	○ △	5	8C	
灰	灰	灰	-	△ △	1	8C	
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	1	8C	
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	5	8C	長指型or広口壺
灰白	灰白	灰白	-	△ △	10	8C	
灰白	灰白	灰白	-	○ △	1	8C	
灰	灰	灰	-	○ ○	1	8C半	
灰白	青灰	灰紫	-	△ ×	1	8C	蓋を被せて焼成
灰白	灰白	灰白	-	× ○	1	8C	
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	1	8C	
灰白	灰白	灰白	-	○ ×	1	8C	
灰白	灰白	灰白	-	○ △	1	8C	
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	1	8C	
青灰	青灰	褐灰	-	△ △	5	8~9C	内面擦痕あり
灰白	灰白	灰白	-	○ △	?	8C?	
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	30	8C後~9C前	壺N類に付?
灰白	灰白	灰	-	△ △	1	8C後	底面糸切痕
灰白	灰白	赤灰	-	× ×	1	8C	
灰	灰	灰	-	○ ○	1	8C前	
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	1	8C	
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	20	8C後	転用鏡。高台裾部打欠、底部外面墨痕。
灰白	灰	灰白	-	○ △	30	8C	底部内面に灰被り痕。
灰白	灰白	灰紫	-	○ △	1	8C	
灰白	灰白	褐灰	-	○ ×	2	8C	
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	2	8C	底部内面に自然輪付着。
灰白	灰白	紫灰	-	○ △	1	8C	
灰白	灰白	灰白	-	○ ○	20	8C	
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	1	8~9C	壺窓A類?
灰白	灰白	灰白	-	△ ○	1	6C	

版面番号	№	登録実測番号	調査区・地区		層位・遺構	種類	器種	法量					
								口徑	胴径	底径	器高	最大厚	
第41図	237	155	2	1A	F9d5	2-2面	須恵器	甕	(23.0)	-	-	(4.2)	(0.9)
第41図	238	216	1	1A	F9e4	2-3層	須恵器	甕	(26.0)	-	-	(3.0)	(0.8)
第42図	239	244	5	1A		土坑43上層	土師器	碗	(14.0)	-	(7.0)	(3.3)	(0.6)
第42図	240	56		1B		1面	土師器	杯	(16.0)	-	-	(3.5)	(0.6)
第42図	241	413	3	2A		2層	製陶土器	-	(14.8)	-	-	(4.4)	1.2
第42図	242	166	1	1B(2)	F9e8	2-1層	土師器	甕	-	-	-	-	-
第42図	243	66	3	1A	F9e5	2-1層	青磁	坏	(12.0)	-	-	(2.3)	(0.4)
第42図	244	416	4	2B(2)	F9b10	2層	灰釉陶器	皿	(14.0)	-	-	(2.3)	(0.4)
第42図	245	538	4	1C		1層	灰釉陶器	皿	(15.6)	-	7.6	3.0	0.4
第42図	246	69	1A		F9e5	2-1層	灰釉陶器	碗	-	-	(10.4)	(1.0)	(0.8)
第42図	247	79	1	1A	F9e5	2-1層	灰釉陶器	碗	-	-	6.0	(1.5)	(0.8)
第42図	248	357	2	2A	F9a6	1層	黑色土器	碗	-	-	5.7	(1.3)	0.5
第42図	249	240	2	1A		井戸41	黑色土器	碗	-	-	8.0	(1.8)	(0.5)
第42図	250	160	2	1A	F9e6	2-2層	土師器	甕	(20.0)	-	-	(1.7)	(0.6)
第42図	251	153	3	1A	F9e5	2-2面	土師器	甕	(22.0)	-	-	(3.0)	(1.1)
第42図	252	188	5	1A	F9d5	2-2層	土師器	甕	(25.6)	-	-	(3.3)	(0.8)
第42図	253	124	2	1B(4)	F9f10	1層	土師器	甕	(25.0)	-	-	(4.5)	(0.8)
第42図	254	59	1B			溝8	土師器	甕	(22.0)	-	-	(5.0)	(0.8)
第42図	255	413	14	2A		2層	土師器	甕	(26.0)	-	-	(2.1)	(0.7)
第42図	256	414	2	2A	F9b6	2層	土師器	甕	(24.0)	-	-	(2.5)	(0.8)
第42図	257	413	4	2A		2層	土師器	甕	(28.8)	-	-	(6.8)	(0.7)
第42図	258	138		1B(3)	F9c10	1-1層	須恵器	甕	(26.0)	-	-	(6.5)	(1.3)
第42図	259	269	3	1A		土坑43上層	須恵器	甕	(39.4)	-	-	(6.8)	(1.0)
第42図	260	416	2	2B(2)	F9b10	2層	瓦	平瓦	-	-	(10.0)	(16.0)	(2.0)
第42図	261	416	1	2B(2)	F9b10	2層	瓦	平瓦	-	-	(11.2)	(6.3)	(2.5)
第42図	262	160	4	1A	F9e6	2-2層	瓦	平瓦	-	-	(8.0)	(6.0)	(2.5)
第44図	263	196	1A			建物15-Pit.S1	土師器	皿	(8.9)	-	(4.0)	1.2	0.5
第44図	264	193	1A			建物15-Pit.N3	土師器	皿	(12.0)	-	-	(1.5)	(0.7)
第44図	265	194	1A			建物15-Pit.N4	瓦器	碗	(16.0)	-	-	(3.3)	(0.4)
第44図	266	231	1A			建物15-Pit.N3	瓦器	碗	(14.0)	-	-	(4.2)	(0.5)
第44図	267	232	1A			建物15-Pit.N4	瓦器	碗	(14.0)	-	-	(5.2)	(0.5)
第47図	268	276	6	1A		3面・土坑43	土師器	皿	(8.0)	-	(4.0)	(1.2)	(0.5)
第47図	269	306	11	1A		3面・井戸43	土師器	皿	(9.0)	-	-	(1.8)	(0.5)
第47図	270	306	12	1A		3面・井戸43	土師器	皿	(49.0)	-	(5.2)	1.7	0.6
第47図	271	306	9	1A		3面・井戸43	土師器	皿	(10.0)	-	-	1.2	0.5
第47図	272	241	3	1A		3面・土坑43	土師器	皿	(10.0)	-	(6.0)	(1.5)	(0.5)
第47図	273	269	4	1A		3面・土坑43	土師器	皿	(9.0)	-	6.0	1.5	0.5
第47図	274	241	10	1A		3面・土坑43	土師器	皿	(9.0)	-	(6.0)	1.3	0.5
第47図	275	241	7	1A		3面・土坑43	土師器	皿	(9.0)	-	6.0	1.4	0.5
第47図	276	241	12	1A		3面・土坑43	土師器	皿	(10.0)	-	(6.0)	(1.5)	0.4
第47図	277	306	8	1A		3面・井戸43	土師器	皿	(11.2)	-	(5.0)	2.0	0.5
第47図	278	241	8	1A		3面・土坑43	土師器	皿	(12.0)	-	6.0	(2.0)	(0.5)
第47図	279	241	13	1A		3面・土坑43	土師器	皿	(12.0)	-	-	(1.9)	(0.6)
第47図	280	241	11	1A		3面・土坑43	土師器	皿	(14.0)	-	(6.0)	(2.6)	0.6
第47図	281	276	4	1A		3面・土坑43	土師器	皿	(14.0)	-	6.0	(2.4)	(0.4)
第47図	282	306	10	1A		3面・井戸43	土師器	皿	(14.6)	-	(6.0)	(3.1)	(0.6)
第47図	283	279	1A			3面・土坑43	土師器	皿	15.0	-	5.0	3.5	0.7
第47図	284	241	6	1A		3面・土坑43	土師器	皿	(16.0)	-	(10.0)	(2.8)	(0.5)
第47図	285	276	5	1A		3面・土坑43	土師器	皿	(16.0)	-	-	(2.3)	(0.5)
第47図	286	241	9	1A		3面・土坑43	土師器	皿	(14.0)	-	(8.0)	(1.8)	(0.4)

色調				胎土	焼成	残存 (%)	時期	備考	
外 面	内 面	断面	素 地						
灰	灰	灰	-	△	○	1	8C		
灰白	灰白	灰白	-	△	○	1	8C		
浅黄橙	灰白	灰白	-	○	○	10	11~12C		
浅黄橙	灰白	灰白	-	○	○	10	古代		
明褐灰	明褐灰	明褐灰	-	×	○	5	8C後~9C前		
純橙	純橙	純橙	-	△	○	1	古代		
綠灰	綠灰	灰白	灰白	○	○	5	8C中	越州窑系青瓷环I-2類	
灰白	灰白	灰白	灰白	△	○	5	9C?		
灰白	灰白	灰白	灰白	○	○	60	9C末~10C	黑釉90-3式~折口53-1式?(柄崎編年)	
褐灰	判-7 黄	灰白	灰白	○	○	5	9C前	磨滅顯著	
判-7 黄	判-7 黄	灰白	灰白	○	○	10	9C後	黒釉90煮式?(柄崎編年)	
純橙	純橙	純橙	-	○	△	10	10C	内面剥離。	
純黃橙	黑	黃灰	-	○	○	10	10C		
純橙	純橙	純橙	-	×	×	1	古代		
純黃橙	純黃橙	純黃橙	-	×	○	1	古代		
橙	橙	橙	-	×	×	1	古代		
浅黄橙	浅黄橙	浅黄橙	-	△	△	1	古代		
浅黄橙	浅黄橙	黄橙	-	△	△	2	古代		
黄橙	黄橙	黄橙	-	△	○	1	古代		
純橙	純橙	純橙	-	×	△	1	古代		
黄橙	黄橙	黄橙	-	△	○	5	古代		
灰白	灰白	灰白	-	○	○	1			
暗青灰	灰	灰	-	△	△	10	古代		
灰	灰	灰	-	△	○	5		須恵質	
灰	灰	灰	-	△	○	5		須恵質	
灰	灰	灰	-	△	○	5		須恵質	
純橙	純橙	純橙	-	△	○	10	12C		
黑褐	浅黄橙	浅黄橙	-	△	○	10	12C		
黑	黑	黄灰	-	○	△	10	12C前		
黑	黑	灰白	-	△	○	15	12C		
灰	灰	灰白	-	△	○	20	12C初	大和型 I-D	
純橙	純橙	純橙	-	○	△	10	11C~12C		
灰白	灰白	灰白	-	○	○	10	12C		
浅黄橙	浅黄橙	浅黄橙	-	○	○	20	12C		
浅黄橙	浅黄橙	浅黄橙	-	△	○	30	12C		
黑灰	灰黄	灰黄	-	△	○	20	12C		
灰白	灰白	灰白	-	○	○	10	中世	白色系	
浅黄橙	淡黄	淡黄	-	○	○	20	12C		
浅黄橙	浅黄橙	灰	-	○	△	15	13C		
浅黄橙	浅黄橙	浅黄橙	-	○	○	10	12C		
純黃橙	純黃橙	純黃橙	-	△	○	20	12C		
浅黄橙	浅黄橙	浅黄橙	-	○	○	15	11C末~12C初		
浅黄橙	浅黄橙	黑灰	-	○	×	10	12C~13C		
純橙	灰黄褐	純橙	-	△	△	20	12C		
浅黄橙	浅黄橙	灰白	-	○	△	15	11C~12C		
灰白	所白	灰白	-	○	○	10	11C		
浅黄橙	浅黄橙	浅黄橙	-	△	△	98	10C末~11C	底部外面に植物压痕。	
浅黄橙	浅黄橙	灰	-	△	△	20	12C		
浅黄橙	浅黄橙	灰白	-	○	△	10	11C~12C		
浅黄橙	淡黄	淡黄	-	○	○	10	11C末~12C初		

図版番号	No	登録実測番号	調査区・地区	肩位・遺構	種類	器種	法量						
							口径	胴径	底径	器高	最大厚		
第47回	287	276	3	1A		3面・土坑43	土師器	皿	(13.0)	-	(9.0)	(1.9)	(0.4)
第47回	288	269	5	1A		3面・土坑43	土師器	皿	(14.0)	-	10.0	1.1	(0.5)
第47回	289	276	2	1A		3面・土坑43	瓦器	椀	(16.0)	-	-	(4.0)	(0.4)
第47回	290	306	1	1A		3面・井戸43	瓦器	小型椀	8.2	-	4.7	3.4	0.5
第47回	291	281		1A		3面・土坑43	土師器	台付皿	-	-	8.0	(3.5)	(0.8)
第47回	292	306	4	1A		3面・井戸43	瓦器	椀	(16.0)	-	(7.8)	(5.2)	(0.5)
第47回	293	269	2	1A		3面・土坑43	瓦器	椀	(16.0)	-	-	(5.0)	(0.4)
第47回	294	276	1	1A		3面・土坑43	瓦器	椀	(8.0)	-	(3.0)	(2.8)	(0.4)
第47回	295	306	3	1A		3面・井戸43	瓦器	椀	-	-	(9.0)	(1.7)	(0.5)
第47回	296	306	7	1A		3面・井戸43	瓦器	椀	(16.0)	-	-	(3.5)	(0.5)
第47回	297	306	5	1A		3面・井戸43	瓦器	椀	(14.0)	-	(7.5)	(5.0)	(0.4)
第47回	298	241	1	1A		3面・土坑43	瓦器	椀	(16.0)	-	(6.0)	(4.7)	(0.6)
第47回	299	280		1A		3面・井戸43	瓦器	椀	15.0	-	7.4	5.6	0.5
第47回	300	244	4	1A		3面・土坑43	瓦器	椀	-	-	(6.0)	(1.3)	(0.4)
第47回	301	241	2	1A		3面・土坑43	瓦器	椀	-	-	(6.0)	(2.5)	(0.4)
第47回	302	244	2	1A		3面・土坑43	瓦器	椀	-	-	(6.8)	(1.9)	(0.3)
第47回	303	306	6	1A		3面・井戸43	瓦器	椀	(16.0)	-	-	(5.2)	(0.5)
第47回	304	244	1	1A		3面・土坑43	瓦器	椀	-	-	(6.4)	(1.8)	(0.6)
第47回	305	244	3	1A		3面・土坑43	瓦器	椀	-	-	(6.2)	(1.2)	(0.6)
第47回	306	215	2	1A		3面・土坑43	灰陶陶器	椀	-	-	(4.2)	(2.9)	(1.2)
第47回	307	266	2	1A		3面・土坑43	瓦器	椀	-	-	(5.8)	(1.4)	(0.4)
第48回	308	264	3	1A		3面・土坑40	土師器	皿	10.4	-	7.0	1.3	0.5
第48回	309	264	4	1A		3面・土坑40	土師器	皿	(10.0)	-	(6.2)	(1.5)	(0.4)
第48回	310	239	11	1A		3面・土坑40	土師器	皿	(10.0)	-	(4.0)	1.8	0.6
第48回	311	239	9	1A		3面・土坑40	瓦器	椀	-	-	8.0	(2.0)	(0.6)
第48回	312	264	2	1A		3面・土坑40	瓦器	椀	-	-	7.0	(4.0)	0.6
第48回	313	239	6	1A		3面・土坑40	瓦器	椀	(16.0)	-	(8.0)	(5.4)	(0.4)
第48回	314	239	2	1A		3面・土坑40	瓦器	椀	(16.0)	-	-	(2.3)	(0.5)
第48回	315	262		1A		3面・土坑40	瓦器	椀	(16.0)	-	-	(4.0)	(0.4)
第48回	316	239	1	1A		3面・土坑40	瓦器	椀	(16.0)	-	-	(4.0)	(0.5)
第48回	317	239	8	1A		3面・土坑40	瓦器	椀	(16.0)	-	-	(3.6)	(0.4)
第48回	318	264	1	1A		3面・土坑40	瓦器	椀	(15.0)	-	(6.0)	(6.0)	0.5
第48回	319	239	3	1A		3面・土坑40	瓦器	椀	(14.0)	-	(5.2)	(5.4)	(0.5)
第48回	320	239	4	1A		3面・土坑40	瓦器	椀	(14.0)	-	-	(4.8)	(0.5)
第48回	321	239	7	1A		3面・土坑40	瓦器	椀	(14.0)	-	-	(4.2)	(0.4)
第48回	322	239	5	1A		3面・土坑40	瓦器	椀	(15.0)	-	(6.0)	(4.9)	(0.5)
第48回	323	239	10	1A		3面・土坑40	土師器	羽茎	-	(28.0)	-	(5.8)	(0.8)
第48回	324	267	2	1A		3面・土坑42	土師器	皿	(9.0)	-	(3.0)	1.8	0.4
第48回	325	266	7	1A		3面・土坑42	土師器	皿	(10.0)	-	(5.0)	2.0	(0.4)
第48回	326	266	10	1A		3面・土坑42	土師器	皿	10.2	-	-	(2.2)	(0.5)
第48回	327	297	5	1A		3面・土坑42	土師器	皿	(11.0)	-	(4.0)	(2.9)	(0.5)
第48回	328	265	2	1A		3面・土坑42	土師器	皿	(13.0)	-	(4.0)	(3.0)	(0.5)
第48回	329	297	6	1A		3面・土坑42	土師器	皿	(14.0)	-	(5.0)	(2.8)	(0.6)
第48回	330	266	9	1A		3面・土坑42	土師器	椀	(13.2)	-	-	(3.3)	(0.5)
第48回	331	297	4	1A		3面・土坑42	土師器	皿	(14.8)	-	-	(2.7)	(0.6)
第48回	332	266	11	1A		3面・土坑42	土師器	皿	(11.5)	-	(9.5)	1.5	0.4
第48回	333	266	6	1A		3面・土坑42	瓦器	椀	(16.0)	-	-	(4.1)	(0.4)
第48回	334	297	2	1A		3面・土坑42	瓦器	椀	(14.0)	-	-	(3.7)	(0.4)
第48回	335	267	1	1A		3面・土坑42	瓦器	椀	15.0	-	5.8	6.0	0.5
第48回	336	266	1	1A		3面・土坑42	瓦器	椀	(14.0)	-	(8.8)	(5.5)	(0.4)

色調				胎土	焼成	残存 (%)	時期	備考	
外 面	内 面	断 面	素 地						
灰白	黒	灰白	-	△	○	15	13C	灯明皿	
浅黄橙	浅黄橙	浅黄橙	-	○	○	10	中世		
黒	黒	灰白	-	○	○	100	12C末~13C初	大和型Ⅲ段階	
灰黄	灰黄	灰黄	-	○	○	20	11C	見込部に放射状暗文。大和型I-B類の影響あるか?	
黒	黒	灰白	-	○	○	25	11C	中・南河内・和泉で出土。	
灰	灰	灰白	-	○	○	20	12C前	大和型Ⅱ-D段階	
灰白	灰白	黒	-	○	△	30	?	小型品	
灰	灰	灰白	-	○	○	10	12C初	和泉型Ⅱ-1段階	
灰	灰	灰白	-	○	○	10	11C末~12C初	袖葉型Ⅰ段階	
灰	灰	灰白	-	○	○	10	11C末~12C初	大和型Ⅰ-D段階	
灰黄	黒	灰白	-	○	△	20	12C末~13C初		
黒	黒	灰白	-	○	○	100	11C後	大和型I-C~D類。高台内に焼成後縦刻「×」。	
灰	灰	灰白	-	○	○	5	11C末~12C初	袖葉型Ⅰ-3段階	
黒灰	黒灰	灰白	-	○	○	15	12C		
灰	灰	灰白	-	○	○	5	11C末~12C初	大和型I-D段階	
灰	灰	灰白	-	○	○	10	11C末~12C初	和泉型Ⅱ-1段階	
灰	灰	灰白	-	○	○	20	12C末	和泉型Ⅲ段階	
灰白	灰白	浅黄橙	-	○	×	5	11C末~12C初	和泉型Ⅰ-3段階	
灰白	浅黄	灰白	灰白	○	○	10	11C?	外面部露胎。	
灰黄	灰黄	灰黄	-	○	△	20	12C末	和泉型Ⅱ~Ⅲ段階	
浅黄橙	浅黄橙	灰褐色	-	○	○	50	13C	口縁部打ち欠き後、灯明皿に転用。	
浅黄橙	浅黄橙	浅黄橙	-	△	○	10	12C		
浅黄橙	浅黄橙	浅黄橙	-	△	△	20	12C		
灰	灰	灰白	-	△	○	20	11C末~12C初	袖葉型Ⅰ-2~3段階	
暗灰	暗灰	灰黄	-	○	△	40	11C末~12C前	和泉型Ⅰ-3類	
黒	灰	灰白	-	○	○	30	12C	袖葉型Ⅱ段階	
灰白	灰白	灰白	-	○	○	5	12C前	袖葉Ⅱ-1段階	
黒	黒	灰白	-	○	○	15	12C末~13C初	大和Ⅲ-A段階	
浅黄橙	浅黄橙	灰白	-	○	×	5	12C~13C	袖葉Ⅲ-1段階	
灰	灰	灰白	-	○	○	10	12C	袖葉型Ⅱ段階	
暗灰	暗灰	浅黄	-	○	○	30	11C後	大和型Ⅰ類	
黒	黒	灰白	-	○	○	20	11C末~12C初	大和Ⅱ-A段階	
灰	灰	灰白	-	○	○	20	11C末~12C初	大和Ⅱ-A段階	
灰	灰	灰白	-	○	△	10	12C	袖葉型Ⅱ段階	
灰	灰	灰白	-	○	○	10	12C	大和Ⅲ段階	
褐灰	褐灰	黑褐色	-	△	×	1	中世		
純黄橙	純黄橙	褐灰	-	×	△	30	12C前	土師皿Ab類	
純黄橙	純黄橙	純黄橙	-	△	○	10	12C		
純黄橙	純黄橙	浅黄橙	-	△	○	30	12C		
褐灰	純黄橙	純黄橙	-	△	△	5	12C		
浅黄橙	浅黄橙	灰褐色	-	△	△	30	11C	土師皿A類	
浅黄橙	浅黄橙	浅黄橙	-	○	○	15	11C末~12C初		
純黄橙	純黄橙	浅黄橙	-	○	○	10	中世		
浅黄橙	浅黄橙	浅黄橙	-	○	△	10	11C末~12C初		
浅黄橙	浅黄橙	浅黄橙	-	△	○	5	12C		
灰	灰	灰	灰	○	○	20	12C後	袖葉型Ⅱ段階	
灰	灰	灰白	-	○	○	10	12C	大和型Ⅱ段階	
暗灰	暗灰	浅黄	-	△	△	30	12C	袖葉型Ⅱ-1段階	
黄灰	褐灰	灰白	-	○	×	20	12C後	袖葉型Ⅱ段階	

図版番号	No.	登録実測番号	調査区・地区	層位・造構	種類	器種	法量				
							口徑	胴径	底径	器高	最大厚
第48図	337	266	8	1A		3面・土坑42	土師器	皿?	(12.2)	-	-
第48図	338	297	1	1A		3面・土坑42	瓦器	碗	(16.3)	-	-
第48図	339	266	5	1A		3面・土坑42	瓦器	碗	(13.0)	-	-
第48図	340	266	12	1A		3面・土坑42	瓦器	碗	(15.8)	-	-
第48図	341	266	3	1A		3面・土坑42	瓦器	碗	(16.2)	-	(8.0) (4.9) (0.4)
第48図	342	266	4	1A		3面・土坑42	瓦器	碗	-	-	(6.2) (1.4) (4.5)
第48図	343	268	3	1A		3面・土坑42	瓦器	碗	-	-	6.0 (1.6) (0.6)
第49図	344	227	3	1A	F9d5	23縁	土師器	皿	(6.8)	-	(4.0) (1.0) 0.3
第49図	345	272	2	1A	F9e5	23縁	土師器	皿	(9.2)	-	-
第49図	346	273	1	1A		3面	土師器	皿	(9.0)	-	(5.0) 1.1 (0.5)
第49図	347	160	3	1A	F9e6	22縁	土師器	皿	(9.7)	-	-
第49図	348	216	2	1A	F9e4	23縁	土師器	皿	(10.0)	-	(5.0) (0.7) (0.4)
第49図	349	392	2	2A	F9e6	2面	土師器	皿	(10.0)	-	(6.0) (1.0) (0.4)
第49図	350	141	1B(3)		F10d1	1-1縁	土師器	皿	(10.0)	-	-
第49図	351	168	2B(2)		F9f7	22縁	土師器	皿	(12.0)	-	-
第49図	352	436	1	2B(3)	F9g8	2縁	土師器	皿	(9.0)	-	(4.0) (1.2) (0.4)
第49図	353	158	4	1A	F9d6	22縁	土師器	皿	(9.0)	-	(5.0) 1.2 0.5
第49図	354	504	3	2B(2)		3面・石列付近	土師器	皿	(10.0)	-	-
第49図	355	190	2	1A	F9e5	2-2縁	土師器	皿	(10.0)	-	(6.0) (1.0) (0.5)
第49図	356	416	6	2B(2)	F9b10	2縁	土師器	皿	(10.0)	-	-
第49図	357	240	3	1A		井戸41	土師器	皿	(11.0)	-	-
第49図	358	222	1	1A	F9e5	2-3縁	土師器	皿	(10.8)	-	(6.8) 1.4 0.4
第49図	359	274	1	1B(3)(4)		3面・筋溝	土師器	皿	(12.0)	-	-
第49図	360	188	8	1A	F9d5	2-2縁	土師器	皿	(7.5)	-	-
第49図	361	216	3	1A	F9e4	2-3縁	土師器	皿	(8.0)	-	-
第49図	362	158	5	1A	F9d6	2-2縁	土師器	皿	(9.0)	-	(4.0) (1.5) (0.4)
第49図	363	127	2	1A		2-2面	土師器	皿	(9.2)	-	-
第49図	364	188	6	1A	F9d5	2-2縁	土師器	皿	(9.4)	-	-
第49図	365	277	1	1A	F9d5	23縁	土師器	皿	9.6	-	5.0 1.8 0.7
第49図	366	130	1A			2-2面・筋溝	土師器	皿	10.0	-	5.0 1.8 (0.5)
第49図	367	222	3	1A	F9e5	2-3縁	土師器	皿	(10.8)	-	(6.0) 1.7 0.5
第49図	368	176	1B(3)(4)		F9d10	1-2縁	土師器	皿	(7.0)	-	(6.0) 1.3 0.5
第49図	369	353	2A		F9d4	1縁	土師器	皿	(7.5)	-	-
第49図	370	124	1	1B(4)	F9f10	1縁	土師器	皿	(8.2)	-	(6.0) 1.0 0.5
第49図	371	190	1	1A	F9e5	2-2縁	土師器	皿	(9.4)	-	-
第49図	372	249	2	1B(1)		3面	土師器	皿	(9.8)	-	(5.0) 1.5 0.5
第49図	373	158	3	1A	F9d6	2-2縁	土師器	皿	(9.0)	-	(6.0) (1.5) (0.5)
第49図	374	202	1	1B	F9e7	3面	土師器	皿	(10.0)	-	(6.0) 1.1 0.4
第49図	375	416	5	2B(2)	F9b10	2縁	土師器	皿	13.0	-	(6.0) (2.0) (0.5)
第49図	376	183	1A		F9f4	3面	土師器	皿	(11.6)	-	-
第49図	377	227	2	1A	F9d5	2-3縁	土師器	皿	(13.0)	-	-
第49図	378	277	3	1A	F9d5	2-3縁	土師器	皿	(16.0)	-	(6.0) (3.8) 0.7
第49図	379	127	3	1A		2-2面	土師器	皿	(13.2)	-	(10.0) (1.9) (0.4)
第49図	380	153	4	1A	F9e5	2-2面	土師器	皿	(14.0)	-	-
第49図	381	222	2	1A	F9e5	2-3縁	土師器	皿	(14.9)	-	(11.0) 1.3 0.6
第49図	382	153	2	1A	F9e5	2-2面	土師器	皿	(14.9)	-	(9.0) 1.3 0.5
第49図	383	166	2	1B(2)	F9e8	2-1縁	土師器	皿	(12.8)	-	-
第49図	384	158	2	1A	F9d6	2-2縁	土師器	皿	-	-	(6.0) (0.6) 0.0
第49図	385	160	1	1A	F9e6	2-2縁	土師器	甕	(19.8)	-	-
第49図	386	406	3	2B(3)		1面・クラシク状水路	灰釉陶器	皿?	-	-	4.6 (1.3) 1.0

色調				胎土	焼成	残存 (%)	時期	備考	
外画	内画	断面	素地						
灰褐	純黄橙	純黃橙	-	△	△	10	中世	器高あり、環なし？	
灰白	灰白	灰白	-	○	○	20	12C	植葉型II段階	
純黄橙	純黄橙	褐灰	-	○	△	10	12C後	大和型III段階	
灰	灰	純黄橙	-	○	×	10	13C初	大和型III段階	
灰黄	灰	灰黄	-	○	△	20	12C後	植葉型II-2段階	
灰	灰	灰	-	○	△	10	12C後	植葉型II段階	
黑	黑	灰白	-	○	○	20	12C		
浅黄橙	浅黄橙	浅黄橙	-	○	○	10	11C		
浅黄橙	浅黄橙	浅黄橙	-	○	△	20	12C	折線彫	
浅黄橙	浅黄橙	浅黄橙	-	△	○	30	11C		
灰白	灰白	灰白	-	○	×	5	12C初		
純橙	純橙	純橙	-	△	○	5	11C	折線彫	
褐灰	灰黄	灰黄	-	○	×	10	11C		
純橙	純橙	純橙	-	○	△	10	11C	ナゲによる2段形成。皿A型	
純橙	純橙	純橙	-	○	○	5	11C		
浅黄	浅黄	浅黄	-	○	△	10	12C		
浅黄	浅黄橙	浅黄橙	-	△	△	10	12C		
浅黄	浅黄橙	浅黄橙	-	△	○	15	12C		
浅黄橙	浅黄橙	浅黄橙	-	△	○	10	12C		
浅黄	浅黄	浅黄	-	△	○	10	12C		
灰黄	灰黄	灰黄	-	○	○	30	12C		
橙	橙	橙	-	△	○	10	12C		
灰白	灰白	灰白	-	○	△	5	11C?		
灰黄	灰黄	灰黄	-	○	△	10	12C		
灰黄	灰白	褐灰	-	○	△	20	12C		
純橙	灰白	褐灰	-	○	△	10	12C		
淡黄	淡黄	淡黄	-	△	○	10	12C		
黄橙	浅黄橙	浅黄橙	-	△	○	10	13C		
灰白	灰白	灰白	-	△	○	100	11~12C		
灰黄	純橙	純橙	-	○	△	20	12C	一部屈曲線	
浅黄橙	浅黄橙	浅黄橙	-	△	○	10	12C		
浅黄橙	浅黄橙	浅黄橙	-	○	△	10	13C		
純橙	純橙	純橙	-	△	△	10	13C		
浅黄橙	浅黄橙	浅黄橙	-	△	○	20	中世		
純黄橙	純黄橙	純黄橙	-	△	△	10	13C		
純橙	純黄橙	純黄橙	-	△	○	10	13C		
純橙	純橙	純橙	-	△	○	10	13C		
淡黄	淡黄	純橙	-	△	△	20	13C		
純橙	純橙	純橙	-	○	△	10	13C		
浅黄橙	浅黄橙	浅黄橙	-	△	○	10	13C		
浅黄橙	橙	橙	-	○	○	10	12C		
浅黄橙	浅黄橙	浅黄橙	-	△	○	5	11~12C		
浅黄橙	灰黄褐	浅黄橙	-	△	△	20	12C		
純黄橙	灰白	灰白	-	○	○	10	11C末 - 12C		
浅黄橙	浅黄橙	浅黄橙	-	△	○	10	12C		
淡黄	淡黄	淡黄	-	△	△	5	12C		
純橙	褐灰	褐灰	-	○	△	10	13C?		
純橙	純橙	純橙	-	○	△	10	13~14C		
淡黄	淡黄	灰黄褐	-	○	△	10	中世?	底部に焼成後穿孔あり。	
純橙	純橙	純橙	-	×	○	1	中世以前	底部に工具押圧痕あり(施文?)	
灰黄	灰白	灰黄	灰黄	△	○	10	11C?	底部外面系切痕後削出高台。	

図版 番号	No.	登録実測 番号	調査区・地区	附位・道構	種類	器種	法量				
							口径	胴径	底径	器高	最大厚
第49図	387	405	5	2B(1)		1面・クラシック状水路	施釉陶器	碗	-	-	4.5 (1.0)
第49図	388	405	7	2B(1)		1面・クラシック状水路	施釉陶器	碗	-	-	9.0 (2.0)
第49図	389	402	2	2B(3)	1層		施釉陶器	碗	-	-	3.0 (2.0)
第49図	390	215	2	1A		南側削溝	施釉陶器	碗	-	-	4.6 (2.5)
第49図	391	66	1	1A	F9e5	2-1層	施釉陶器	碗	-	-	4.0 (1.5)
第49図	392	109	1B(2)	F9e8	1層	白磁	碗	(16.0)	-	-	3.0 (0.5)
第49図	393	543	1C		2面	白磁	碗	(18.0)	-	-	2.9 (0.5)
第49図	394	127	4	1A		2-2面	白磁	碗	(19.0)	-	-
第49図	395	145	1B(4)	F10e1	1層	白磁	碗	(16.0)	-	-	2.0 (0.6)
第49図	396	395	3	2B(2)		2面	灰釉陶器	碗	(16.2)	-	-
第49図	397	116	2	1B(1)	F9d8	1-2層	青磁	碗	-	-	-
第49図	398	68	1A	F9e4	2-1層	須恵器	鉢	(34.0)	-	-	3.0 (1.0)
第49図	399	85	2	1B(1)	F9e8	1-1層	白磁	碗	-	-	-
第49図	400	367	2A	F9e6	2面	青磁	皿	-	-	(3.8)	(1.3)
第49図	401	398	1	2B(1)		北側削溝	綠釉陶器	碗	-	-	-
第50図	402	201	3	1B	F9d7	3面	瓦器	椀	(12.5)	-	-
第50図	403	277	2	1A	F9d5	2-3層	瓦器	椀	(14.0)	-	-
第50図	404	228	1A	F9d10	2-3層	瓦器	椀	(14.0)	-	-	5.1 (0.4)
第50図	405	136	1	1B(2)		2-1面	瓦器	椀	(18.0)	-	-
第50図	406	159	1A	F9e5	2-2層	黒色土器	椀	(14.0)	-	-	3.9 (0.4)
第50図	407	188	2	1A	F9d5	2-2層	瓦器	椀	(13.2)	-	-
第50図	408	188	4	1A	F9d5	2-2層	瓦器	椀	(13.6)	-	-
第50図	409	188	1	1A	F9d5	2-2層	瓦器	椀	(17.0)	-	-
第50図	410	238	1A		3面	瓦器	椀	(14.4)	-	-	3.9 (0.4)
第50図	411	227	1	1A	F9d5	2-3層	瓦器	椀	(15.8)	-	-
第50図	412	172	1	1B(1)②	F9e8	2-2層	瓦器	椀	(15.0)	-	(5.5)
第50図	413	253	1B(3)④	F10e1	2-2層	瓦器	椀	-	-	5.9	(1.5)
第50図	414	277	4	1A	F9d5	2-3層	瓦器	椀	-	-	9.0 (0.7)
第50図	415	272	1	1A	F9f5	2-3層	瓦器	椀	-	-	5.8 (1.5)
第50図	416	188	3	1A	F9d5	2-2層	瓦器	椀	-	-	6.0 (1.3)
第50図	417	141	2	1B(2)	F10d1	1-1層	瓦器	椀	-	-	6.0 (1.0)
第50図	418	171	1B		2-2層	瓦器	椀	-	-	(5.7)	-
第50図	419	12	1A		南側削溝	須恵器	擂鉢	-	-	(10.0)	(3.5)
第50図	420	150	1B(2)	F9d10	1-1層	須恵器	鉢	-	-	(12.0)	(2.5)
第50図	421	538	2	1C	1層	土師器	三足釜	(18.0)	(22.0)	-	(4.3) (0.6)
第50図	422	236	1B(1)		2層	土師器	羽釜	(20.0)	-	-	(3.2) (0.8)
第50図	423	268	1A		土坑43上層	須恵器	甕	(25.0)	-	-	3.9 (1.2)
第50図	424	62	3	1B		1面	須恵器	鉢	(30.0)	-	-
第50図	425	90	1A	F9d5	2-2面	須恵器	鉢	(29.0)	-	-	4.0 (0.8)
第50図	426	536	2C	F9n10	3層	須恵器	鉢	32.0	-	-	(3.7) (1.0)
第50図	427	75	2	1A	F9e4	2-1層	瓦器	擂鉢	(32.0)	-	-
第50図	428	408	2B(3)		1層	瓦器	三足釜	-	-	-	9.0 (2.0)
第50図	429	236	1B(1)		2層	土師器	三足釜	-	-	-	(12.0) (2.4)
第51図	430	405	1	2B(1)		1面・クラシック状水路	染付	湯呑	7.0	8.0	3.8 (0.7)
第51図	431	405	2	2B(1)		1面・クラシック状水路	染付	湯呑	7.0	7.0	3.2 (0.6)
第51図	432	59	1B		溝8	染付	壺	-	(8.0)	(6.0)	(3.5) (0.7)
第51図	433	405	4	2B(1)		1面・クラシック状水路	染付	壺	(11.0)	-	-
第51図	434	406	1	2B(1)		1面・クラシック状水路	染付	鉢	(13.0)	-	(8.0) (0.5)
第51図	435	471	2B(3)		搅乱	染付	皿	-	-	4.6 (2.7)	0.6
第51図	436	380	2	2B(2)		1面・搅乱	染付	鉢	-	-	5.6 (2.5)

色調				胎土	焼成	残存 (%)	時代	備考	
外画	内画	断面	素地						
純白	灰白	純白	純白	△	○	15	中世		
灰白-7'	灰白-7'	灰黄褐	灰黄褐	○	○	10	中世	灰釉繪布	
灰白-7'	灰白-7'	灰褐	灰褐	○	○	10	中世?	灰釉繪布	
灰白-7'	灰白-7'	灰褐	灰褐	○	○	25	中世?	灰釉繪布	
淡黃	淡黃	灰白	灰白	○	○	20	中世?	灰釉繪布・高台内に墨書	
灰白	灰白	灰白	灰白	○	○	10	11C末 - 12C	白磁碗IV類	
白	白	白	白	○	○	1	12C前	白磁碗I類	
灰白	灰白	灰白	灰白	○	○	10	12C	白磁碗類	
灰白	灰白	灰白	灰白	○	○	1		碗II類	
灰白	灰白	灰白	灰白	○	○	2	12C	足美・湖西型	
綠灰	綠灰	灰白	灰白	○	○	10	13C前	龍泉窯系青磁碗II-a類(大宰府編年)	
灰白	灰白	灰白	灰白	-	○	1	中世	唐減頭著	
灰白-7'	灰白-7'	灰白	灰白	○	○	10	12C半	白磁碗V類。外側に模ヘラ花弁文。	
白-7'灰	灰白	白-7'灰	-	○	○	10	11C後~12C	内面ヘラ描花文あり。広東系白磁碗II-b類。	
白-7'黃	灰白	灰白	灰白	○	○	?	?	沿着資料	
黑	黑	灰白	灰白	-	○	15	12C	大和型II段階	
浅黃橙	純白	灰白	灰白	-	△	×	10	12C	大和型II段階
灰	灰	灰白	灰白	-	○	20	12C後	梅葉型II段階	
黑	黑	黃灰	-	○	○	10	12C半	土師質・均整店草文(市史a類)	
純白	灰白	純白	-	○	△	10	10C	内面磨滅	
黑	黑	黃灰	-	○	○	10	12C後	梅葉型II段階	
黑	黑	黃灰	-	○	×	10	12C後	和泉型II段階	
黑	黑	黃灰	-	○	○	10	12C後	大和型II段階	
黑	黑	灰白	-	○	○	10	12C	梅葉型II類	
灰	灰	灰白	-	○	○	5	13C	梅葉型III段階	
淡黃橙	淡黃橙	淡黃橙	-	○	×	30	13C	梅葉型III-3?	
黑	黑	灰白	-	○	○	30	11C後		
灰	灰	灰白	-	△	○	15	12C		
白-7'黑	灰	淡黃	-	○	○	5	13C		
灰	灰	灰白	-	○	○	5	12C後	梅葉型II段階	
黃灰	黃灰	黃灰	-	○	×	2	13C		
淡灰黃	灰白	灰白	-	○	△	5	12~13C		
灰白	灰白	灰白	-	△	△	1	中世	幅口8本・2cm	
灰白	灰白	灰白	-	△	△	1	中世		
浅黃	浅黃	浅黃	-	×	△	1	13C		
純黃橙	純黃橙	純黃橙	-	△	○	1	10~11C	折津C型羽釜	
灰	灰	灰	-	△	△	1	中世		
灰白	灰白	灰白	-	△	○	1	14C		
灰白	灰白	灰白	-	△	○	1	12C		
灰白	灰白	灰白	-	○	○	1	中世		
黑	黑	灰	-	△	△	1	15C		
灰	-	灰白	-	○	△	1	13C		
浅黃	浅黃	灰	-	△	△	1	中世		
明綠灰	灰白	明綠灰	○	○	70		近世		
白	白	白	白	○	○	30	近世		
灰白	灰白	灰白	灰白	○	○	20	17C半	内面無輪。	
白	白	白	白	○	○	5	近世		
灰白	灰白	白	白	○	○	40	近世		
白	白	白	白	△	○	2	近世以降	見込に菊花の絵付	

図版 番号	No.	登録実測 番号	調査区・地区	剖位・造構	種類	器種	法量					
							口径	胴径	底径	器高	最大厚	
第51図	437	405	6	2B(1)		1面・クラシック状水路	施釉陶器	蓋	(5.2)	(8.0)	-	(1.8) (0.3)
第51図	438	405	3	2B(1)		1面・クラシック状水路	染付	碗	-	-	(5.0)	(2.0) (0.6)
第51図	439	406	2	2B(1)		1面・クラシック状水路	染付	碗	-	-	4.4	(2.5) 0.7
第51図	440	54	1B		機械削削唇	染付	鉢	(10.0)	-	-	(2.5) (0.3)	
第51図	441	57	1B		1面・Pit.4	施釉陶器	碗	(11.2)	-	-	(3.0) (0.4)	
第51図	443	380	1	2B(2)		1面・搅丸	施釉陶器	鉢	-	-	10.0	(8.0) (1.2)
第51図	444	18	1A		溝1	陶器	擂鉢	(34.0)	-	-	(3.5) (1.3)	
第53図	445	404	2	2B(3)	1層		磁器	紅皿	(3.0)	-	(1.4)	1.3 0.3
第53図	446	437	2B(3)	F9b9	2層		磁器	紅皿	(4.6)	-	(1.8)	1.3 0.3
第53図	447	440	1	2B(1)	E9j8	2層	染付?	皿	(14.0)	-	(10.0)	(2.3) (0.3)
第53図	448	401	1	2B(1)		北舞鶴溝	染付	湯呑	(8.0)	-	-	(2.3) (0.3)
第53図	449	375	2B(2)		1面	染付	碗	(9.0)	-	-	(3.5) (0.5)	
第53図	450	56	1B		1面	染付	碗	(10.0)	-	-	(4.4) (0.4)	
第53図	451	447	2	2B(3)	F9b9	2層	染付	碗	-	-	(6.2)	(2.5) (0.7)
第53図	452	143	1B(3)	F10d2	1-1層	染付	碗	(10.0)	-	-	(2.9) (0.3)	
第53図	453	118	1B(1)	F9d9	1-2層	染付	碗	(10.6)	-	-	(2.5) (0.5)	
第53図	454	384	1	2B(1)	1層	染付	碗	(12.0)	-	-	(2.5) (0.4)	
第53図	455	66	2	1A	F9e5	2-1層	染付	碗	(12.0)	-	-	(4.5) (0.4)
第53図	456	44	1A	F9e5	1層	瓦	軒丸瓦	-	-	(6.5)	(4.5) (1.5)	
第53図	457	65	1A	F9e4	2-1層	染付	鉢	(32.0)	-	-	(5.0) (0.5)	
第53図	458	133	2	1B(3)		1-2層	施釉陶器	天日茶碗	(11.0)	-	-	(4.0) 0.6
第53図	459	102	1	1B(1)	F9d9	1-1層	施釉陶器	天日茶碗	-	-	(3.6)	(3.0) 0.7
第53図	460	102	2	1B(1)	F9d9	1-1層	施釉陶器	皿	(14.0)	-	-	(2.0) 0.4
第53図	461	52	2	1A		2面	施釉陶器	皿	(12.0)	-	-	(2.0) (0.5)
第53図	462	404	1	2B(3)	1層		施釉陶器	碗	(14.0)	-	-	(3.5) (0.5)
第53図	463	62	1	1B		1面	施釉陶器	鉢?	-	-	(5.0)	(2.0) 1.5
第53図	464	63	1	1B		1面	施釉陶器	皿	-	-	3.3	(1.3) 0.6
第53図	465	101	1B(1)	F9e9	1-1層	施釉陶器	皿	-	-	3.0	(1.6) (0.5)	
第53図	466	102	4	1B(1)	F9d9	1-1層	施釉陶器	皿	-	-	4.2	(1.2) 1.0
第53図	467	62	4	1B		1面	施釉陶器	碗	-	-	(4.2)	(2.0) 0.7
第53図	468	85	1	1B(1)	F9e8	1-1層	施釉陶器	皿	-	-	4.4	(1.6) 0.7
第53図	469	52	1	1A		2面	施釉陶器	碗	(12.0)	-	-	(2.0) (0.5)
第53図	470	429	2	2B(1)	E9j9	2層	施釉陶器	皿	-	-	(4.0)	(1.5) (0.5)
第53図	471	86	1B(1)	F9d8	1-1層		施釉陶器	碗	-	-	(4.5)	(2.5) 0.6
第53図	472	48	1A	F9e6	1層		施釉陶器	皿	(11.0)	-	-	(2.0) (0.8)
第53図	473	401	2	2B(1)		北舞鶴溝	施釉陶器	鉢	-	-	(7.6)	(1.5) (0.4)
第53図	474	424	2B(3)		2面	染付	鉢	-	-	6.0	(2.0) 0.7	
第53図	475	384	2	2B(1)	1層		施釉陶器	土瓶	(10.0)	-	-	(3.5) (0.4)
第53図	476	114	1B(1)	F9d7	1-2層		施釉陶器	鉢	(16.0)	-	-	(2.3) (0.4)
第53図	477	85	3	1B(1)	F9e8	1-1層	陶器	鉢	(18.0)	-	-	(5.0) (0.8)
第53図	478	448	2B(3)	F9b9	2層	陶器	擂鉢	-	-	(12.0)	(2.5) (1.7)	
第53図	479	75	1	1A	F9e4	2-1層	陶器	擂鉢	(32.0)	-	-	(4.0) (1.1)
第53図	480	336	2A		1面		施釉陶器	鉢	(13.6)	(14.5)	-	(4.0) (0.8)
第53図	481	336	2A		1面		施釉陶器	鉢	(13.6)	(14.5)	-	(4.0) (0.8)
第53図	482	447	1	2B(3)	F9b9	2層	施釉陶器	鉢	(20.4)	-	-	(2.5) (0.5)

色調				胎土	焼成	残存 (%)	時期	備考
外 面	内 面	断 面	素 地					
灰紗-7'	灰白	灰白	灰白	○	○	?	近世	灰釉塗布
灰白	灰白	灰白	灰白	○	○	10	近世	
灰白	灰白	灰白	純橙	○	○	15	近世	見込に蛇目網糸
灰	灰	灰白	灰白	○	○	5	近代	
灰白	黑褐	灰白	-	○	○	5	19C	外面口縁のみ鉄釉塗布。口縁以下籠手文、灰釉塗布。
黒褐	黒褐	灰白	灰白	△	○	1	近世以降	
灰赤	灰赤	灰	-	△	○	1	近世	
白	白	白	白	○	○	20	近世	
白	白	白	-	○	○	35	近世	
白	白	白	-	○	○	1	近世以降	
白	白	白	白	○	○	1	近世以降	
白	白	白	-	○	○	5	近世	
白	白	白	-	○	○	2	近世	
灰白	灰白	灰白	灰白	△	○	10	近世	
白	白	白	白	○	○	5	近世	
白	白	白	-	○	○	5	17C末-18C前	
白	白	白	白	○	○	5	近世以降	
白	白	白	白	○	○	10	近世	
黑	灰	灰	-	△	△	5	三巴紋	
明紗-7' 灰	明紗-7' 灰	灰白	灰白	○	○	1	近世	内面に唐草水玉の絵付。
黒褐	黒褐	黄灰	-	○	○	10	17C前	進房第1小割(春沢編年)
灰褐	灰褐	灰白	純橙	△	○	5	16C	鉄釉塗布。内面に使用痕あり。
灰白	灰白	灰白	-	○	○	5	17C初	唐津焼。
灰白	灰白	純橙	純橙	○	△	10	中近世	輪色は灰釉に近似。
灰紗-7'	灰紗-7'	灰白	灰白	○	○	5	近世	灰釉。
灰紗-7'	灰紗-7'	灰白	純橙	○	○	20	17C前	唐津焼。底部外面一部露胎。
黄褐	黄褐	灰黃	灰黃	○	○	30	18C	内面底部に印花
淡黃	淡黃	灰白	灰白	○	○	10	近世?	
灰黃	灰紗-7'	灰白	灰黃	○	○	5	17C初	唐津焼?
灰白	灰	灰	灰黃	○	○	5	18C	唐津焼
灰白	灰	灰	灰紗-7'	○	○	10	17C前	織れ縫付着
灰	灰白	灰紫	灰紫	○	○	10	17C~18C	内面に白色波状刷毛目文様。
暗灰黃	暗灰黃	灰白	灰白	○	○	3	近世以降	
灰褐	灰褐	明灰褐	-	○	○	10	17-18C	内外面に白色刷毛目文様。
灰黃	灰黃	純橙	純橙	○	○	15	近世	
淡黃	淡黃	灰白	灰白	○	○	2	近世	
灰白	灰白	灰白	灰白	○	○	20	近世	
黄褐	純黃褐	黄灰	黄灰	○	○	1	近世以降	
褐	灰褐	灰白	灰白	○	○	1	近世	鉄釉塗布
褐灰	褐灰	-	○	○	2	近世		
褐灰	褐灰	-	○	○	1	近世		
灰黃褐	灰黃褐	灰	-	△	○	1	近世	
淡黃	淡黃	淡黃	淡黃	○	○	5	近世?	产地不明
淡黃	淡黃	淡黃	淡黃	○	○	5	近世?	产地不明
黑褐	黑褐	灰褐	灰褐	○	○	1	近世	

表3 出土遺物一覧表(石器)

図版No	登録実測No	調査区	地区	層位・遺構	器種名	最大長	最大幅	最大厚	備考		
第15図	4	395	1	2B②	2面	ナイフ形石器	6.5	1.9	1.1	後期旧石器	
第15図	5	424		2B③	2面	ナイフ形石器	2.8	1.4	0.6	後期旧石器	
第15図	6	437		2B③	F9-b9	削器?	3.7	1.5	0.5	ナイフ形石器か	
第15図	7	554	5	2C	繩文谷	削器?	2.0	4.5	0.8	二次加工あり	
第15図	8	308		1B①		石匙	3.5	4.2	0.6	横型	
第15図	9	307	1	1B②(4)		5面・溝149	石匙	6.9	3.2	0.7	縱型
第15図	10	203		1B①(2)	F9-a7	3面	石鍬	2.4	1.5	0.3	無茎凹基抉溝型
第15図	11	527		2B③		3面・ビット368	石鍬	1.7	1.1	0.2	無茎凹基抉溝型
第15図	12	18		1A		1面・溝1	石鍬	2.9	2.2	0.5	無茎凹基抉溝型
第15図	13	509		1B④		5面・溝138	石鍬	2.3	1.2	0.3	石槍か?
第15図	14	441	2	2B①	F9-a8	2層	石槍	4.9	1.9	0.7	柳葉形
第16図	15	376		2B②		1面段下・根乱	石刃?	6.5	1.8	5.5	
第16図	16	414	2A		F9-b6	2層	削器?	4.7	2.3	1.2	
第16図	17	62	1	1B		両面精査	両面調整石器	5.5	5.3	1.2	二次加工あり
第16図	18	402	2	2B③		1層	剥片	3.4	3.3	0.8	二次加工あり
第16図	19	423	2	2B		3面	剥片	6.0	3.2	1.2	二次加工あり
第16図	20	338		1B②(4)		3面・ビット270	剥片	3.3	1.5	0.7	二次加工あり
第16図	21	288	1	1B②(4)		3面・溝85	剥片	3.2	2.0	0.6	両極打法・楔形石器?
第16図	22	413	1	2A	F9-a5/6	2層	剥片	3.8	1.9	1.1	両極打法・楔形石器?
第16図	23	385		1B④		3面	剥片	3.4	2.8	0.5	二次加工あり
第16図	24	358		1B③		3層	剥片	2.1	2.7	0.8	二次加工あり
第16図	25	31	1A		F9-f6	1層	剥片	2.7	2.9	0.6	二次加工あり
第16図	26	438	2A			3面	剥片	3.0	3.1	1.0	二次加工あり
第16図	27	157	1A		F9-d5	2-2層	剥片	2.8	2.7	0.8	二次加工あり
第16図	28	68	1A		F9-e4	2-1層	剥片	2.9	2.8	0.7	二次加工あり
第16図	29	101		1B①	F9-c9	1-1層	剥片	4.0	4.0	0.9	水摩痕・二次加工あり
第16図	30	451		2B②	F10-b1	3層	剥片	2.9	4.6	1.1	二次加工あり
第16図	31	464	2B①		F9-a7/8	2層	剥片	6.5	4.8	1.3	削器?
第17図	32	364	1A			東側削溝	剥片	3.0	4.0	0.8	
第17図	33	136	1B			2-1面	剥片	2.8	4.1	0.7	
第17図	34	395	3	2B②		2面	剥片	3.1	4.1	0.8	
第17図	35	100	1B		F9-d7	1-2層	剥片	3.0	3.6	0.8	ローリング
第17図	36	311	3	1B①	F9-e10	3層	剥片	2.6	4.3	1.0	
第17図	37	172	2	1B①(2)	F9-c8	2-2層	剥片	2.3	4.3	1.0	
第17図	38	467	2	2B①(3)	F9-a7	2層	剥片	2.3	4.1	1.2	
第17図	39	467	1	2B①(3)	F9-a7	2層	剥片	2.3	4.6	0.8	
第17図	40	47	2	1A	F9-c5	1層	剥片	2.8	5.0	0.9	
第17図	41	333	2	1B④		3層	剥片	2.6	4.4	1.7	
第17図	42	172	1	1B①(2)	F9-c8	2-2層	剥片	2.0	5.9	0.7	
第17図	43	327	2A			西側削溝	剥片	3.3	4.8	0.8	ローリング
第17図	44	395	4	2B		2面	破石	4.9	4.8	3.0	熱成鉈痕あり
第17図	45	371	2A		E9-j6	1層	石核	5.0	5.6	2.6	
第17図	46	62	2	1B		1面	?	8.0	1.9	1.9	チャート
第18図	47	415		2B③		2面	剥片	3.3	3.1	0.9	

図版No	登録実測No	調査区	地区	層位・遺構	器種名	最大長	最大幅	最大厚	備考	
第18回	48	490	2B②	3面石列付近	刮片	4.0	3.1	0.8		
第18回	49	359	1B	3層	刮片	4.4	2.8	1.4		
第18回	50	256	1B③④	F10-e1	2-2層	3.4	2.6	0.8		
第18回	51	446	2B③	F9-b8	2層	4.3	4.2	0.8		
第18回	52	294	1B	3面・溝139	刮片	3.5	4.4	1.0		
第18回	53	440	2 2B①	E9-j8	2層	3.8	2.4	0.7		
第18回	54	546	2C	3面・溝420	刮片	6.8	5.2	1.4	風化著しい	
第18回	55	250	1B③④	F9-c10	2-2層	5.7	5.3	1.6	ローリング	
第18回	56	315	1 1B③④		5面	5.6	6.0	1.8	一部二次加工あり	
第18回	57	434	2B③	F9-b7	2層	6.1	5.1	1.0	一部二次加工あり	
第18回	58	315	2 1B③④		5面	5.0	6.5	1.7		
第19回	59	532	2C	3層・流路460	刮片	2.1	1.5	0.2		
第19回	60	344	2 1B④		4層	2.3	4.4	1.3		
第19回	61	345	2 1B③④		4面・250ピット	刮片	1.5	2.0	0.2	
第19回	62	346	2 1B③④		3面・ピット282	刮片	1.3	1.7	0.1	
第19回	63	402	1 2B③		1層	1.9	1.5	0.3		
第19回	64	346	1 1B③④		3面・ピット283	刮片	1.3	1.5	0.2	
第19回	65	477	2B①		3面・溝401	刮片	2.4	2.2	0.3	
第19回	66	345	1 1B③④		4面・ピット250	刮片	1.0	2.7	0.3	
第19回	67	362	1B③④		3面・ピット270	刮片	2.0	1.8	0.3	
第19回	68	47	1 1A	F9-c5	1層	1.3	1.9	0.5		
第19回	69	344	1 1B④		4層	1.6	1.4	0.5		
第19回	70	312	2 1B	F10-e1	3層	1.9	2.9	0.5		
第19回	71	333	1 1B④		3層	2.2	3.0	0.7	熱成績？	
第19回	72	458	2A	F9-a6	2層	3.1	2.5	1.1		
第19回	73	529	2B③	F9-b7	3面	3.3	1.9	1.1		
第19回	74	440	1 2B①	E9-j8	2層	3.0	2.5	0.8		
第19回	75	554	2 C		縹文谷	5.3	3.8	1.0		
第19回	76	104	1B①		1-2面	4.2	2.8	0.6		
第19回	77	303	1B①②		5面	2.0	3.0	0.3		
第19回	78	357	2A	F9-a6	1層	2.2	3.0	0.7		
第19回	79	526	2B③	F9-b7	3面	2.2	3.1	0.6		
第19回	80	549	2C②	F10-b1	3層	1.7	2.7	0.7		
第19回	81	423	1 2B		3面	1.1	4.1	0.7		
第19回	82	554	3 2C		縹文谷	3.2	3.4	0.4		
第19回	83	290	1B③④		3層	2.2	3.6	0.7		
第19回	84	436	2B	F9-b8	2層	2.8	3.2	7.0	風化著しい	
第19回	85	395	2 2B③		2面	3.0	2.4	0.6	風化著しい	
第19回	86	341	1B③④		3層	2.3	2.8	0.6		
第19回	87	328	2A		東側斜溝	2.8	1.9	0.3		
第19回	88	312	1 1B③④	F10-e1	3層	2.6	2.6	1.1	両板打法・楔形石器？	
第19回	89	93	1A	F9-c6	2-2面	3.3	1.8	0.4		
第19回	90	554	1 2C		縹文谷	4.1	2.0	0.6		
第19回	91	441	1 2B①	F9-a8	2層	3.9	2.2	1.1		

表4 国道1号バイパス（大阪北道路）・第二京阪道路建設事業に伴う既往の埋蔵文化財確認調査一覧表

調査道路・地区名	所在地	調査年度	調査期間	参考文献・収録考察・本調査着手事業
三ツ島遺跡	門真市三ツ島 地先	H8年度	1996年12月26日～ 1997年3月31日	【文 紘】「三ツ島遺跡～一般国道1号バイパス（大阪北道路）建設に伴う 門真市三ツ島地区埋蔵文化財確認調査報告書」第997.03.31
四宮地区	門真市上馬伏～横 地 先	H10年度	1998年12月26日～ 1999年3月31日	【文 納】「長尾台地区、移水室地区、津田城遺跡、有池遺跡、門真遺跡 群～一般国道1号バイパス（大阪北道路）建設に伴う埋蔵文化 財確認調査報告書」第61集 2001.03.31
長尾台地区	枚方市長尾台 4丁目 地先	H10年度	1998年3月9日～ 5月29日	【考 察】「大阪府門真遺跡群中央部における完新世中頃以後の三角州 と湿地の発達」
津田城遺跡	枚方市津田 地先	H11年度	1999年7月20日～ 11月30日	【本調査】平成12年度／津田城遺跡 平成14年度／有池遺跡
移水室地区	枚方市移 地先	H11年度	1999年12月21日～ 2000年3月31日	
有池遺跡	交野市青山 地内	H11年度	1999年1月25日～ 2001年3月31日	
移谷遺跡	枚方市長尾台 3丁目 地内	H12年度	2000年12月26日～ 2001年1月26日	【文 納】「杉谷貢遺跡～第二咲町枚方遺跡群（杉地区）」 発掘調査報告書～第82集 2002.10.31
譲良都条里遺跡 (確認)	寝屋川市高宮 四条畷市移地先	H12年度	2000年11月16日～ 2001年3月23日	【文 納】「譲良都条里遺跡、小路遺跡、打上遺跡、舟子作遺跡、阪大 丸谷遺跡・長尾跡群、長尾東地区～一般国道1号バイパス（大 阪北道路）建設に伴う埋蔵文化財確認調査報告書～」第77集 2002.08.31
小路遺跡・高宮遺跡 ・大尾遺跡	寝屋川市高宮 ・小路・国守町地 先	H12年度	2000年11月15日～ 2001年3月21日	【考 察】「譲良都条里遺跡について ～寝屋川流域の譲良都条里の再確認～」 「舟子作上の山道跡の歴史環境」 「高宮・小路遺跡から譲良都条里の沖積堆積状況」
打上遺跡・太秦遺跡 ・太古占墳群	寝屋川市打上 地先	H12年度	2000年11月16日～ 2001年2月28日	【本調査】平成13年度／小路遺跡(高宮地区) 小路遺跡(大尾地区) 打上遺跡(太古占墳群) 譲良都条里遺跡(その1～その3) 平成14年度／高宮遺跡(その2～その3) 小路遺跡(その2～その3) 譲良都条里遺跡(その4～その6)
舟子作遺跡・ 上の山道跡	枚方市舟子作南町 ・交野市私邸	H12年度	2000年5月1日～ 9月25日	
藤阪大龜谷遺跡・ 長尾空塙群	枚方市長尾台 地先	H12年度	2000年6～7月 2000年10～11月	
長尾東地区	枚方市長尾台 地先	H12年度	2000年6～7月	
長尾東地区 (確認 その2)	枚方市長尾台 地先	H13年度	2001年5月16日～ 2002年3月31日	
譲良都条里遺跡 (確認 その2)	寝屋川市高宮・新家・ 四条畷市移地先	H13年度	2001年6月19日～ 11月30日	【文 納】「門真西地区、譲良都条里遺跡西地区、譲良都条里遺跡、大尾 遺跡・太秦遺跡・太古占墳群、打上遺跡、寝屋南遺跡、寝屋東 遺跡、私邸南遺跡、東倉治遺跡、津田城遺跡東地区～一般國 道1号バイパス（大阪北道路）建設に伴う埋蔵文化財確認調査 報告書～」第93集 2003.02.28
門真西地区 (確認 その2)	門真市北東本町 地先	H13年度	2001年11月20日～ 2002年3月23日	
門真西地区 (確認 その2)	門真市三ツ島 地先	H13年度	2002年2月15日～ 3月25日	
譲良都条里遺跡 西地区(確認)	門真市北東本町 地先 他	H13年度	2001年11月120日～ 2002年3月25日	【考 察】「高宮・小路～譲良都条里遺跡における沖積地堆積状況」
譲良都条里遺跡 (その3)	寝屋川市新家2丁 地先	H13年度	2001年11月17日～ 2002年3月25日	
太秦・大尾・ 太古占墳群	寝屋川市守国町	H13年度	2002年3月19日～ 6月30日	【本調査】平成13年度 太古占墳群 平成14年度 寝屋東遺跡 平成15年度 譲良都条里遺跡(その7～その9)
打上遺跡・ 寝屋南遺跡	寝屋川市寝屋 地内 他	H13年度	2001年6月19日～ 10月31日	
寝屋東遺跡 (確認 その2)	寝屋川市寝屋 地内 他	H13年度	2001年1月16日～ 2002年2月28日	
寝屋東遺跡 (確認 その2)	寝屋川市寝屋 地内 他	H13年度	2002年2月15日～ 3月25日	
私邸南遺跡	交野市私邸南 1丁目 地先 他	H13年度	2001年9月5日～ 2002年3月15日	
東倉治遺跡	交野市私邸南1丁 地先 他	H13年度	2001年9月5日～ 2002年3月25日	
津田城遺跡東地区	枚方市津田東町 3丁目 地先 他	H13年度	2001年8月10日～ 12月25日	
門真西地区 (確認 その3)	門真市北島 地先	H14年度	2002年10月1日～ 11月29日	
譲良都条里遺跡 西地区(確認その2)	寝屋川市北東本町・ 譲良西町	H14年度		【文 納】「譲良都条里遺跡西地区、譲良都条里遺跡、寝屋南遺跡、寝屋 東遺跡、倉治遺跡、津田城遺跡～一般国道1号バイパス（大阪 北道路）・第二京阪道路建設に伴う埋蔵文化財確認調査報告書 ～」第101集 2003.09.30
譲良都条里遺跡 (確認 その4)	寝屋川市譲良東町 地先	H14年度		
寝屋南遺跡西地区	寝屋川市寝屋 打上 地内	H14年度		
寝屋東遺跡 (その3)	寝屋川市寝屋 地内	H14年度		
倉治遺跡 (その2)	交野市青山・ 東倉治 地内	H14年度		
津田城遺跡 (その2)	枚方市津田南町 地先	H14年度		

参考文献

第1章 調査に至る経緯と調査方法

- (財)大阪府文化財センター調査報告書第77集 『讚良郡条里遺跡、小路遺跡、打上遺跡、茄子作遺跡、藤阪大亀谷遺跡・長尾窓跡群、長尾東地区～一般国道1号バイパス（大阪北道路）建設に伴う埋蔵文化財確認調査報告書～』
2002.08.31
- (財)大阪府文化財センター調査報告書第93集 『門真西地区、讚良郡条里遺跡西地区、讚良郡条里遺跡、大尾遺跡・太秦遺跡・太秦古墳群、打上遺跡、寝屋南遺跡、寝屋東遺跡、私部南遺跡、東倉治遺跡、津田城遺跡東地区～一般国道1号バイパス（大阪北道路）建設に伴う埋蔵文化財確認調査報告書～』 2003.02.28
- (財)大阪府文化財センター調査報告書第101集 『讚良郡条里遺跡西地区、讚良郡条里遺跡、寝屋南遺跡、寝屋東遺跡、倉治遺跡、津田城遺跡～一般国道1号バイパス（大阪北道路）・第二京阪道路建設に伴う埋蔵文化財確認調査報告書～』
2003.09.30

第2章 調査地周辺の地理と環境

- 寝屋川市役所 『寝屋川市誌』 1966.10.25
- 寝屋川市史編纂委員会 『寝屋川市史 第1巻』 1998.03.31
- 日本歴史地名体系第28巻「大阪府の地名」 1986 平凡社

第4章 調査成果

- 中世土器研究会編 『概説 中世の土器・陶磁器』 1995.12.09 真陽社
- 古代の土器研究会編 『古代の土器4 煮炊具（近畿編）』 1996.09.30 真陽社
- 山岸洋一 「縄文前期「特殊凸帯文土器」細分の可能性—文様の施文技法の検討を中心に—」（『信濃』第48巻第4号）
1996
- 一瀬和夫 「高宮遺跡古代大型建物群の調査」（『大阪府埋蔵文化財研究会（第47回）資料』） 2003.09.27
- M.=L.Inizan・H.Roche・J.Tixier著、大沼克彦・西秋良宏・鈴木美穂訳『石器研究入門』1998.07.20 クバプロ

第5章 自然化学分析報告

- 中村後夫 「放射性炭素年代測定法の基礎.日本先史時代の14C年代」 p.3-20. 2000
- Stuiver, M. and Reimer, P. J. 『 Extended 14C Database and Revised CALIB3.0 14C Age Calibration Program, Radiocarbon, 35』 p.215-230. 1993
- Stuiver,M., Reimer,P.J., Bard,E., Beck,J.W., Burr,G.S., Hughen,K.A., Kromer,B., McCormac,F.G., v.d. Plicht,J., and Spurk,M. 『 INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration. 24,000-0 cal BP. Radiocarbon, 40』 p.1041-1083. 1998

報告書抄録

ふりがな	たかみやいせき その2						
書名	高宮遺跡(その2)						
副書名	一般国道1号バイパス(大阪北道路)・第二京阪道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ名	財団法人 大阪府文化財センター 調査報告書						
シリーズ番号	第112集						
編著者名	黒須亜希子・宮本飛鳥						
編集機関	財団法人 大阪府文化財センター						
所在地	〒590-0105 大阪府堺市竹城台3丁21-4 大阪府教育委員会文化財調査事務所3階						
発行年月日	2004年3月31日						
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因	
たかみやいせき 高宮遺跡	ねやがれい たかみやいせき 寝屋川市高宮・小路	27215 37	34° 45' 02"	135° 38' 26"	平成14年 5月～11月	一般国道1号 バイパス(大阪北道路)・ 第二京阪道路建設	
所取遺跡名	遺跡種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
高宮遺跡	集落 生産地(水田)	縄文時代 古墳時代 古代(奈良・平安) 中世 近世	谷流路 周溝墓 掘立柱建物 水田 土器埋納土坑	縄文土器 石器(ナイフ 形石器・石礫・石匙・石槍) 土師器、須恵器、施釉 陶器、瓦器、磁器、瓦、墨 書き土器、木製品(曲物、柵)			

財団法人 大阪府文化財センター調査報告書 第112集

高宮遺跡(その2)

一般国道1号バイパス(大阪北道路)・第二京阪道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行年月日:2004年3月31日

編集・発行:財団法人 大阪府文化財センター

〒590-0105 大阪府堺市竹城台3丁21番4号

大阪府教育委員会文化財調査事務所3階

TEL 072-299-8791 FAX 072-299-8905

印刷・製本:株式会社 三協印刷社

写 真 図 版



1. 1 A区第2面（近世～近代）全景 （北東から）



2. 2 A区第2面（近世～近代）全景 （北東から）

写真図版2



1. 1B区第1面（近世）全景 （西から）



2. 1B区第3面（古代～中世）全景 （西から）



1. 1A区第3面（中世）建物1検出状況 （北東から）



2. 1A区井戸41・土坑42・井戸43検出状況 （南東から）

写真図版4



1. 土坑40遺物出土状況
2. 井戸43瓦器椀出土状況

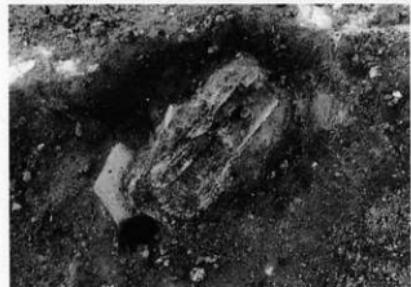
3. 井戸43木製槽出土状況
4. 井戸43石・土器皿出土状況



5. 井戸43曲物出土状況 (東から)



1. B区第4面（古墳時代後期～古代）全景　（北から）



2. 土坑85馬齒出土状況
3. 土坑368土師器壊出土状況



4. 土坑400断ち割り状況
5. 土坑400土師器皿出土状況

写真図版6



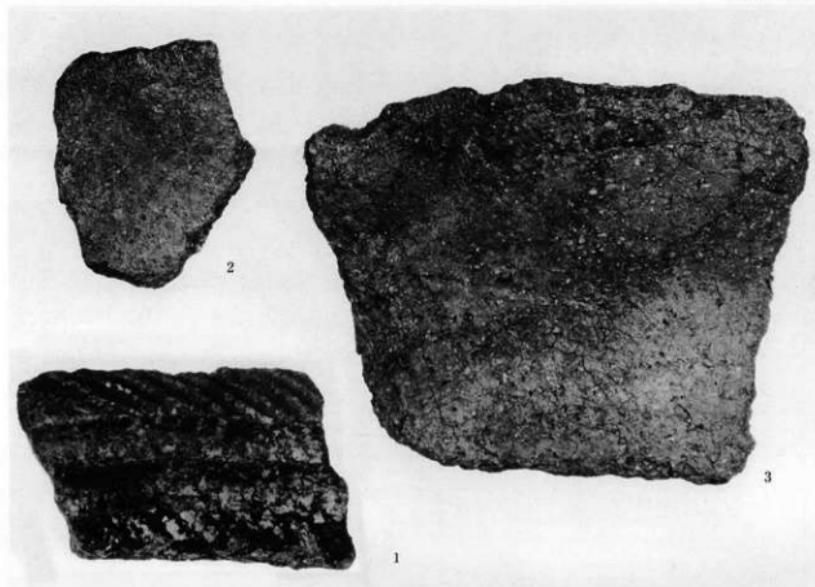
1. 1B区第5面（縄文時代）流路完掘状況（西から）



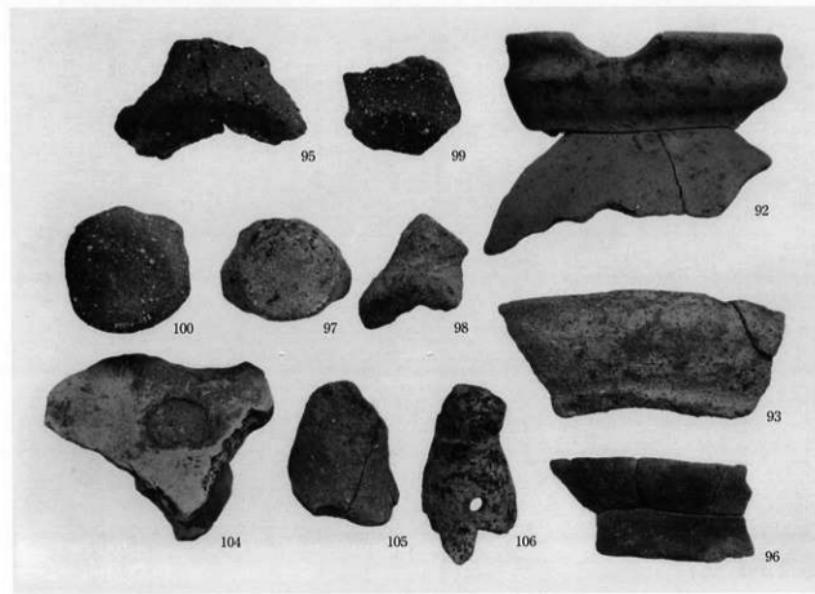
2. 須恵器坏蓋出土状況
3. 溝420上層石列検出状況



4. 周溝墓2供獻土器出土状況
5. 縄文谷風倒木検出状況

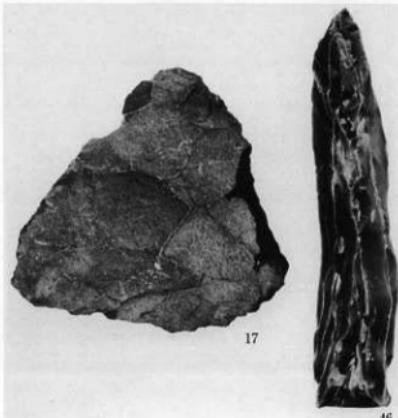
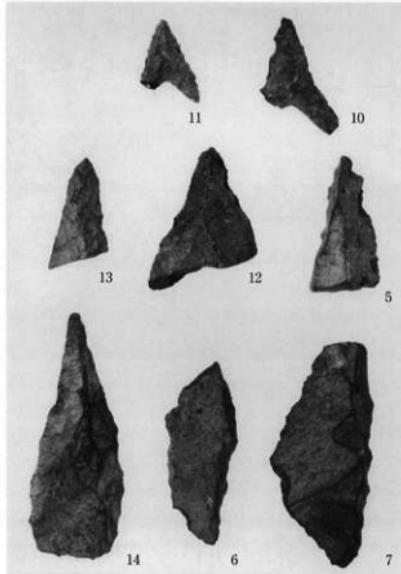
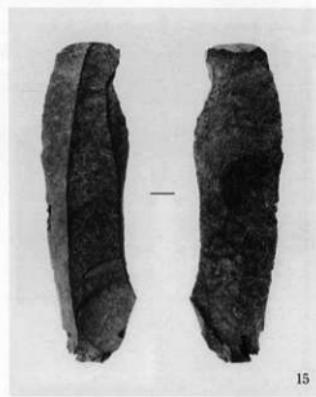
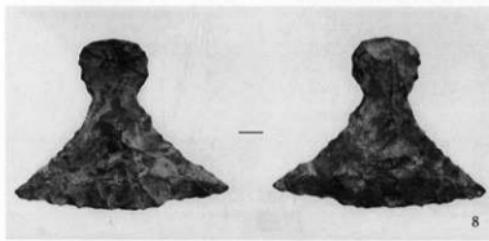


1. 出土遺物（縄文土器）

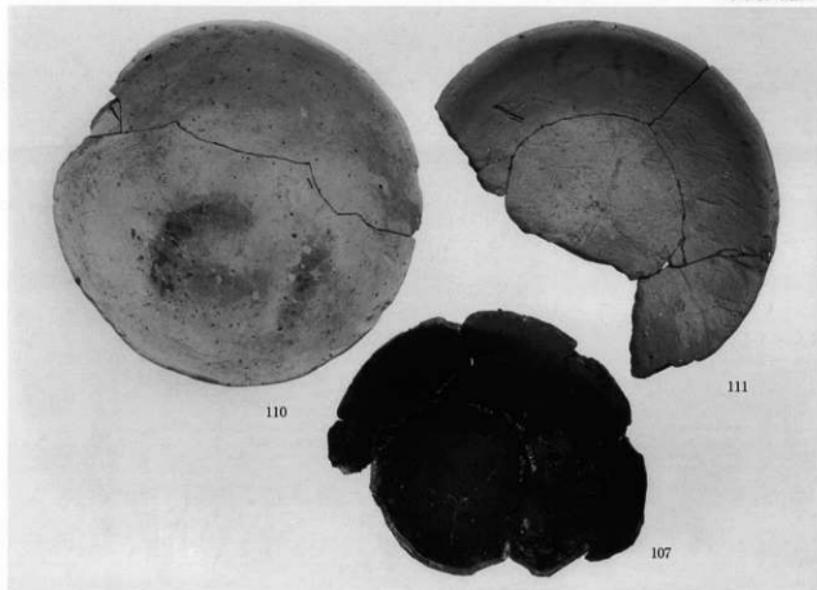


2. 出土遺物（弥生土器・土師器）

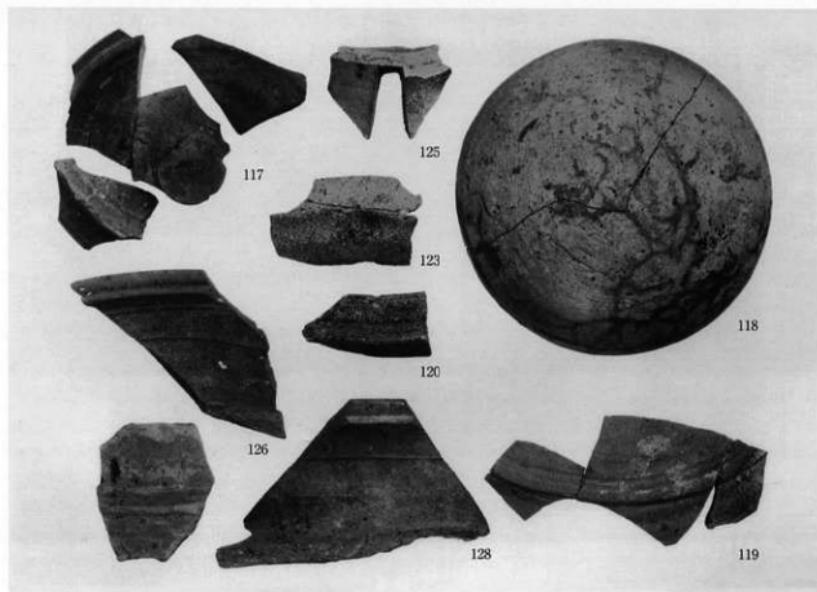
写真図版8



1. 出土遺物（石器）

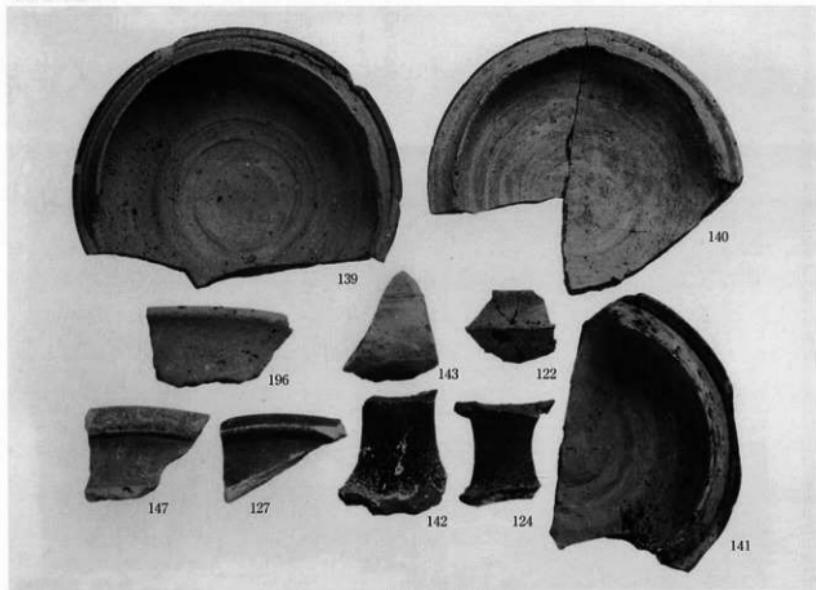


1. 出土遺物（土師器）

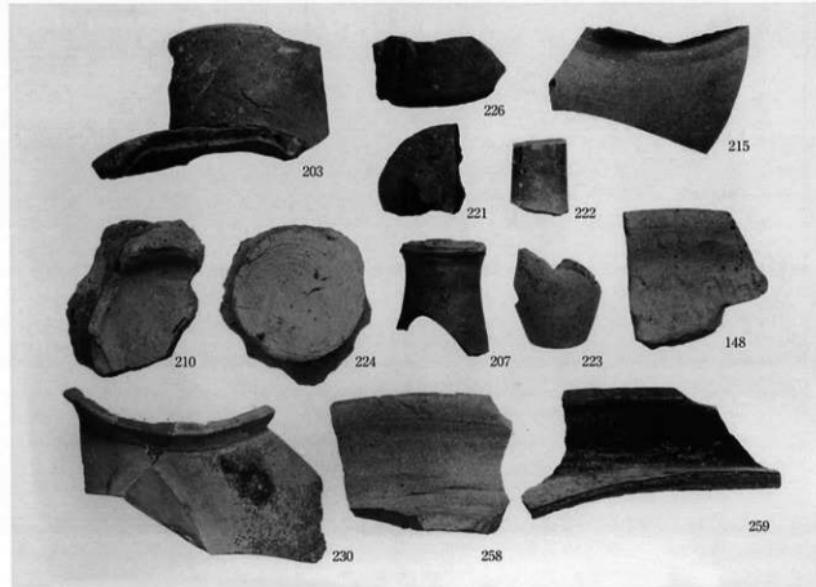


2. 出土遺物（須恵器 1）

写真図版10



1. 出土遺物（須恵器 2）



2. 出土遺物（須恵器 3）